



RYUKOKU
UNIVERSITY

You, Unlimited

Ryukoku University

Course Guide

履修要項

国際文化学科

Faculty of
International Studies

国際学部

入学生用

2024

龍谷大学国際学部 国際文化学科

2024年度入学生用履修要項

『履修要項』は卒業まで使用しますので、大切に保管し、活用してください。

また、『履修要項』配付後に発生した変更、学年暦、各種日程、各学部 窓口事務及び、学部共通の各教育プログラム・諸課題については、履修要項WEBサイトを通じてお知らせします。

〈履修要項WEBサイト〉

<https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

※ポータルサイトからもアクセス可能です

(お気に入り登録しておくとう便利です)



学部・学科英文名

龍谷大学 Ryukoku University

国際学部 Faculty of International Studies

国際文化学科 Department of Intercultural Communication

国際学部の学生の皆さんへ

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんのご入学を心から歓迎いたします。そして、国際学部へようこそ！

世界に通用するコミュニケーション能力と教養を兼ね備えた人材を育成するために、国際学部は、2学科から構成されています。異なる文化間をつなぎ、よりよい世界の実現に向けた対話を促すファシリテーター（促進者）を育成する「国際文化学科」、そして外国語運用能力を含む豊かなコミュニケーション能力と教養を国際舞台で活かし、リーダーシップを発揮できる人材を育成する「グローバルスタディーズ学科」です。みなさんはすでに本学部については入学前にいろいろと調べられているでしょうし、詳しいことはこの冊子の中に詳しく説明されていますので、ここでは、みなさんにどのような心づもりで大学の学びを経験して欲しいかという点についてご説明したいと思います。

第一に、世界は急激なスピードで変化していることを覚えておいてください。いまから20年先の世界は誰にも想像できません。いま言えるのは、20年後の世界は、いまとは全く異なっているであろうという事だけです。ですから、したり顔で「君の将来のために、苦しくても君はこれをすべきだ」と話しかけてくる（自称）大人を絶対に信じてはいけません。そう言う事を言う人は、絶対にみなさんの将来に責任を持ってくれません。みなさんは、自分で生きていく必要があるのです。そのためには、自分自身の力をつける事が肝要です。大学での学びはみなさんに必要な力を与えてくれます。

第二に、笑顔を忘れないでください。これは小学校の教員が児童たちを見下げながら話すようなものではありません。それは、礼儀でも社会常識などというものでもありません。私がお伝えしたいのは、楽しくなければ良い学びはできないという事です。いろいろな事を学ぶのは本当に楽しいものです。そのために、本学部の4年間で心から楽しいと思う事を見つけてください。それは研究かも知れませんが、趣味かも知れません。いずれにしろ、楽しいと思うことを精一杯学んでください。そうすれば、自然と笑顔になります。そして笑顔は間違いなくあなたに人間的な成長をもたらしてくれます。

第三に、人との繋がりを大切にしてください。私たちの人生は多くの関係によって成り立っています。そして、いろんな関係は人生を豊かにしてくれます。そのためにはコミュニケーション能力を養ってください。海外は日本よりも強烈的なコネ社会です。それは出身高校や出身大学などのコネに頼る日本社会とは比べ物にならないぐらいの個人ベースのコネ社会です。あなたが頑張れば、出身高校や出身大学とは関係なく周りの人たちと良い関係を作れるでしょう。逆に自分の高校や大学を頼りにして生きて行こうとすれば、誰も相手にしてくれないでしょう。（だから日本の政治や外交は世界的に通用しないのだと思います）あなたが卒業した学校や大学の名前なんて、海外に行けば何の意味もありません。逆にあなたに繋がって行く能力があれば、自然と道は開けます。

最後に、常に外に開いていてください。新しい情報は開いていないと入ってきません。いろんな人と繋がるにも開いていることが重要です。みなさんが自分を開く事ができれば、必ず新しい関係ができます。新しい関係は新しい知識をもたらしてくれます。新しい知識はみなさんに力を与えてくれます。そのためにも、常に笑顔を忘れずに。

この4年間の皆さんの学業生活が実り豊かなものとなるよう、積極的にさまざまな事に取り組んでください。私たち教員も事務職員も、皆さん一人一人の頑張りに期待し、必要なサポートを提供していきます。

2024年4月

国際学部長
清水 耕介

2024年度入学生用 龍谷大学国際学部国際文化学科 履修要項 目 次

学生のみなさんへ

学年暦

龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の教育理念・目的

学部・研究科の「教育理念・目的」と3つの方針策定の基本方針

国際学部の教育理念・目的

卒業認定・学位授与の方針

教育課程編成・実施の方針

文化の多様性に接する学内環境の整備

学生支援の方針

ガイダンス

大学からの連絡・通知

休講・補講・教室変更情報

第1部 履修の心得

I 履修をはじめるとあって

1. 長期的な履修計画を立てること…………… 2
2. 系統的に科目を履修すること…………… 2
3. 自主的に学修をすること…………… 2
4. オフィスアワー…………… 2

II シラバス

1. シラバスとは何か…………… 4
2. シラバスに記載されている情報…………… 4
3. シラバスの利用方法…………… 4

III 単位制度と単位の認定

1. 単位制度…………… 5
2. 履修登録制度…………… 6
3. 授業科目の履修…………… 6
4. 授業時間…………… 6
5. 卒業要件単位および学士号…………… 7
6. 入学前に修得した単位の認定…………… 8

IV 授業科目の開設方法

1. セメスター制…………… 9
2. 授業科目の開講形態…………… 9
3. 週2回授業科目の開講方法…………… 10
4. オンライン授業について…………… 10
5. 授業科目と授業テーマ…………… 13
6. 先修制…………… 13
7. 科目ナンバリング…………… 14

V 履修登録

1. 履修登録手続スケジュール…………… 16
2. 履修登録制限単位数…………… 16
3. 予備・事前登録…………… 17
4. 履修登録要件…………… 17
5. 履修辞退制度…………… 18
6. 配当セメスターの考え方…………… 19

VI 成績評価

1. 成績評価の方法…………… 20
2. 成績評価の基準…………… 20
3. GPA 制度…………… 21
4. 成績疑義…………… 21
5. 筆答試験の時期…………… 21
6. 受験資格…………… 21
7. 受験の注意事項…………… 22
8. 答案の無効…………… 22
9. 筆答試験における不正行為…………… 22
10. レポート試験における不正行為…………… 23
11. 追試験…………… 23
12. 筆答試験時間…………… 24

第2部 教育課程

I 教育課程の編成方法

- カリキュラム概念図…………… 26
1. 授業科目の区分…………… 27
 2. 必修科目、選択必修科目、登録必修科目、
選択科目、随意科目…………… 27
 3. クラスの編成…………… 27
 4. 国際ツーリズムプログラム…………… 27

II 教養教育科目の教育目的および履修方法

1. 教養教育とは…………… 28
 - (1) 教養教育の理念・目的
 - (2) 教養教育科目とは
2. 「仏教の思想」科目…………… 29
3. 教養科目…………… 31
4. 予備登録について…………… 32

III 国際文化学科での学びとその流れ

1. 1年次…………… 33
2. 2年次…………… 34
3. 3年次および4年次…………… 35

IV 科目区分と卒業に必要な単位数	
1. 学科外国語科目	36
2. 教養教育科目	37
3. 学科基礎科目	37
4. 学科専攻科目	37
5. フリーゾーン	38
6. 単位互換科目、教職課程、博物館学芸員課程、 本願寺派教師資格課程など	38

V 国際ツーリズムプログラム (International Tourism Program) について	
1. 制度の概要	39
2. 修了要件	39

VI キャリア教育とキャリアデザイン	
1. 想定する進路	40
2. キャリア科目	40
3. その他	41

VII 履修方法・履修上の注意点	
1. 必修外国語の履修方法	43
2. 学科専攻科目の科目群について	45
3. 国際ツーリズムプログラム (ITP) について	46
4. 専門演習および卒論演習について	46
5. 国際文化Study Projectについて	46
6. 必修科目の再履修について	46
7. 開設科目	47

VIII 卒業論文・卒業制作	
1. 執筆および提出について	60
2. 評価方法および注意事項	61

IX その他の教育課程・教育プログラム	
1. データサイエンス・AIリテラシープログラム	62
2. 留学／国際交流プログラム・単位互換制度・ 各種ランゲージスタディエリア実習プログラム	63

第3部 諸課程

I 諸課程	
1. 諸課程	68
2. 特別研修講座・各種講座・試験	69

第4部 学修生活の手引き

I 窓口事務・保健管理センター・ 障がい学生支援室	
1. 窓口事務	72
2. 保健管理センター	72
3. 障がい学生支援室	72
II 授業等の休講措置に関する取扱基準	73
III 学籍の取り扱い	
1. 学籍とは	74
2. 学籍簿	74
3. 学生証	75
4. 学籍の喪失	76
5. 休学と復学	76
6. 再入学	77
7. 編入学・転入学	77
8. 9月卒業	78

第5部 Q&A

登録・履修・試験について	80
留学制度・留学生について	83
証明書について	85
学籍について	87
学生生活について	88
こんな場合には?	90

第6部 教員

国際学部 専任教員名簿	94
国際文化学科 専任教員紹介	95

第7部 付録

学舎・教室見取図	110
留学サポートデスクについて	135
学生支援・対応の方針 (国際学部教務課)	135

学生のみなさんへ

この履修要項は、龍谷大学国際学部国際文化学科において開設されているすべての授業科目を紹介し、みなさんが卒業するまでに履修・修得しなければならない単位数、履修方法、その他有意義な学修のために必要な事項を説明しています。この要項を熟読し、明確な学修目的をもって系統的に履修してください。学期の始めには、履修に関する詳細なガイダンス（履修説明会）が行われますのであわせて利用してください。それでもなお、不明な点があれば国際学部教務課窓口でたずねるようにしましょう。

2024年4月

学 年 暦

学年暦として、大学行事、授業日、休日の授業実施日、定期試験期間、休業期間などの日程を定めています。毎年度変更となりますので、履修要項WEBサイトで必ず確認してください。

〈履修要項WEBサイト〉

<https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

※ポータルサイトからもアクセス可能です。

（お気に入り登録しておくとう便利です。）



龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。

浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみをつくり出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観点・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができるのです。

本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心として以下5項目にまとめています。これらはみな、建学の精神あってこそその心であり、生き方です。

- すべてのいのちを大切にする「平等」の心
- 真実を求め真実に生きる「自立」の心
- 常にわが身をかえりみる「内省」の心
- 生かされていることへの「感謝」の心
- 人類の対話と共存を願う「平和」の心

龍谷大学の教育理念・目的

建学の精神に基づき「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成する。

[学部・研究科の「教育理念・目的」と3つの方針（「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針]

龍谷大学の教育理念・目的を実現するために設置された学部・研究科は、広く社会に貢献できる教養教育・専門教育及びより高度な専門教育・研究を体系的かつ組織的に行うにあたり、各学問分野の独自性を活かしつつ、社会の要請等を踏まえた教育理念・目的を掲げ、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針を一体的に策定する。

国際学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、異文化への理解と敬意を深めるとともに、自文化についての発信力を養い、グローバル化が加速する時代において、柔軟な思考と批判的精神をもって対応できるコミュニケーション能力と問題解決能力を備えた人間を育成することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針 [学士（国際文化学）]

国際学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法を次に掲げる。

〈国際学部（国際文化学科）の学生に保証する基本的な資質・能力〉

- 教養教育科目により保証する資質・能力
 - 専攻科目により保証する資質・能力
- ①：建学の精神の具現化
- 建学の精神の意義について理解している。
- ②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得
- 諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。
 - 日本を含む世界の様々な国、地域、宗教等における文化の多様な側面を理解することができる。
 - 日本語および外国語で書かれた文献資料等を調査し、かつ、批判的に読み解くことができる。
 - 英語をはじめ、任意の外国語をその文化的背景も含めて学び、かつ、実践的に活用することができる。
 - 「世界と日本をつなぐ」上で求められる、言語・人文・社会科学にわたる幅広い教養を身につけている。
 - 社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通した持続的な就業力を身につけている。
- ③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上
- 幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。
 - フィールド調査など実践的な授業や活動を通じて、異なる文化間に生じる諸問題を発見し、解決する上で役立つ実践的な経験を持っている。
 - 異なる文化の独自性を尊重できると同時に、自らが所属する文化の特質や意義を認識している。
 - 異なる文化間に内在する課題を発見し、互恵的・建設的な解決策を論理的に導く能力を持っている。
 - レポートや卒業論文など、一定の書式に沿って自己の主張をまとめることができる。

④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

- 世界の様々な国、地域における言語や文化に対する幅広い関心と、飽くなき探究心を持っている。
- 国際的な諸問題と深く関わる世界三大宗教（仏教・キリスト教・イスラーム教）に対する関心を持っている。
- 日本社会や日本文化の歴史的な蓄積を理解した上で、現代的な諸課題に対する関心を持っている。
- 複雑化、多様化する国際社会の状況を踏まえ、一面的に物事を捉えない視座を持っている。
- 自らの所属する文化を常に相対的に眺め、様々な文化を優劣関係で捉えない寛容な精神を持っている。
- 常に他者の立場に配慮しながら、主体的に物事に対して思考・判断・行動することができる。

〈学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法〉

1. 学部にて4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認められた者については、3年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。

教育課程編成・実施の方針

国際学部の教育理念・目的および卒業認定・学位授与の方針に明示した「基本的な資質・能力」をすべての学生が獲得できるように、教養教育科目および専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学習目標に柔軟に対応できるように学習環境・支援体制を整備する。併せて、国際学部の教育理念・目的を実現するために、常に文化の多様性と複雑さに接することができる環境を整備する。

〈国際学部（国際文化学科）の教育内容〉

- 教養教育科目にかかる教育内容
- 専攻科目にかかる教育内容

①：建学の精神の具現化

- 建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。

②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得

- 諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。
- 外国語運用能力を涵養するため、1年次には週5回、2年次には週3回の「学科外国語科目」（英語・中国語・韓国語・フランス語から選択）を開講する。
- 2年次から「学科専攻科目」として、学科外国語科目で提供した外国語に加えて、さらに多様な外国語科目（ペルシア語、トルコ語、アラビア語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、ポルトガル語）を配置する。
- 大学での学びの基礎を確立するため、「リサーチセミナーⅠ」および「リサーチセミナーⅡ」（各2単位）を1年次に展開する。
- 今後の学びにとって重要な学修スキルを身につけるため「調査分析の基礎A・B」を設ける。
- 世界的規模で拡大する観光需要をふまえ、学術・実務の両面から観光と文化について学びを深める「国際ツーリズムプログラム」を1年次から展開する。
- 社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するため、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開講する。

- ③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上
- 幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の教養科目(人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系)を開講する。
 - 「世界を学び、私を知る」という学科の理念に基づき、また、国内外の多様な文化を結ぶファシリテーターを育成するため、『比較宗教』、『地域研究』、『人間と共生』、『メディアと社会』、『芸術・表現』の5科目群を設ける。
 - 各科目群では、学問領域を系統的に学修できるよう、入門的科目等の基礎科目、専攻科目をバランスよく配置してカリキュラムを展開する。
 - 3年次からは「専門演習A」(必修、2単位)および「専門演習B」(登録必修、2単位)を開講し、各自の興味あるテーマについての学びを深める。
 - 4年次に「卒論演習A・B」(各3単位)または「国際文化Study Project A・B・C・D」(各2単位)を履修し、学びの成果の結実を目指す。これにより、一貫して専任教員の下で専門的かつ体系的な教育を受けることを可能とする。
- ④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上
- 留学生を積極的に受け入れ、また、充実したサポート体制の下に学生の海外留学(交換留学および私費留学)を推奨し、語学力向上とともに、授業内外での異文化理解の促進、異文化交流機会の拡充に努める。
 - 他受講者や社会との関わりを持つことのできる国際または文化をテーマとした実践的な取り組みの機会として、「リサーチセミナーⅢ」および「海外研修(異文化交流)」(いずれかを選択登録必修、各2単位)を提供する。

〈教育方法〉

- ・学生が、自らの学修目的や進路希望に応じて各科目の性格や開講時期(配当セメスター)を考慮しながら系統的に履修できるよう、多様な授業形態(講義・演習・実習など)により科目を開講する。
- ・全ての科目は、講義概要、到達目標、講義方法、授業評価の方法、授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

〈学修成果の評価〉

- ・学修成果の有無やその内容・水準等を評価するため、科目の特性に応じておおよそ次の4種類の方法のいずれか、または複数を合わせて評価する。
 - ①筆答試験による評価
 - ②レポート試験による評価
 - ③実技試験による評価
 - ④授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

文化の多様性に接する学内環境の整備

本学部は、教育目標を実現するために、常に文化の多様性と複雑さに接することができる環境を整備しています。

1. 教員の33%は海外出身で、日本人教員の多くもバイリンガルです。海外出身教員の出身国・地域は、アメリカ、イギリス、フランス、ベルギー、スロバキア、ニュージーランド、フィリピン、中国、韓国、台湾と国際色豊かです。教員と日常的・意識的に接する機会を増やし、国際的な視野を身に付けるよう努めて下さい。
2. 国際学部には多くの外国人留学生在籍しており、キャンパスにいながらにして国際交流できる好環境にあります。留学生の苦勞を理解した上で、積極的にアプローチし、サポートすることは学部内の重要な国際交流になっています。身近なところから国際交流を始めることは、本格的な国際人への道につながります。また、海外からの留学生のために充実した日本語教育を提供し、また大学生活を支える教務課での対応を英語、中国語でも行うなどの事務体制を整えています。
3. 深草学舎 和顔館1Fに設置されている「グローバルcommons」において、留学生と交流できるラウンジ、外国語のスキルアップを目指すことができるスタジオや語学学習・各種試験対策ができるスペース(約130席)が整備されています。また、同「グローバルcommons」内には国際学部に所属する学生からの留学に関する相談を随時受け付ける「国際学部 留学サポートデスク」が設置され、専門のアドバイザーに各種の相談ができる環境です。
4. 本学部では短期留学や長期留学などの留学制度を充実させており、本学部で身に付けた知識やスキルを海外で試し、高めることができます。また留学中に修得した単位を学部の卒業要件単位として認定することができます。4年間での卒業も可能となっています。より実践的な能力を身に付けたいと思っている人は早めに、そして計画的に自分の目的に合った留学形態を考えることができます。
5. 専門科目を中心に多くの科目を英語で開講しており、英語を使って専門分野を学修する機会が提供されています。また、学科間の垣根を越えて、それらの英語開講科目の一部を相互に受講する事ができます。特に将来、英語科教員を目指す学生は、英語による講義を受講することにより英語教育について幅広く考えることが重要です。
6. 専門性を育成する演習の選択肢を多く用意しています。現地調査やフィールドワークにもとづき卒業論文を進めていく演習や、英語で受講し、英語で卒業論文をまとめる演習など、さまざまな分野と地域にわたる演習があります。自分の研究スタイルと研究対象を早めに見つけ、有意義な卒業論文に取り組むために、方法論的な授業と知識中心の授業を系統的に履修しましょう。

本学部では以上の環境と共に、外国語科目や演習など、すべての学年で少人数教育を導入し、学生の主体的な参加を可能としています。このようなクラスは、コミュニケーション能力向上の練習の場となります。ただし、国際社会においては、自発的な行動とコミュニケーションが常識となっていますので、学生は自らの積極的な参加が不可欠であることを忘れてはなりません。大学生活では学生自身の積極性が最も重要であるため、こうした本学部独自の環境を大いに利用することを期待します。

学生支援の方針

本学では、修学支援、学生生活支援、キャリア支援、留学生支援、障がい学生支援の5つの方針に基づき、すべての学生に対して支援を行う。

修学支援の方針

本学における修学支援は、すべての学生に等しく教育機会を提供することを目的とし、学生一人ひとりが学修を円滑に進め、継続していくことができるよう、次のような支援を中心に総合的な取り組みを行う。

- ・ 修学に関する相談体制を整備し、教職員が相互に連携して相談・指導に取り組む。また、学生の主体的な学修を支援するとともに補習・補充教育を実施する。
- ・ 留年者及び休・退学者の状況把握と分析を行い、関係する各組織が連携して適切な対応策を講じる。
- ・ 障がいのある学生や留学生など、多様な学生の学修が円滑に進むよう支援する。
- ・ 本学独自の奨学金制度を整備し、意欲ある学生に学ぶ機会を提供する。

学生生活支援の方針

本学における学生生活支援は、学生が、正課・課外を通じて豊かな人間性を育むとともに自省利他の精神に基づいて多様な価値観や異なる文化を尊重し、主体的に活動・成長できるよう、「生活支援」「経済支援」「課外活動支援」を柱とした総合的な支援を行う。

「生活支援」は、学生生活を安心・安全に過ごすためのメンタルヘルス、トラブル、ハラスメント等に関する支援・相談や啓発等、学生生活に係る様々な支援を行う。

「経済支援」は、修学支援、家計急変や社会環境の変化等に応じた奨学金、学業や課外活動等の奨学金の他、短期的な貸付等の支援を行う。

「課外活動支援」は、多様な学生が主体的に取り組むサークル活動、社会活動等の諸活動を通じて、学生一人ひとりが人間的な成長と調和の取れた社会の担い手になるための環境整備と支援を行う。

キャリア支援の方針

本学におけるキャリア支援は、建学の精神にもとづき、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにすることの出来る人間を育成し、社会的・職業的自立に向けて必要となる知識、能力、態度を育むことを目的とし、一人ひとりに寄り添った支援を行う。その上で、学生の職業観・勤労観を醸成し、主体的な進路選択、希望する進路の実現のために、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を二本柱として、全学のおよび体系的に取り組む。

「キャリア教育」は、学部をはじめ各組織が連携し、正課教育および正課外教育を通して、社会で必要となる基礎的・汎用的能力を早期から育成するとともに、職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力や自分らしい生き方を実現するための力が身につくよう取り組む。

「進路・就職支援」は、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、多様な支援プログラムを実施するとともに、face to faceの面談を重視し、それぞれの学生の状況を踏まえたきめ細やかで丁寧な支援を行う。

留学生支援の方針

本学における留学生支援は、学生が国籍、宗教及び文化の違いなどを乗り越え、多様な価値観を認め、世界平和の実現に寄与する人材となり得ることを目的として、本学学生が海外へ渡航する「派遣留学支援」及び海外からの留学生が本学で学ぶ「受入留学支援」を二本の柱として取り組む。

派遣留学支援は、学生の安全を最優先として進める。その上で、海外における外国語学習の効果に加えて、現地で価値観や文化の異なる多様な存在を知り、学び、受け入れる姿勢を身に付けることを目指す。また、経済的な側面で留学を躊躇せざるを得ない学生を支援する補助制度も充実させ、国際交流を志す学生が誰一人取り残されない体制の構築に取り組む。

受入留学支援においては、自国と異なる環境下においても、受入留学生が安心して生活を送り学修に注力できるよう、多様なニーズに応じ得る奨学金や留学生寮の整備を行うとともに、受入留学生に対する多言語での支援を展開する。加えて本学学生が自主的且つ主体的に受入留学生を支援することで双方が異文化理解を深められる仕組みを整える。

障がい学生支援の方針

本学では、誰一人取り残さないという理念のもと、修学の権利の主体が学生本人にあることを踏まえ、学生の要望に基づいた調整を図り、障がいのある学生の内発的主体性を育み、自立と社会参加につながる支援を行う。また、障がいの有無にかかわらず、学生が共に学びやすいインクルーシブな環境づくりに努める。その際、個々の状態や障がいの特性に応じ、適宜改善する姿勢で取り組んでいく。

これらの支援は、学内関係部署や学外の関係機関との有機的な連携に基づき行っていく。

ガイダンス

学期の始めには各種ガイダンスが行われます。

履修説明会は、履修に関する詳細なガイダンスで、みなさんが学修の履修計画を立て、履修に必要な手続きをスムーズに行うための説明や指導をするものです。



その他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するガイダンス、諸資格取得のためのガイダンス等も開催されます。

これらの連絡は、次ページ「大学からの連絡・通知」のとおり行われるので、十分に注意してください。

大学からの連絡・通知

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きポータルサイトで行います。ポータルサイトを見落としたために後で支障をきたさないよう、日頃からポータルサイトを確認するようにしましょう。また、個人への重要な連絡や通知は大学が付与するメールアドレスに対しても行うことがあります。大学のメールアドレスも定期的に確認してください。

〈ポータルサイト〉

手段	アクセス方法
Web版	龍谷大学ポータルサイト ruis (https://portal.ryukoku.ac.jp/login) からアクセスしてください。 ポータルサイトの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。 
アプリ版	龍谷大学ポータルサイトアプリサポートWeb (https://ru.portal.ac/support/) からアプリをダウンロードしてください。初回利用時には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。 

休講・補講・教室変更情報

本学開講科目にかかる休講・補講・教室変更情報については、ポータルサイト上で公開しています。

〈公開期間〉

内容	公開期間	
休 講	30日後までの情報を公開	
補 講	予定している全ての情報を公開	
教室変更	臨時変更	30日後までの情報を公開
	恒常変更	前後30日分の情報を公開

〈注意事項・補足〉

- ・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。

- 当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。
- 本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供するポータルサイトの情報を確認してください。
- 休講、補講、教室変更情報の公開については、メールでの配信サービスも行っています。
Web版ポータルサイトの「連絡先・メールアドレス・メール受信設定」で設定可能です。
- 自然災害及び交通機関不通時の授業等の実施有無の確認については、「II 授業等の休講措置に関する取扱基準」(81ページ)にて詳細を確認してください。

第1部 履修の心得

Ⅰ 履修をはじめるにあたって

大学では、履修や学生生活に関するすべてのことが自分の責任に委ねられています。それだけに、各自が十分な理解のもと履修することが望まれます。

1. 長期的な履修計画を立てること

授業科目は、「教養教育科目」と学部専門の教育に関する科目群である「専攻科目」からなります。みなさんは、これら2つの「授業科目の区分」から、卒業するために必要な一定の単位数を満たすように履修しなければなりません。

1学年間あるいは1学期間に履修できる単位数には上限が設けられており、また、各学期（セメスター）に、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が教育方針に基づいて配当されています。なお、年度によって開講される科目が異なりますので、履修計画を立てるときには、同時に次学期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

2. 系統的に科目を履修すること

大学での学業は、学部毎に定められた所定の要件を満たすことで完了しますが、その一環として一定の単位数を修得する必要があります（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたには多くの組合せがあります）。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数をそろえるだけの履修は、たとえ4年間在学したとしても、大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて、各科目の性格やその科目の配当セメスターを考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学4年間において学問研究に触れる中心的な場は「演習」（ゼミナール）です。この「演習」では、みなさんの自ら選んだテーマに主体的に取組み、専門的な視点に立って研究することが肝要になります。「演習」をはじめる前に、「演習」における自身のテーマの研究にとって土台となる知識や思考力、さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

3. 自主的に学修をすること

十分な学修成果をあげるためには、単に授業を受けるだけでなく、授業そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、授業以外に自主的な学修が必要です。そのため、シラバス（講義概要や到達目標、評価方法、講義計画等について記載したもの）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、授業を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接先生に質問をしたり、友人・先輩とディスカッションをしたりすることで理解を深めることも大切です。

4. オフィスアワー

国際学部専任教員のオフィスアワーを国際学部掲示板・ポータルサイトなどでお知らせします。

- (1) オフィスアワーとは、学生の皆さんが、事前に面会の約束をせずに教員の研究室を自由に訪れてよい時間です。教員は授業の内容や学習方法、学修上の問題等について質問や相談に応じます。
- (2) 教員は特定の時間帯をオフィスアワーとして設け、その時間は必ず研究室に在室することになっています。ただし、会議や出張などの理由により、やむを得ず不在にする場合もあります。

オフィスアワーに教員を訪ねる際に予約は必要ありませんが、事前に相談事項をメール等で伝えておくと、スムーズな問題解決につながるかもしれません。

オフィスアワーの時間帯でなくても、教員が在室しており、都合が悪くなければ、学生からの質問・相談に応じますので、遠慮無く研究室を訪ねてください。

II シラバス

1. シラバスとは何か

シラバス (Syllabus) とは、各科目の講義概要や到達目標、評価方法、講義計画等について記載したものです。

本学で開講されている全ての科目は、あらかじめWeb上に公表されたそれぞれのシラバスに沿って実施されます。

シラバスには、科目名だけでは分からない、詳細な情報が記載されています。学生の皆さんはシラバスを熟読し学修計画を立て、系統的な履修を行ってください。

2. シラバスに記載されている情報

シラバスには、主に次のような情報が掲載されています。

- ① 科目名とサブタイトル
- ② 講義概要
- ③ 到達目標
- ④ 講義方法
- ⑤ 授業時間外における予・復習等の指示
- ⑥ 系統的履修
- ⑦ 成績評価の方法
- ⑧ テキスト・参考文献
- ⑨ 履修上の注意・担当者からの一言
- ⑩ オフィスアワー・教員との連絡方法
- ⑪ 講義計画 (回数・担当者・学修内容)

※授業計画、授業時間外における予・復習の指示、参考文献、履修上の注意・担当者からの一言、オフィスアワー・教員との連絡方法、参考URL、資料、講義計画については、授業期間中に変更されることがあります。最新の情報を参照してください。

3. シラバスの利用方法

シラバスはすべてWeb上で公開されています。ポータルサイトからリンクをたどって参照してください。

III 単位制度と単位の認定

1. 単位制度

大学での学修は単位制で行われています。単位制とは、すべての科目に一定の単位数が定められており、その科目を履修して単位を修得し、定められた卒業要件単位数を満たすことで卒業が認定される制度です。

<単位とは>

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

単位数	学 修 時 間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実習科目の場合		
	自主	授業	合計	自主	授業	合計
1	30時間	15時間	45時間	15時間	30時間	45時間
2	60時間	30時間	90時間	30時間	60時間	90時間
4	120時間	60時間	180時間			

<単位の計算方法>

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

- ① 本学では、単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。
- ② 本学では、1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。
- ③ 本学では、セメスター型授業の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、通年型授業の場合は1学年間（通年）で30週としています。

○講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義・演習・講読科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、4時間（授業時間の2倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
セメスター型 授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間） ×15週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき） ＝2単位
通年型 授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間） ×30週＝180時間	180時間÷45時間（1単位につき） ＝4単位

○外国語・スポーツ・実習科目の場合

上表から、外国語・スポーツ・実習科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、1時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
セメスター型 授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間） ×15週＝45時間	45時間÷45時間（1単位につき） ＝1単位
通年型 授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間） ×30週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき） ＝2単位

<単位の認定>

1つの授業科目に定められた単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなりません。

- (1) 単位の認定を受けようとする科目について、履修登録をすること。
- (2) その科目の授業に出席し、履修に必要な学修をすること。
- (3) その科目の試験を受け、その成績評価で合格（60点以上）をすること。（レポート、論文等をもって試験とする場合等があり、必ずしも教室における筆記試験とは限りません。詳細は、シラバスの成績評価の方法で確認して下さい。）

2. 履修登録制度

履修登録とは、科目を履修するための手続きです。この手続きをしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるようすべて自分の責任において取り組まなければなりません。

<履修登録の方法>

後に説明するセメスター制により、履修登録は、第1学期、第2学期の年2回行われます（ただし、4年次生以上は、第1学期に第2学期開講科目を含む通年分の履修登録をする必要があります）。

第1学期履修登録は、第1学期開講科目と通年型科目および8月と9月に開講されるサマーセッション科目を登録します。

第2学期履修登録は、第2学期開講科目を登録します。なお、第2学期登録時に通年型科目の履修を放棄して別の第2学期開講科目を登録することはできません。

第1学期（前期）履修登録期間において登録した通年科目が、第2学期（後期）において必修科目等の曜日講時と重複した場合、通年型科目においては「履修辞退（J）」として取扱います。

3. 授業科目の履修

履修登録をした科目を履修するということは、その科目に定められている単位数に見合った量の学修をするということです。

学修の内容には、授業形態に応じて、授業時間内における学修と授業時間外における自主的な学修（予・復習）とを含んでいます。

このうち、授業時間内における学修は、授業に出席し、その中で学修するということです。**総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられないことがあります。**

また、授業時間外における自主的な学修（予・復習）は、「シラバス」の中で「授業時間外における予・復習の指示」で示される内容を中心に、参考文献等も利用しながら、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行われる学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生活の成否はこの自主的な学修にかかっていると言えます。

4. 授業時間

本学における1回の授業時間は、後に説明する授業科目の開設方法に関係なく、いずれの場合でも90分です。また、それぞれの授業時間を「講時」といいます。年間を通して、各講時の時間帯は次のとおりです。

	第1講時	第2講時	第3講時	第4講時	第5講時	第6講時	第7講時
開始時刻	9:15	11:00	13:30	15:15	16:55	18:35	20:10
終了時刻	10:45	12:30	15:00	16:45	18:25	20:05	21:40

5. 卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、「学士」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書(学位記)です。卒業するためには、教育課程(カリキュラム)にしたがって学修し、学部毎に定められた所定の要件を満たすことが必要で、その一環として、124単位以上を修得しなければなりません。

<卒業の要件>

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

(1) 所定在学年数

本学の教育課程(カリキュラム)を修了するには、4年以上在学しなければなりません。これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間は所定在学年数に加えません。

(2) 所定単位の修得

本学の教育課程(カリキュラム)は、授業科目の区分ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目の別を指定しています(詳細は「第2部 教育課程」の「1. 教育課程の編成方法」を参照)。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

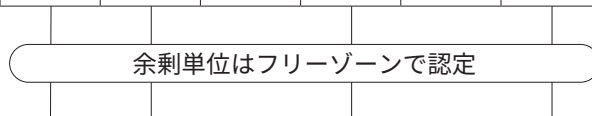
科目区分	必要単位数	必修・選択科目
①学科外国語科目	20	1年次：英語週5回または初修外国語週3回＋英語週2回 (必修・14単位) 2年次：英語週3回または初修外国語週3回 (必修・6単位)
②教養教育科目	18	仏教の思想A・B(必修・4単位) 教養科目(基幹科目) 人文科学系科目(選択必修・2単位) 社会科学系科目(選択必修・2単位) 自然科学系科目(選択必修・2単位) 選択科目(選択・8単位)
③学科基礎科目	16	リサーチセミナーI、リサーチセミナーII(必修・4単位) 選択科目(12単位)
④学科専攻科目	50	・リサーチセミナーIIIまたは海外研修(異文化交流)(選択登録必修・2単位) ・専門演習A(必修・2単位) ・専門演習B(登録必修)で卒業論文執筆適性を見極める。 【専門演習B合格者】 ・専門演習B(2単位)、卒論演習A(3単位)、卒論演習B(3単位)。 【専門演習B不合格者】 ・国際文化Study Project A～D(合計8単位)。 ・その他選択科目(40単位以上)
⑤フリーゾーン	20	
合計	124単位以上	

(注) フリーゾーンについて

卒業要件124単位の内、各①～④の必要単位を超えた単位数が「フリーゾーン」として認定されます。

〈参考〉卒業要件とフリーゾーンへの流れ

科目 区分	仏教 思想	教養 教育	外国語	基礎 必修	基礎 選択	専攻 必修	専攻 選択	フリー ゾーン	合計
単位数	4	14	20	4	12	10	40	20	124



〈卒業の時期〉

(1) 卒業認定は、毎年学年の終わり（2月）に行います。

(2) 9月卒業の取り扱い

教授会が必要と認めるときは、在学期間が4年以上の者について、前期終了時（9月）に卒業を認定することがあります。

（注）9月卒業を希望する者は、4月及び6月に意思確認を行います。必ず指定された期間に手続きを完了してください（本人の申し出がなければ、9月卒業の対象にはならないので注意してください）。ポータルなどの案内をよく確認すること。

6. 入学前に修得した単位の認定

学則第38条にもとづき、1年次の年度始めに願い出た者に限り、国際学部の認定基準にしたがって、出身大学で修得した科目を、本学国際学部の科目として認定することがあります。

この単位認定を希望する場合は、入学後直ちに「成績証明書」を持参の上、国際学部教務課窓口まで申し出てください。

IV 授業科目の開設方法

1. セメスター制

国際学部の授業は、セメスター制で開講されています。セメスター制とは、半年を1学期とするもので、1学年を、原則として4月～9月末までを第1学期（前期）、10月～翌年3月末までを第2学期（後期）の2学期に区分し、以後4学年までの計8学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。学年、学期、セメスターの関係は次のとおりです。

学年	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
学期	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）
セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

各セメスターにはそれぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目が配当されています。これらの科目の中からどの科目を履修するかは各自の責任に委ねられています。ただし、必修科目は、それを履修し単位を修得しないと卒業することができない科目です。また、選択必修科目も同じ性格を有する科目です。

必修科目や選択必修科目の単位を未修得のまま次のセメスターに進行した場合、他のすべての科目に優先してこれらの未修得科目を履修しなければならない場合が生じてしまい、そのセメスターに配当されている科目が履修できなくなるなど、みなさんの学修計画に重大な支障をきたすことにもなりかねません。したがって、十分な理解のもと学修計画を立て、授業時間内における学修と授業時間外における自主的な学修に積極的に取り組むことが望まれます。

※実際に授業を開講する上での第1学期（前期）、第2学期（後期）の区分・日程は、毎年度、学年暦によって決定されます。

2. 授業科目の開講形態

各授業科目は、原則として各セメスターを単位として開設されていますが、実際には科目の性格等により次の3つの開講方式をとっています（開講方式、授業回数、単位数等の組み合わせは主なものを挙げています）。

① 【セメスター型】 [学期] → (授業15週間)	[週1回]	講義科目	外国語科目	実技科目
		2単位	1単位	
	[週2回]	4単位	2単位	
② 【通年型】 [学期] → [学期] → (授業30週間)	[週1回]	講義科目	外国語科目	実技科目
		4単位	2単位	
③ 【クォーター型】 [四半期] → (授業8週間)	[週1回]	講義科目		
		1単位		
	[週2回]	2単位		

※クォーター型とは、1学年を4つに区分して授業を実施するものです。各クォーターの区分・日程は、毎年度、学年暦によって決定されます。

[留意点]

- (1) セメスター型として開講される4単位の講義科目および2単位の初修外国語科目は、1週間に2回

(例えば月曜日1講時と木曜日1講時)の授業を行い、1つの学期で完結するものです。このため、一方の授業に出席するだけではその科目を履修したことにはならないので、注意する必要があります。

(2) 通年型として開講される科目は、原則として同一の授業担当者が1週間に1回の授業を行い、2つの学期(1年間)で完結するものです。

(3) クォーター型として開講される1単位の講義科目は、1週間に1回の授業を行い、四半期で完結するものです。2単位の講義科目は、1週間に2回の授業を行い、四半期で完結するものです。

(4) 同一科目の授業が第1学期(前期)・第2学期(後期)ともに開講される場合があります。この場合は、特に指定のある場合を除き、いずれの学期で履修しても構いません。

(注1) それぞれの科目には配当セメスターが設定されています。設定された配当セメスター以降の履修が可能であることを示していますが、諸事情により不開講となる場合や配当セメスターが変更される場合がありますので注意してください。

(注2) すでに修得した科目(=既修得科目)の再履修はできません。

(5) サマーセッションを利用して開講される科目については、下記の取扱となります。

区分	取扱学期	期間・留意事項
サマーセッション	第2学期(後期)科目	・開講期間については、ポータルサイトで確認してください。 ・第1学期(前期)開講科目の履修登録と同時に登録が必要です。

(注) 履修登録できる科目数は2科目までとなります。

授業日程が他の科目と重複する場合は、1科目しか履修登録できない場合がありますので、各科目の開講日程に注意してください。

サマーセッションの開講期間・開講場所などについては、別途ポータルサイトにてお知らせします。

3. 週2回授業科目の開講方法

セメスター型、クォーター型授業のうち、週2回開講方法をとる授業は時間割上、原則として一定の規則(組合せ)にしたがって配置されています。

この科目は、週2回の授業を所定の期間(セメスター型であれば半年間)継続して受講し、合格することではじめて定められた単位を修得したことになります。

週2回のうち一方の授業時間に、誤って他の科目を履修登録した場合は、それらに関する登録は無効となりますので注意してください。

週2回授業科目の開講組合せ(原則)

月1 - 木1	火1 - 金1	水1 - 土1
月2 - 木2	火2 - 金2	水2 - 土2
月3 - 木3	火3 - 金3	
月4 - 木4	火4 - 金4	

注1) 見方: 「月1」は「月曜日1講時」を示しています。

注2) 1日に2講時連続で開講される科目もあります。

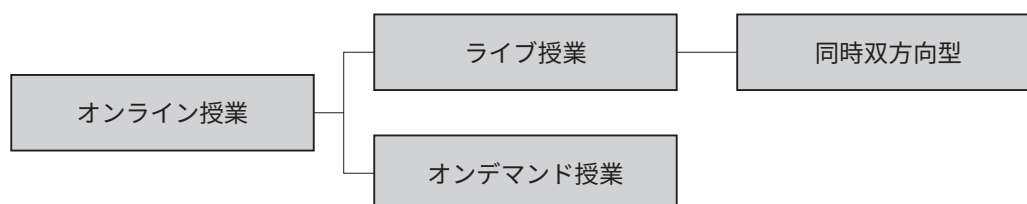
4. オンライン授業について

本学では、対面にて授業を行う科目のほか、一部においてインターネット環境を利用してオンライン上で授業を行う科目があります。

(1) オンライン授業の形態

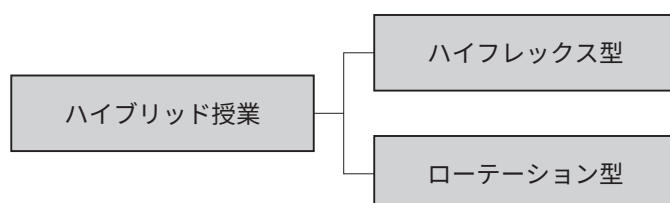
① オンライン授業の実施形態

本学では、次のようにオンライン授業の実施形態を区分しています。



② オンライン授業と対面授業を組み合わせた形態

オンライン授業と対面授業を組み合わせた形態として、ハイブリッド授業があります。



(2) オンライン授業の定義

① オンライン授業

本学におけるオンライン授業とは、インターネットを介して、文字・音声・静止画・動画等の多様な情報を、当該授業を行う教室等以外の場所にいる学生に対して配信し、設問解答や意見交換などを実施することにより、学修を進めていくもので、標準的な1コマ（1回分）のすべてを上記のような方法を用いて行う授業を指します。

<ライブ授業>

上記オンライン授業の一形態としてライブ授業があります。ライブ授業とは、オンライン授業のうち、同時かつ双方向（教員と学生）で授業を行うものを指します。ライブ授業を詳細に分類すると「同時双方向型」と「同時一方向」に分かれますが、本学においては、双方向性が確保できる「同時双方向型」を指します。

<オンデマンド授業>

上記オンライン授業の一形態としてオンデマンド授業があります。オンデマンド授業とは、オンライン授業のうち、予め収録した授業（動画・音声）や音声付PowerPoint動画等を配信し、あわせて課題指示等を行うものを指します。

② ハイブリッド授業

オンライン授業と対面授業を組み合わせた授業形態としてハイブリッド授業があります。ハイブリッド授業には、2つの形態（ハイフレックス型、ローテーション型）があります。

<ハイフレックス型>

対面授業をライブ配信することにより、オンラインとしても行う授業のことを指します。

（例）対面希望の学生とオンライン希望の学生を2グループに分けて実施する授業。

<ローテーション型>

全開講回数のうち、各回によって対面とオンラインを使い分ける授業のことを指します。

（例）全15回のうち、4回目～11回目をオンラインで実施し、その他は対面で実施する授業。

(3) オンライン授業科目

① オンライン授業科目とは

オンライン授業として実施する科目のうち、オンラインでの授業回数など一定の要件を満たした科目は開講学部等において「オンライン授業科目」として位置づけています。

② オンライン授業科目の履修要件

オンライン授業科目は、60単位を上限に卒業要件単位数として取り扱います。60単位を超えて修得し

たオンライン授業科目は随意科目（卒業要件単位数には含まない）として単位認定されます。

＜龍谷大学学則＞（抜粋）

第25条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第34条の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、前項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

※感染症や災害の発生等の非常時において、対面での授業実施が困難（一部のみでの対面での授業実施を含む）と大学が判断した場合のオンライン授業科目は、卒業要件単位となる単位数の上限（60単位）に含まないことがあります。

(4) オンライン授業を受講するにあたって

オンライン授業は、以下の情報環境を準備した上で受講してください。

①自身所有のパソコン等を利用する

本学では、ノートパソコンの所有や自宅等でのWi-Fi環境の整備を推奨しています。

キャンパス内は学内無線LAN（Wi-Fi）が整備されています。ノートパソコン等を持参している学生は、キャンパス内の多くの場所でインターネット接続が可能です。

＜ノートパソコンの推奨環境＞

・ノートパソコン（カメラ・マイク機能付き）

※OSはWindows、Macのどちらでも可。

・推奨Webブラウザ：Google Chrome

※本学ではMicrosoft社との包括ライセンス契約により、在学中は無料でOfficeソフト（Word, Excel, PowerPointなど）が利用可能です。Office付属のノートパソコンやOfficeのライセンスを用意いただく必要はありません。

②キャンパス内の施設・機器を利用する

キャンパス内の施設や機器を利用し、オンライン授業を受講することができます。

○スチューデントコモンズでノートパソコンの貸し出しを受ける。【学内利用に限る】

深草キャンパス：和顔館 1階スチューデントコモンズ(ラーニングサポートデスク)

大宮キャンパス：東覺 2階スチューデントコモンズ (PC貸出カウンター)

瀬田キャンパス：智光館地下 1階情報メディアセンター

○セルフラーニング室のパソコンを利用する。

深草キャンパス：5号館 3階

大宮キャンパス：清風館 1階

瀬田キャンパス：3号館地下 1階

(5) オンライン授業科目の確認方法

オンライン授業科目はポータルサイト（履修登録画面）及び龍谷大学履修要項WEBサイトにて確認することができます。

・本学履修要項WEBサイト

(URL) <https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/rishu.html>



5. 授業科目と授業テーマ

「**授業科目**」は単位を認定する区分を示すものです。講義科目はこの授業科目名のみではどのような内容の授業であるか判断ができないことから、原則として「**授業テーマ**」が示されています。

同じ授業科目名で複数のクラスが開講されている場合は、特に指定の無い限りどの授業テーマのクラスを履修しても構いません。ただし、単位の認定を受けることができるのは**1つの科目に対して1回だけです**(授業テーマが異なっていたとしても、同じ授業科目を複数クラス履修することはできません)。

また「授業科目」を選ぶにあたっては、「シラバス」で講義の進め方、系統的履修の方法等を確認してください。

6. 先修制

先修制とは、ある科目を履修する場合に、履修要件として指定された科目及び単位数の修得を必要とする制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

したがって、先修制が設定されている科目とその履修の要件として指定された科目を同一学期に履修することはできません。先修制が設定されている科目は次のとおりです。

【必修外国語・英語】

科目名	履修要件となる科目名
EC II-Speaking	EC I-Speaking
EC II-Writing	EC I-Writing
EC II-Reading	EC I-Reading
ECIII-Speaking	EC II-Speaking
ECIII-Writing	EC II-Writing
ECIII-Reading	EC II-Reading
ECIV-Speaking	ECIII-Speaking
ECIV-Writing	ECIII-Writing
ECIV-Reading	ECIII-Reading
EC II-Seminar A	EC I-Seminar A
EC II-Seminar B	EC I-Seminar B

※EC：English Communicationの略

【必修外国語・初修外国語】

科目名	履修要件となる科目名
外国語 II	外国語 I
外国語 III	外国語 II
外国語 IV	外国語 III

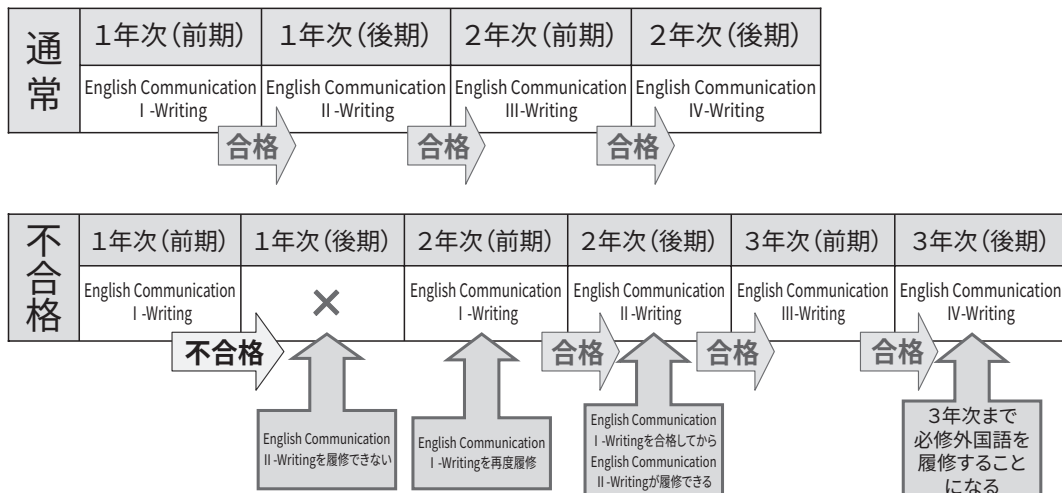
【学科専攻科目】

科目名	履修要件となる科目名
ペルシア語セミナー II	ペルシア語セミナー I
ロシア語セミナー II・III・IV	ロシア語セミナー I
ポルトガル語セミナー II・III・IV	ポルトガル語セミナー I

⚠ 注意事項

※フランス語・中国語・コリア語・日本語を「外国語」と表記しています。

〈参考〉先修制について



7. 科目ナンバリング

龍谷大学におけるナンバリングコード体系

国際学部で開講される授業科目にはナンバリングがされています。ナンバリングとは、科目毎に修得することができる学術分野や、科目のレベルを簡明に表したものであり、順次性のある履修計画を立てることを補助し、体系的な学修に繋げるための指標です。

U-01-FGN-1-01
① ② ③ ④ ⑤

例：「English Communication I」のナンバリング「U-01-FGN-1-01」の場合、
①国際学部②IC学科開講の、③「外国語修得」分野で、④大学1年次の水準であることを示す。(FGNはForeign Languageの略)

①	②	③	④	⑤
開講学部	開講学科	分野	難易度(科目の水準)	通し番号
U	01	FGN	1	01

U：国際学部

01：国際文化学科

1：大学1年次

02：グローバル

2：大学2年次

スタディーズ学科

3：大学3年次

4：大学4年次

「③分野」一覧表系

略号	分野名	分野名(日本語)
ARS	Area studies	地域研究
ART	Art studies	芸術学
BAB	Basic biology	基礎生物学
CAE	Career	キャリア開発
CIL	Civil law	民事法学
CUA	Cultural anthropology	文化人類学
ECO	Economics	経済学
ECP	Economic statistics	経済政策
ENL	English linguistics	英語学
ENV	Environmental conservation	環境保全学
ESS	Education on school subjects and activities	教科教育学
FGN	Foreign language	外国語修得
FLE	Foreign language education	外国語教育

略号	分野名	分野名（日本語）
GLS	Global studies	グローバルスタディーズ（複合領域）
HIS	History	史学
HIT	History of thought	思想史
HLS	Human life science	生活科学
ICC	Intercultural communication	国際文化学（複合領域）
ILA	International law	国際法学
INR	International relations	国際関係論
JLE	Japanese language education	日本語教育
JLN	Japanese linguistics	日本語学
LIE	Literature in English	英米・英語圏文学
LIN	Linguistics	言語学
LIT	Literature	文学
LTE	literacy	基礎リテラシー科目
PHA	Physical anthropology	自然人類学
PHI	Philosophy	哲学
POL	Politics	政治学
PUL	Public law	公法学
RES	Religious studies	宗教学
SES	Sustainable and environmental system development	環境創成学
SOC	Sociology	社会学
SOE	Sociology of education	教育社会学
SOP	Social psychology	社会心理学
TOU	Tourism	観光学
TPA	Town planning/Architectural planning	都市計画・建築計画

V 履修登録

1. 履修登録手続スケジュール

履修登録手続スケジュールは毎年度変更されますので、履修要項WEBサイト (<https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>) で確認してください。



2. 履修登録制限単位数

大学での学修においては、単位制度の趣旨、教育効果（自主的な学修時間の確保）および健康管理の点から、一度に多くの科目を履修することは適当ではありません。

このため、国際学部では次のとおり履修登録制限を行っています。ここに定める単位数を超えて履修登録することはできません。よく考えて卒業までの履修計画を立てる必要があります。

所属セメスター 学部	1	2	3	4	5	6	7	8	計
1年次入学生	22	22	22	22	22	22	48		180
3年次編転入学生					24	24	48		96

(注1) 編転入学した者のカリキュラムは、編入学または転入学した年度ではなく、入学を認められた学年の在學生と同様のカリキュラムを適用します。再入学した者については、原則離籍前と同年度のカリキュラムを、復学した者については、休学前と同年度のカリキュラムをそれぞれ適用します。

(注2) 通年科目の単位数は、第1学期と第2学期で2分割して計算します。

(注3) この履修制限には、以下の科目は含まれないことから、制限単位を超えて履修登録することができます。ただし、単位制度の趣旨および教育効果（自主的な学修時間の確保）や健康管理の点からすれば、制限単位を大幅に超える登録は好ましくありません。

- ① 随意科目（授業時間割表に「随意」、「教職」、「本山」のいずれかの記号のある科目）
- ② サマーセッションに開講される科目
- ③ 大学コンソーシアム京都科目（単位互換科目、産学連携教育プログラム）

(注4) 成績優秀者（直前学期までの累積GPAが3.5以上の者）については、国際学部が定める所定の手続きをおこなった場合、上記の履修登録制限単位数を2単位拡大することができます。詳細は、履修登録期間内に教務課までお問い合わせください。

3. 予備・事前登録

予備・事前登録とは、受講者数を調整するため、通常の履修登録（本登録）に先だって行われるものです。予備・事前登録手続きの必要な科目は、この手続きをしなければ受講できません。

履修登録 — 1) 予備登録 ……………	受講可否を抽選（無作為抽出）により決めます。
(広義)	教養教育科目においてこの手続きが必要です。
2) 事前登録 ……………	受講可否を申請書の内容や過去の成績などにより決めます。
	一部の専攻科目においてこの手続きが必要です。
3) 履修登録（本登録） ……	履修する科目（予備・事前登録にて受講可となった科目を含む）が
(狭義)	確定します。

4. 履修登録要件

(1) 履修登録要件

有効な履修登録を行うためには、次に定める要件をすべて備えていなければなりません。履修登録はすべて自己の責任において行ってください。

- ① 必修科目は、配当されているセメスターに登録してください。
- ② 所属年次に配当されている授業科目以外に下級年次配当の授業科目を登録することができます。ただし、諸事情により不開講となる場合や開講セメスターが変更される場合がありますので注意してください。
- ③ 履修登録は授業時間割表に従って登録してください（特に、同一授業科目について複数の担当者がある場合や、週2回授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください）。
- ④ 重複登録（同一講時に2科目以上の登録をすること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑤ 二重登録（すでに修得した科目（既修得科目）を再度登録すること、および同時に同一授業科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑥ 各学期（各セメスター）および各年次において、定められている履修登録制限単位を超えて登録することはできません。

(2) 履修登録にあたって注意すべき点

- ① 授業時間割に変更が生じた場合は、ポータルサイトにてお知らせします。
- ② 履修登録にあたって、不明な点があれば、国際学部教務課窓口にご相談してください。
- ③ Web履修登録画面から、定められた期間に必ず登録してください。
履修登録手続スケジュールは毎年度変更されますので、履修要項WEBサイト
(<https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>) で確認してください。
- ④ 受講登録確認表の出力による登録確認



本人が登録した授業科目は、登録完了後、各自がその場で「受講登録確認表」を出力し、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問がある場合は、ただちに、国際学部教務課窓口へ申し出てください。また、出力した受講登録確認票は、必ず保管してください。

5. 履修辞退制度 ※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください。

(1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、「授業内容が学修したいものと著しく違っていた場合」や「受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合」など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録の確認時における登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正」や「取消」するものであり、以前の履修は一切残りませんが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履修が記録として残ります。

受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、『履修要項』および『シラバス』を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

(2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行いません。したがって、履修辞退した科目は平均点やGPAの計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には履修履歴および履修辞退履歴として「J」の記号が記載されます。

(3) 履修辞退できない科目

原則として、開講科目のすべてを「履修辞退」の対象科目としています。

ただし、下記のとおり、カリキュラムの関係において、学部（学科・課程・専攻・コース）で学修する上で“必修としている授業科目”や“予め定員を設け募集した科目”、“本学以外の団体等への手続きにおいて調整が困難である科目”など「履修辞退制度」の対象としない（＝履修辞退を認めない）科目を設定していますので、履修登録の際、必ず確認してください。

◆履修辞退対象外科目の一覧

科目区分	備考
必修科目	選択必修科目については、学部（学科・課程・専攻・コース）によって取り扱いが異なる場合があります。
事前登録が必要となる科目（注）	教室の規模や教室の設備、授業の企画規模等にあわせて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。
「大学コンソーシアム京都」の単位互換科目として受講している科目	本学学生が本学他学部の開講する科目を、左記の2団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。
教育実習、介護等体験に関する科目	実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。
サマーセッション科目	本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。
その他各学部が設定する科目	各学部（学科・課程・専攻・コース）において設定する科目別表「学部等が設定する履修辞退対象外科目の一覧」のとおり。

（注）教養教育科目の「予備登録」が必要となる科目とは異なります。

◆学部等が設定する履修辞退対象外科目の一覧

学部等	履修辞退の対象外とする科目
国際学部 国際文化学科	リサーチセミナーIII 専門演習A・B、卒論演習A・B、国際文化Study ProjectA～D

(4) 履修辞退の申出期間

履修辞退の申出期間は各学期において1週間程度設けられます。学期はじめの履修説明・ポータルサイト、学生手帳等で確認してください。

(5) 履修辞退の申出方法

履修辞退の申出期間にポータルサイトの「Web履修辞退申請」から申請してください。

受付期間中にポータルサイトを利用した申請ができない理由を有する者は、事前に国際学部教務課に相談してください。

(6) 留意事項

- ① 通年型科目について、5月頃の履修辞退期間中に履修辞退の申し出をした場合は、第2学期（後期）の当該科目の単位数は履修登録制限単位から除外され、カウントされません。また、後期の履修登録がある場合は、履修辞退した科目の同一曜講時にセメスター型の後期開講科目を履修登録することができます。

なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
5月頃	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期（前期）分はカウントしますが、第2学期（後期）分はカウントしません
	第1クォーター科目	カウントします
6月頃	第2クォーター科目	カウントします
10月頃	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします
	第3クォーター科目	カウントします
11月頃	第4クォーター科目	カウントします

- ② 履修辞退申し出による授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生（留年生および社会人）が、通年型科目の辞退を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分の授業料は徴収しません。

また、科目等履修生が、通年型科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分の履修料は理由の如何にかかわらず返還しません。

6. 配当セメスターの考え方

それぞれの科目には配当セメスターが設定されており、設定された配当セメスター以降の履修が可能であることを示しています。

- 必修科目は、配当されているセメスターに登録してください。
- 配当セメスターにかかわらず、開講期（開講セメスター）は年度により変更することがあります。
- 一部の科目については、配当セメスター以外での履修を行うことができないなどの特性があります。詳細は、国際学部教務課窓口にて確認してください。
- 9月入学・半期休学等の理由により、科目配当に極端な不利益があると判断されるときは、配当セメスターより前の履修を認めることがあります。ただし、履修登録にあたっては予め国際学部教務課窓口で相談してください。

VI 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1. 成績評価の方法

成績評価には、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちのひとつまたは複数を組み合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はシラバスに明示されているので参照してください。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

2. 成績評価の基準

- ① 成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- ② 一度合格点を得た科目(=既修得科目)は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできません。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- ④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

段階評価と評点			
S (90~100点)	A (80~89点)	B (70~79点)	C (60~69点)

上記の段階評価以外に、実習科目はG(合格)・D(不合格)で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN(認定)となります。

- ⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
- ⑥ 学業成績表は、第1学期(前期)分を9月中旬、第2学期(後期)分を3月下旬にポータルサイトよりダウンロードできます。日程の詳細は、別途ポータルサイトでお知らせします。スケジュールについては別途ポータル等でお知らせします。

3. GPA 制度

GPAとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことであり、従来の修得単位数による学修到達度判定に加え、どの程度のレベルで単位を修得したかを一目で表すものとして考えられたものです。

GPAは、各教科の評価点（100点満点）を次表のように換算しなおし、その合計を登録科目の総単位数で割って算出します。

評価点	グレイドポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

$$\text{GPA} = \frac{\sum (\text{登録科目のグレイドポイント} \times \text{単位数})}{\sum (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、「仏教の思想A」（2単位）90点、「心の科学」（2単位）80点、「人権論A」（2単位）40点、「アジアの歴史」（4単位）76点を登録科目の結果とした場合、GPAは次のように計算されます。

$$\text{GPA} = \frac{(2 \times 4) + (2 \times 3) + (2 \times 0) + (4 \times 2)}{2 + 2 + 2 + 4} = \frac{22}{10} = 2.2$$

※随意科目、履修辞退した科目については、ここでいう登録科目には含みません。

※成績を評価点（100点満点）で評価しない科目は算入しません。

4. 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、国際学部教務課窓口に提出してください。**授業担当者に直接申し出てはいけません。**

なお、申出期間および申出方法については、別途ポータルサイトで確認してください。

5. 筆答試験の時期

定期試験	個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験
追試験	定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験（追試験の項を参照のこと）

6. 受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

- (1) その科目について、有効な履修登録がなされていること。
- (2) 定められた学費を納入していること。
- (3) 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。
- (4) 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

7. 受験の注意事項

筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

- (1) 指定された試験場で受験すること。
- (2) 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない。
- (3) 学生証を携帯すること。
- (4) 学生証は写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。

万一学生証を忘れた場合には、事前に国際学部教務課窓口で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。

- (5) 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。
- (6) 参照を許可されたもの以外は、指示された場所に置くこと。
[担当教員の指示がない限り、電子機器等の使用を認めない。]
[持ち込み条件が「全て可」であっても、携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等情報端末機器の使用は一切認めない。]
- (7) 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、かばんの中に入れること。
- (8) 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。

8. 答案の無効

次の場合は、その答案は無効となります。

- (1) 無記名の場合
- (2) 指定された場所に提出しない場合
- (3) 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合
- (4) 受験態度の不良な場合

9. 筆答試験における不正行為

- (1) 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。
- (2) 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。
 - ① 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合
 - ② 監督者の指示に従わない場合
 - ③ 身代わり受験を行ったとき、または行かせた場合
 - ④ カンニングペーパー等を所持していた場合
 - ⑤ 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等情報端末機器をかばん等にしまっていない場合
 - ⑥ 許可された以外のものを参照した場合
 - ⑦ 机上等への書き込みをしていた場合
 - ⑧ 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合
 - ⑨ 答案用紙の交換および見せ合いをした場合
 - ⑩ その他、①～⑨に準じる行為を行った場合

10. レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等からコピーしたような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定を行わない場合があります。

11. 追試験

(1) 追試験の受験資格

追試験は次の各号のいずれかの理由により定期試験を欠席し、所属学部が認めると受験することができます。

- ① 病気、怪我又は試験時における体調不良等
- ② 親族（原則として3親等まで）の葬儀への参列
- ③ 公認サークルの公式戦への選手としての参加
- ④ 交通機関の遅延等
- ⑤ 交通事故、災害等
- ⑥ 就職活動（説明会、筆記試験、面接等）
- ⑦ 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）の受験
- ⑧ 単位互換科目の試験受験
- ⑨ インターンシップ実習（キャリア実習・実習指導、大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラム）又は博物館実習への参加
- ⑩ 裁判員（候補者）への選任
- ⑪ 短期学部における実習等への参加により本学学部の定期試験を受験できなかった場合
- ⑫ その他所属学部が特に必要と認める理由

追試験受験希望者は、追試験受験願および欠席理由証明書（医師診断書、交通遅延証明書（WEB発行の証明書可）または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等）をその科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内）に国際学部教務課窓口へ提出しなければなりません。

なお、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に国際学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可）。

(2) 追試験の受験料は、1科目1,000円です。

(3) 実技・実習科目、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。

詳細については、定期試験前にポータルサイトにて確認してください。

12. 筆答試験時間

筆答試験時間割は、原則として試験の14日前にポータルサイトにより発表します。

試験時間は、次のとおりです。

講時	開始時刻	終了時刻	
		教養教育科目 文・心理・経済・経営・政策・国際学部専攻科目 短期大学部共通科目・専攻科目 学部共通コース科目 諸課程科目 (60分)	法学部専攻科目 (70分)
1講時	9:15	10:15	10:25
2-A講時	10:45	11:45	11:55
2-B講時	12:15	13:15	13:25
3-A講時	13:45	14:45	14:55
3-B講時	15:15	16:15	16:25
4講時	16:45	17:45	17:55
5講時	18:15	19:15	19:25
6講時	19:30	20:30	—
7講時	20:45	21:45	—

(注1) 教養教育科目および学部共通コース科目のうち、学部提供科目については、当該学部が定める試験時間となります。

(注2) 科目の特性によって、試験時間を変更することがあります。

第2部 教育課程

1. 授業科目の区分

本学の教育課程（カリキュラム）の編成は、4年間（8 Semester）に渡って体系的に展開されており、国際文化学科の場合は以下のように構成されています。この分類を「授業科目の区分」（科目区分）と呼びます。

- ・教養教育科目（「仏教の思想」科目、「教養科目」）
- ・専攻科目（「学科外国語科目」、「学科基礎科目」、「学科専攻科目」）

2. 必修科目、選択必修科目、登録必修科目、選択科目、随意科目

国際文化学科生が受講できるすべての科目は、「必修科目」、「選択必修科目」、「登録必修科目」、「選択科目」、「随意科目」のいずれかに指定されています。

「必修科目」 卒業要件を満たすために必ず履修し、単位を修得しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合、修得単位数の合計が卒業要件単位数（124単位）を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

「選択必修科目」 指定された科目群の中から決められた数の科目を任意に選択し、単位を修得しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく、決められた単位数が未修得であれば卒業の認定を受けることができません。

「登録必修科目」 必ず履修登録しなければならない科目です。ただし単位の修得は必須ではありません。そのため、この科目の単位を修得したかどうかは卒業の認定とは直接関係しません。なお、複数ある科目のうち、一定数を履修登録しなければならない場合は「選択登録必修科目」と呼びます。

「選択科目」 科目の履修がすべて学生の選択に任されている科目です。ただし、卒業要件上、科目区分ごとに一定の単位数を修得することが義務づけられており、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。

「随意科目」 主として各種の資格取得に関わる科目であって、卒業要件とは関係しません。そのため、随意科目は教養教育科目および専攻科目の区分外に置かれています。

3. クラスの編成

- (1) クラスとは
教育上の効果を考慮して、受講者を適切な人数または規模に分割したものです。
- (2) クラスの種類
次の種類があります。下記は別々に扱われるため、①と②のクラスの構成員は一致しません。
 - ① 学科外国語科目（必修外国語）のクラス
 - ② 学科基礎科目・学科専攻科目のクラス（リサーチセミナー、専門演習、卒論演習等）

4. 国際ツーリズムプログラム（International Tourism Program）

国際文化学科生のうち希望者は、1年次から「国際ツーリズムプログラム」（International Tourism Program: ITP）に関する科目を履修できます。所定のITP関連科目および単位数を修得することで、学科が独自に発行するプログラム修了証（certificate）を申請することができます。

II 教養教育科目の教育目的および履修方法

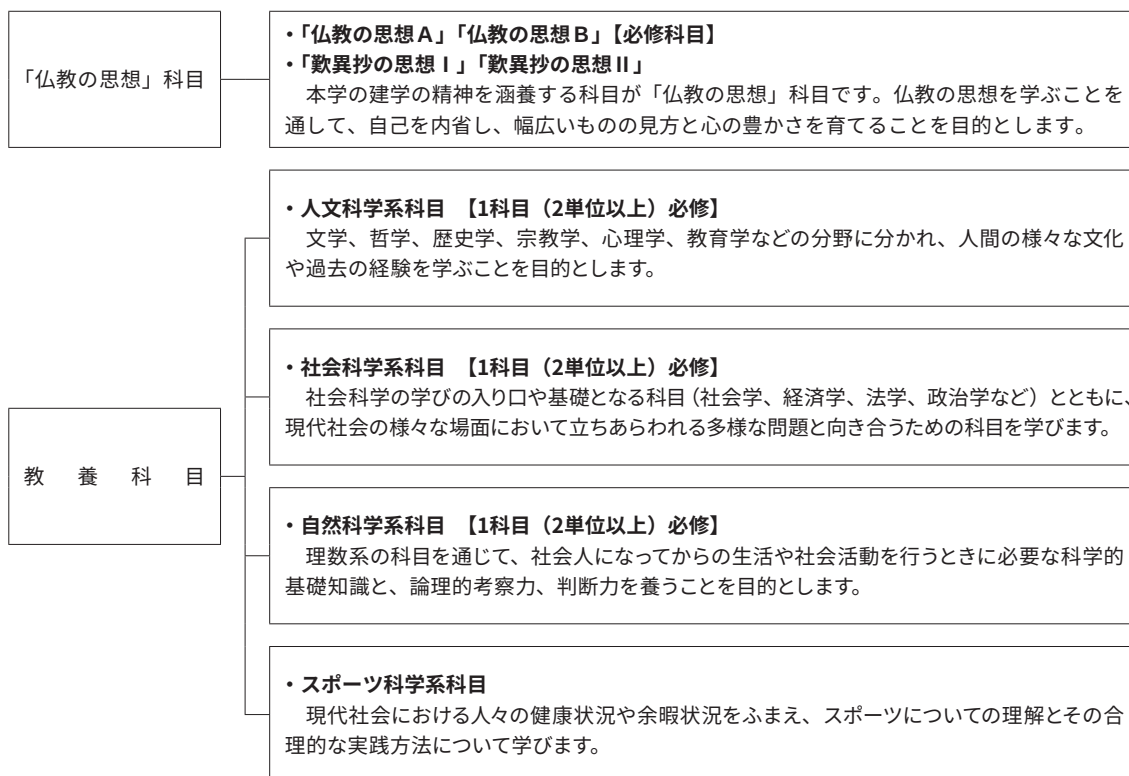
1. 教養教育とは

(1) 教養教育の理念・目的

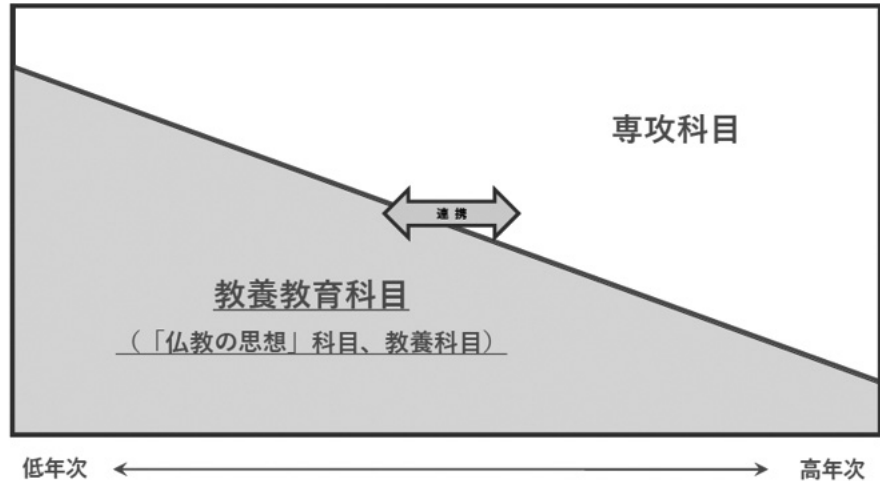
龍谷大学の教養教育は、人間の根源的な問いからその内面を見つめる思考の幅を広げ、人間をとりまく多様な世界を知ることを通じて、自己を確立できる人間の育成を目指して開講されています。このため、建学の精神に基づく高い倫理性や豊かな人間性ととも、知性・感性を兼ね備え、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成、つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力や判断力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する力と、国際的なコミュニケーション能力をもった「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としています。

(2) 教養教育科目とは

教養教育は、「仏教の思想」科目、教養科目の科目区分で構成されており、これら全体を教養教育科目とよびます。



(3) カリキュラムマップ



		配当セメスター							
		1	2	3	4	5	6	7	8
「仏教の思想」科目	仏教の思想等	本学の建学の精神を涵養する							
教養科目	人文科学系科目	人間の様々な文化や過去の経験を学ぶ							
	社会科学系科目	現代社会の様々な場面において立ちあらわれる多様な問題と向き合う							
	自然科学系科目	社会人になってからの生活や社会活動を行うときに必要な科学的基礎知識と、論理的考察力、判断力を養う							
	スポーツ科学系科目	スポーツについての理解とその合理的な実践方法について学ぶ							

2. 「仏教の思想」科目

「仏教の思想」科目では、1年次の必修科目「仏教の思想A」「仏教の思想B」と、2年次以降の選択科目「歎異抄の思想Ⅰ」「歎異抄の思想Ⅱ」が開設されています。ここでは「仏教の思想」を中心に説明します。

(1) 目的と意義

本学は「親鸞聖人によって開示された浄土真宗の精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養をもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想」は本学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義では本学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して、自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的としています。「仏教の思想」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で1年次に開講されています。また、入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。この「仏教の思想」を平易に理解するために、次のような教育目標を掲げています。

1. 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。
2. 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。
3. 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。
4. 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。
5. 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。

6. いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。
7. 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

(2) 履修方法

① 必修科目

「仏教の思想A」「仏教の思想B」は必修科目です。配当されたセメスターにおいて必ず履修してください。

② 選択科目

「歎異抄の思想Ⅰ」「歎異抄の思想Ⅱ」は選択科目で、教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

③ クラス指定

授業内容の系統性を確保するため、「仏教の思想A」「仏教の思想B」は同一の授業担当者になります。学部指定やクラス指定を行っていますので、時間割の指示にしたがって履修登録してください。なお、9月入学生については、所属学部教務課の指示にしたがって履修してください。

④ 「仏教の思想A」「仏教の思想B」の再履修

配当されたセメスターで不合格となった場合は、2年次以降に次のとおり再度履修してください。なお、この場合は、上記③（同一の授業担当者による受講およびクラス指定）は適用しません。各自、履修登録を行ってください。

年次	セメスター	科目名
2年次	3	「仏教の思想A」(正規クラスを再履修として履修)
	4	「仏教の思想B」(正規クラスを再履修として履修)
3年次～ (※)	5	「仏教の思想A」(正規クラスを再履修として履修) 「仏教の思想B」(再履修クラス)
	6	「仏教の思想A」(再履修クラス) 「仏教の思想B」(正規クラスを再履修として履修)

(※) 3年次生以上は、同一セメスターで、A・Bを同時履修することが可能です。

3. 教養科目

教養科目は、「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」「スポーツ科学系科目」の4つの系列に分類されており、各系列から偏りなく履修することを通じ、幅広い教養を身につけることを可能にしています。全ての教養科目は自由に選択できますが、選択必修として「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置されている基幹科目（学びの入門となる科目や諸学の基本を学ぶ科目）の中から各1科目（2単位）以上修得する必要があります。なお、「スポーツ科学系科目」及び2単位を超えて修得した基幹科目の単位については、教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

人文科学系科目

人文科学は、人間の様々な文化や過去の経験を研究する学問領域で、大きくは文学、哲学、歴史学、宗教学、心理学、教育学などに分かれます。人文科学系科目では、先入観や偏見から自由になってものごとを考える力、芸術作品を鑑賞する能力、感情や意見の表現の仕方、人間の心理を理解する方法などを身につけることを目的にしています。

社会科学系科目

社会科学（社会学、経済学、法学、政治学など）は、絶えず変動し複雑さを増す現代社会を広く見渡すとともに、現代社会の諸問題を多角的に捉え、思考・判断する力を養います。そのために、様々な学問分野が培ってきた「ものの見方」や「考え方」、さらには幅広い知識や知的な諸技法を学びます。

自然科学系科目

自然科学は社会生活を送るうえで重要な分野の一つをなしています。社会人になってからの生活や社会活動の際に必要な科学的基礎知識と、論理的考察力、判断力を養います。数学、情報科学、物理学、天文学、科学史、地球科学、生物学、環境学、化学などの主要分野をカバーする科目を開設します。

スポーツ科学系科目

生涯にわたり健康で文化的な生活の基礎を築くとともに、文化としてのスポーツに対する理解を促し、現代社会におけるスポーツの役割や人間の身体がもつ可能性について考える機会とするための科目を設定しています。具体的には実際にスポーツや身体活動を行う実習科目や行動変容を促す講義科目を開設します。

(1) 単位認定の方法

単位は、それぞれの科目ごとに認定されます。

(2) 開講方式および履修方法

- ① すべての科目には配当セメスターが設定されており、配当セメスターより前のセメスターにおいては履修できません。
- ② 同一科目名の授業の中にも、セメスター型、通年型の開講方式があり、いずれの方式の授業でも履修できます（ただし、1科目のみ）。
- ③ 同一科目名で授業担当者が異なる場合でも同一科目として取り扱います。
よって、同じセメスターにおいて、二つ以上同時に履修することや一度単位認定された科目を再度履修することはできません。
- ④ 同一の科目名でありながら、「〇〇A」「〇〇B」「〇〇C」とある科目や「〇〇I」「〇〇II」「〇〇III」とある科目は、それぞれ独立した科目であり、いずれも卒業要件として認定されます。「〇〇A」という科目を修得していなくても、「〇〇B」の履修は可能です。なお、「〇〇I」「〇〇II」「〇〇III」の「I」「II」「III」は科目内容のグレードを表していますので、できるだけ順序だてて履修してください。

※「スポーツ技術学演習」

- ① 「スポーツ技術学演習」を履修するためには、本学で行う健康診断を受けておかなければなりません。健康診断の日程については履修説明会や本学ホームページにて確認してください。
- ② 各演習ともに、第1回目の授業は「体育館メインフロア（2階）」に集合してください。

4. 予備登録について

教養科目では、各授業科目の受講者数を適正規模に調整するために「予備登録制」がとられています。

したがって、教養科目の受講に際しては、年次にかかわらず、予備登録を行う必要があります。

予備登録を行う際は、予備登録できる上限科目数及び学期ごとに定められている履修登録制限単位数に基づき、履修計画をたてた上で、予備登録を行ってください（一部予備登録が不要な科目もありますので、以下の「(5) 予備登録が不要な科目」を参照してください）。

予備登録の結果、受講が許可された科目は、Web履修登録画面にあらかじめ確定した状態で表示されます。その場合、登録の取消はできませんので注意してください。

なお、予備登録で希望した科目の受講が許可されなかった場合や、予備登録を行わなかった場合でも、本登録時にWeb履修登録画面に表示されている科目を選択し履修登録（本登録）することができます。

(1) 予備登録の方法

本学ホームページの「ポータルサイト」から、Web予備・事前登録画面にアクセスの上、希望科目を選択します。

予備登録期間については、履修説明会およびポータルサイトで確認してください。

(2) 予備登録できる上限科目数

第1学期（前期）（通年科目含む）：7科目

第2学期（後期）：5科目

なお、4年次生には予備登録科目数の制限はありません。

(3) 予備登録結果発表

予備登録結果はWeb履修登録画面で確認してください。

なお、発表日時（履修登録期間）については、履修説明会およびポータルサイトで確認してください。

(4) 予備登録にあたっての注意事項

① 第1学期履修登録は、第1学期開講科目と通年型科目および8月と9月に開講されるサマーセッション科目を登録します。第2学期履修登録は第2学期開講科目を登録します（ただし、4年次生以上は、第1学期に第2学期開講科目を含む通年分の履修登録をする必要があります）。

② 各年次について定められている予備登録できる上限科目数および履修登録制限単位の範囲で予備登録をしてください。

③ 重複登録（同一曜講時に2科目以上の予備登録をすること）、二重登録（すでに修得した科目（既修得科目）を再度登録すること、および同時に同一科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目はすべて無効となります。

(5) 予備登録が不要な科目

以下の科目は予備登録が不要です。受講を希望する場合は、直接、履修登録（本登録）をしてください。

「人権論A・B」（1年次配当科目）

III 国際文化学科での学びとその流れ

「多様な他者をつなぐ人材」となるために、「世界を学び、私を知る」

国際文化学科では、「多様な他者をつなぐ人材」の育成を目標としています。

多様な他者をつなぐ人材とは、例えば、異なる文化間に生じる問題を調整できる人材、世界に向けて日本文化を発信できる人材、そして国際社会における多様性の尊重に貢献できる人材などを指します。

そうした人材になるには、日本を含む世界の多様な言語と文化を学びつつ、豊かな教養を身につけ、コミュニケーションやプレゼンテーションのスキルを高めていくことが重要です。そこで国際文化学科では、『世界を学び、私を知る』という基本理念を掲げ、入学した皆さんがそうした人材を目指して成長できるよう、体系的な教育課程（カリキュラム）を提供しています。

入学から卒業に至る、標準的な学びの流れは以下のようになります。この流れに沿って、何事にも主体的かつ積極的に取り組み、大学生活を充実させることで、皆さんは日本を含む世界を舞台に活躍できる「多様な他者をつなぐ人材」に近づくことができるはずです。

1. 1年次

- ・前期に「リサーチセミナーⅠ」、後期に「リサーチセミナーⅡ」を履修し、大学での学びに必要な基礎的な視座、知識、スキルなどを身につけます。
- ・前期に「仏教の思想A」、後期に「仏教の思想B」を履修し、龍谷大学の建学の精神を学び、龍谷大学生として求められる素養を身につけます。
- ・外国語については、入学時の選択にもとづき、1言語型（英語のみ）または2言語型（初修外国語＋英語）のいずれかで週5回の授業を受けます。
- ・教養教育科目や学科基礎科目のうち、興味・関心あるものを選択し履修します。

「大学での学び」とは、簡単に言えば、「自ら問題を発見・設定し、その解決のために資料を収集・分析し、レポートとして文書にまとめたり、プレゼンテーションしたりすること」です。その究極の目的は、「客観的な論拠を提示して他者を説得し、学術的な知見の蓄積と社会課題の解決に貢献すること」にあると言えるでしょう。知識の記憶と再現に重点を置く高校までの「学習」と異なり、大学では主体的に何をどのように学ぶかを決め、その問いに対する主張や根拠を世界共通のルールでまとめていく「研究」が求められます。

国際文化学科の新入生は、そうした大学での学びに必要な基礎を固めるべく、前期に「リサーチセミナーⅠ」、後期に「リサーチセミナーⅡ」を履修します。また、龍谷大学生として、本学の建学の精神を涵養すべく、教養教育科目のうち「**仏教の思想A**」と「**仏教の思想B**」も履修します。これら4科目は必修科目であり、これら科目の単位を修得しないと卒業することができません。

同時に、外国語能力を重視する国際文化学科では、1年次から**外国語**を重点的に学びます。外国語は、**1言語集中型（英語のみ週5回）**と**2言語型（フランス語／中国語／コリア語のいずれか週3回＋英語週2回）**があり、入学時にどちらかの履修パターンを選びます（外国人留学生は日本語のみ選択可）。英語の習得に集中するか、英語に加えてもう一つ外国語を学ぶか。必修外国語の選択に関しても、上述した主体性が早速求められます。

概して1年次は外国語を含めて必修科目が多く、時間割を自分で自由に組む余地はそれほど多くありません。ただし選択科目も存在します。1学期（セメスター）で履修できる単位数の上限に気をつけながら、「**教養教育科目**」や「**学科基礎科目**」から興味や関心のある科目を選択し履修します。不明な点がある場合は、教務課スタッフやリサーチセミナー担当教員に質問しましょう。

国際学部生であれば海外留学にも積極的に挑戦してください。海外留学には様々な種類・期間・制度があ

ります。いずれも相応の準備期間や費用が必要になります。海外留学を希望する場合は、1年次から早めに情報収集や語学の勉強を開始しましょう。国際学部生の留学に関しては、グローバル教育推進センター内に設置された「留学サポートデスク」スタッフが相談等に応じてくれます。

2. 2年次

- ・「リサーチセミナーⅢ」を履修し、1年次に習得した「大学での学び」の基礎を深めます。
- ・留学や海外インターンの予定がある場合は、リサーチセミナーⅢの代わりに「海外研修（異文化交流）」を履修することもできます。
- ・引き続き1年次に選択した外国語（英語または初修外国語）を履修し、外国語能力のさらなる向上を目指します。
- ・より専門的に「世界を学び、私を知る」ことができる学科専攻科目の受講が始まります。
- ・学科専攻科目として、必修外国語以外の多様な外国語も学ぶことができます。
- ・後期に3年次から所属を希望する演習（ゼミ）を決めます。

国際文化学科では、2年次で基礎学力や外国語能力を確実なものとし、3年次から専門演習（いわゆるゼミ）などを通じて学びを深めるカリキュラムとしています。

そのため2年次に、学科専攻科目の1つである「リサーチセミナーⅢ」を履修し、大学での学びに必要な知識やスキルに磨きをかけます。なお、海外留学や海外インターンを予定している場合は、リサーチセミナーⅢの代わりに「海外研修（異文化交流）」を履修します。これらの2科目は「選択登録必修」であり、いずれかを必ず履修登録しなければなりません。

外国語については、引き続き選択した外国語（英語／フランス語／中国語／ロシア語のいずれか）を週3回学び、運用能力をさらに高めていきます（外国人留学生は日本語）。

また、自身の興味・関心や将来のキャリア展望にもとづき、それぞれの科目区分ごとに定められた卒業要件単位数を満たすよう、「教養教育科目」、「学科基礎科目」、「学科専攻科目」を履修していきます。1年次に比べ授業を選択できる余地が増えますので、授業の概要や詳細についてまとめられたシラバスを熟読し、主体的に自分の学びをデザインしましょう。

学科専攻科目は、共通科目と5つの科目群（比較宗教、地域研究、人間と共生、メディアと社会、芸術・表現）で構成されています。

共通科目には、学科独自の修了証を発行する国際ツーリズムプログラム（ITP）関連科目、キャリア関連科目、多様な言語文化を学べる科目（ペルシア語、トルコ語、アラビア語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、ポルトガル語）などがあります。また、これまで学んできた英語・フランス語・中国語・ロシア語についても、より高度で実践的な内容の科目が準備されています。

5つの科目群については、特に制約なく自由に履修できます。特定の科目群に集中して深く掘り下げる、主専攻と副専攻を自分なりに決めてバランスをとる、敢えて科目群を横断して幅広く学ぶなど、多様な履修パターンが考えられます。入学までの基礎的な学びを土台に、主体性をもって自分なりの方針と計画性をもって科目を選択してください。

2年次の後期には、3年次以降に所属する演習（ゼミ）を選びます。ゼミは大学生活後半の柱となる専門教育です。20人前後の少人数で、3年次～4年次を通じて担当教員の指導や助言を受けながら、大学生活の集大成となる卒業論文（または卒業制作）を完成させていきます。

3. 3年次および4年次

- ・ 3年次前期に「専門演習A」を履修し、担当教員の指導や助言を受けながら専門性を深めます。
- ・ 3年次後期に「専門演習B」を履修し、卒業論文（または卒業制作）に向けた準備を進めます。
- ・ 卒業論文（卒業制作）は、4年次に「卒論演習A」と「卒論演習B」を履修して進めます。
- ・ 専門演習Bの単位未修得の場合、卒業論文（または卒業制作）はせず、代わりに4年次に「国際文化Study Project」（A～D）を履修します。
- ・ キャリア実習を含む就職活動が3年次後期から4年次前期にかけて徐々に本格化します。うまくスケジュールを管理して学業と両立できるようにしましょう。
- ・ 科目区分ごとの卒業要件単位に達するまで、引き続き計画的に授業を履修します。

3年次前期には、必修科目として「専門演習A」を履修します。専門演習Aでは、担当教員の指導や助言を受けながら、各ゼミの専門性ならびに自身の興味・関心を踏まえた研究を進めます。なお、専門演習Aは必修科目の「リサーチセミナーⅠ」を修得していないと履修できません。

また、3年次後期には、登録必修科目として「専門演習B」を履修します。専門演習Bは、卒業論文を書く（卒業制作をする）かどうかを見極める授業となります。専門演習Bの単位を落とした場合、卒業論文（卒業制作）をすることはできず、代わりに4年次に「国際文化Study Project」（A～Dの4科目）を履修して卒業します。専門演習Bの単位を修得した場合は、4年次前期に「卒論演習A」、4年次後期に「卒論演習B」をそれぞれ履修し、卒業論文（または卒業制作）を完成させます。なお、卒論演習Aは専門演習Bを修得していないと履修できません。

同時に、科目区分ごとに定められた卒業要件単位数を満たすまで、引き続き授業を履修していきます。4年次後期末の段階で科目区分ごとの卒業要件単位を1つでも満たしていない場合、卒業ができなくなります（＝留年）ので注意しましょう。

なお、3年次後期から4年次前期にかけて、キャリア実習を含めて就職活動が徐々に本格化します（企業によって時期は異なります）ので、龍谷大学キャリアセンターが発信する様々な情報や主催イベントに敏感になりましょう。就職活動の時期になると、平日でも企業の説明会や面接が頻繁におこなわれますし、企業が課す筆記試験の対策や企業研究などで忙しくなります。学業と就職活動を両立できるようスケジュールをうまく管理しましょう。こうした場面でも、大学生ならではの自主性が求められることになります。

IV 科目区分と卒業に必要な単位数

国際文化学科の学生が受講できる授業は、「科目区分」と呼ばれるグループに分類されています。それぞれの科目区分ごとに卒業に必要な単位数や必修科目が定められています。裏返せば、いくら単位を多く取っても、科目区分ごとに定められた要件を満たさなければ卒業することはできません（ある科目区分で修得した単位を、他の区分に置き換えることはできません。フリーゾーンは除く）。

本履修要項をよく読み、また、不明な点は教務課に直接確認するなどして、以下条件を満たすよう計画的かつ正確な履修を心がけてください。詳細は下表のとおりです。

科目区分	卒業要件単位	備考
学科外国語科目	20単位以上	1 年次：＜英語週 5 回＞または＜初修外国語週 3 回＋英語週 2 回＞ （必修・14 単位） 2 年次：＜英語週 3 回＞または＜初修外国語週 3 回＞ （必修・6 単位） ※外国人留学生は日本語のみ履修可
教養教育科目	18単位以上	仏教の思想 A、仏教の思想 B（必修・4 単位） 基幹科目 人文科学系科目から 2 単位以上（選択必修） 社会科学系科目から 2 単位以上（選択必修） 自然科学系科目から 2 単位以上（選択必修） その他選択科目（8 単位以上）
学科基礎科目	16単位以上	リサーチセミナーⅠ、リサーチセミナーⅡ（必修・4 単位） その他選択科目（12 単位以上）
学科専攻科目	50単位以上	・リサーチセミナーⅢまたは海外研修（異文化交流）（選択登録必修・2 単位） ・専門演習 A（必修・2 単位） ・専門演習 B（登録必修）で卒業論文執筆適性を見極める。 【専門演習 B 合格者】 ・専門演習 B（2 単位）、卒論演習 A（3 単位）、卒論演習 B（3 単位）。 【専門演習 B 不合格者】 ・国際文化 Study Project A～D（合計 8 単位）。 ・その他選択科目（40 単位以上）
フリーゾーン	20単位以上	各科目区分で修得した余剰単位のほか、コンソーシアム京都単位互換科目、グローバルスタディーズ学科提供科目など。
合計	124単位以上	

1. 学科外国語科目（卒業要件：20単位以上）

「多様な他者をつなぐ人材」として社会で活躍していく上で、外国語の習得は重要です。そのため国際文化学科のカリキュラムでは外国語科目の比重が大きく、20単位以上の修得を求めています。

学科外国語科目は、英語／フランス語／中国語／韓国語、そして外国人留学生を対象とする日本語の 5 言語で構成され、いずれも少人数教育を特色としています。

国際文化学科の学生は、① 1 言語集中型（英語のみ）、または② 2 言語型（フランス語／中国語／韓国語のいずれか＋英語）のどちらかを入学時に選択します。世界共通語としての重要性から、英語はいずれのパターンでも必ず 1 年次には学ぶことになります。

1 言語集中型は 1 年次に週 5 回、2 年次に週 3 回の英語授業があります。2 言語型では、1 年次に初修外国語（フランス語／中国語／韓国語）週 3 回＋英語週 2 回、2 年次に初修外国語週 3 回の授業を受けます。外国人留学生は日本語のみを 2 年間学びます。日本語の授業は 1 年次に週 5 回、2 年次に週 3 回あります。

※上記以外の外国語を学習したい場合や、学生生活を通じて外国語の習得に力を入れたい場合は、学科専攻科目として開講されている外国語関連科目（日本語を含めて12言語の授業があります）を履修することができます。

2. 教養教育科目（卒業要件：18単位以上）

教養教育科目は、より広い視野から学生の興味・関心や研究テーマについて理解を深めることを目的としています。人文／社会／自然／スポーツの分野に属する科目で構成され、他学部生と一緒に受講します。多様な科目が揃っていますので、自分自身の興味・関心・進路希望などに応じて選択・履修してください。なお、教養教育科目のうち、本学の建学の精神を涵養する科目として、「仏教の思想A」と「仏教の思想B」（各2単位）は必修です。また、少なくとも人文科学系科目、社会科学系科目、自然科学系科目からそれぞれ2単位以上を履修する必要があります。

詳細については、「教養教育科目の教育目的および履修方法」（P.28～）を参照してください。

3. 学科基礎科目（卒業要件：16単位以上）

国際文化学科の学生として、入学後の早い段階で接しておくべき入門的な内容を集めた科目区分です。学科基礎科目には多様な科目を配置しています。自分自身の興味や関心に応じて科目を選択し、大学生活を通じて何を学び研究したいのか、将来どのようなキャリアを志望するのか見極めてみてください。

基礎科目のうち、「リサーチセミナーⅠ」と「リサーチセミナーⅡ」（各2単位）は必修です。

リサーチセミナーⅠでは少人数教育を通じて、資料収集とレポート執筆を中心に、大学での学びで必要となる知識や技法の基礎を身につけます。リサーチセミナーⅡでは、リサーチセミナーⅠの学修内容を再確認しつつ、学術研究に関する知識や研究方法を幅広く学び、大学での学びの基礎を完成させていきます。

4. 学科専攻科目（卒業要件：50単位以上）

国際文化学科での学びの根幹となるもので、学科基礎科目での学修内容を土台に、さらに発展した内容を専門的に学ぶ科目区分です。学生の多様な興味・関心に応じられるよう、全科目区分のうち最も多い科目数を揃えています。専攻科目の多くは2年次以降から履修できるようになります（一部科目は1年次から履修可）。

このうち、「リサーチセミナーⅢ」（2単位）、「海外研修（異文化交流）」（2単位）のいずれかは必ず履修しなければなりません（選択登録必修）。リサーチセミナーⅢは、担当教員の専門性を生かした多様な授業内容が用意され、1年次に履修したリサーチセミナーと、大学生活後半の専門的な学びの橋渡しを担います。海外文化研修（異文化交流）は、学生の自発的な海外留学や海外インターンシップ経験について、事前学習や帰国後のレポート提出などをもって単位を認定するものです。

また、専攻科目のうち唯一の必修科目となるのが「専門演習A」（2単位）です。続く「専門演習B」（2単位）は必ず履修登録しなければならない登録必修科目になります。

専門演習AおよびBを通じて、担当教員の指導と助言を受けながら自らの研究関心を明確にし、卒業論文または卒業制作に対する意欲や適性を見極めます。学生自身が卒業論文（卒業制作）を希望し、かつ、担当教員が適格と判断した場合は専門演習Bの単位が認められます。その一方で、学生自身が卒業論文（卒業制作）を希望しない場合、または、当該学生について担当教員が卒業論文（卒業制作）は困難であると判断した場合、専門演習Bは単位が認められず未修得となります。

専門演習Bの単位を修得した場合は、4年次に「卒論演習A」および「卒論演習B」（各3単位）を履修し、指導教員の助言を受けつつ、1年かけて卒業論文または卒業制作を完成させます。専門演習Bを未修得の場合は、代わりに4年次に「国際文化Study Project（ICSP）」（A～D、各2単位で計8単位）を順次履修します。ICSP（A～D）では、担当教員の指導や助言を受けつつ、A～Dそれぞれで一定の学習または研究成果をまとめます。

3年次以降のこれら科目の関係は以下ようになります。

3 年前期	3 年後期		4 年前期		4 年後期		単位数
専門演習 A (必修) 2 単位	演習 B (登録必修) 2 単位	単位修得 (卒業論文あり)	卒論演習 A 3 単位		卒論演習 B 3 単位		合計 10 単位
		単位未修得 (卒業論文なし)	ICSP A 2 単位	ICSP B 2 単位	ICSP C 2 単位	ICSP D 2 単位	

上記以外の学科専攻科目は、以下のように、5つの科目群と共通科目に分けられています。共通科目には、外国語（英語、フランス語、中国語、コリア語、ペルシア語、トルコ語、アラビア語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、ポルトガル語、日本語）のほか、国際ツーリズムプログラム（ITP）関連科目、キャリア関連科目などが含まれます。

- ① 比較宗教群
- ② 地域研究群
- ③ 人間と共生群
- ④ メディアと社会群
- ⑤ 芸術・表現群
- ⑥ 共通科目 ※外国語、国際ツーリズムプログラム（ITP）、キャリア関係科目など

上述した専門演習 A から卒論演習または ICSP に至る 10 単位以外については、いずれの科目群からも自由に履修することができます。入学当初の想いや将来の希望などを勘案し、残る 40 単位分の履修計画を立ててください。学科のホームページなどを通じて、究めたい学びや就きたい職業などに応じた履修モデルも提示しますので、どのように履修すべきか迷った場合は参考にしてください。

5. フリーゾーン（卒業要件：20 単位以上）

卒業要件 124 単位のうち、上記科目区分でそれぞれ定められた単位数を差し引くと 20 単位が不足します。これを「どの科目区分にも該当しない領域」という意味でフリーゾーンと呼びます。

フリーゾーンは、学生自身の興味や関心にもとづき、制約なく自由に履修できる区分です。学科外国語科目、教養教育科目、学科基礎科目、学科専攻科目のいずれを履修しても構いません。上記科目区分の卒業要件単位数（例：学科基礎科目であれば 16 単位）を越えて修得した単位は、自動的にフリーゾーンの単位数としてカウントされます。

また、グローバルスタディーズ学科開講科目のほか、コンソーシアム京都単位互換科目、留学・国際交流プログラム、各種キャリア実習などの単位もフリーゾーンで認定されます。こうした授業科目の一部には受講条件が設定されているものがあります。詳細については本履修要項を確認してください。

6. その他（単位互換科目、教職課程、博物館学芸員課程、本願寺派教師資格課程など）

単位互換科目制度とは、国際文化学科にはない科目を補うため、「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度を利用し、大学コンソーシアム京都加盟の他大学で開講されている科目（産学連携教育プログラムを含む）や、放送大学の科目を履修するものです。

また、国際文化学科では、「中学校教諭一種免許（英語科）」、「高等学校教諭一種免許（英語科）」、「博物館学芸員」、「本願寺派教師」、「ICCO 文化交流創成コーディネーター」などの資格を取得できます。これらの資格を取得するには、それぞれの課程が定めた科目を修得する必要があります。

これらについての詳細は、履修要項の該当ページを確認してください。また、不明な点があれば教務課や教職センターに確認・相談してください。

V 国際ツーリズムプログラム (International Tourism Program) について

1. 制度の概要

国際ツーリズムプログラム (International Tourism Program、以下ITP) は、国際文化学科生の自らを旅行者として捉える観光への関心、また、就職先としての旅行・観光業界への関心の高まりを背景に設置されたものです。

ITPについては申込みなど事前の手続きは不要です。卒業までに修了要件を充足した場合、インターンシップ経験および関連知識の修得を認定するものとして、国際文化学科が発行する「ITP修了証」を申請することができます。

本プログラムは、龍谷大学が立地する京都を筆頭に、諸外国から日本を目指す観光客（いわゆる「インバウンド」）の急増と、世界的規模で拡大する観光人口の動向に対応しようとするものです。国際文化学科の卒業生が、観光を通じた世界と日本の相互交流を架橋ならびに創出できる人材となるよう、実務的側面も含めた多様な科目を提供しています。

2. 修了要件

下記(1)(2)を併せて、合計20単位を修得することが修了認定の条件となります。

(1) 以下①②のインターンシップ関連科目から、それぞれ2単位(計4単位以上)を修得すること。

①「リサーチセミナーⅢ」(2単位)のうち、指定されたもの。

②龍谷大学が提供する「RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム」、または大学コンソーシアム京都が提供する「産学連携教育プログラム」のうち、指定された受入先企業でのインターンシップ実習を修了していること。

(2) 学科専攻科目のうち、以下に掲げるITP関連科目から16単位以上を修得すること。

<ITP関連科目>※いずれも2単位

【1年次から履修できるもの】

「観光学入門」、「旅行の法律」、「旅行の契約」

【2年次から履修できるもの】

「観光社会論」、「ホスピタリティ論」、「観光心理学」、「国際観光論」、「観光文化論A」、「観光文化論B」、「京都観光学B」、「文化・観光政策」、「国内旅行の実務」、「海外旅行の実務」

【3年次から履修できるもの】

「京都観光学A」、「実践フランス語C」、「実践フランス語D」、「実践韓国語C」、「実践韓国語D」、「実践中国語C」、「実践中国語D」、「English Workshop C」、「English Workshop D」

VI キャリア教育とキャリアデザイン

社会経済のグローバル化と国内の少子化を背景に、日本でも外国から人材を受け入れる傾向が強まっています。その帰結として、日本社会の構成員が文化・民族・宗教などの面で多様化する「内なるグローバル化」が進んでいます。

内なるグローバル化は日本社会を豊かにし、私たちの視野を広げます。その一方で、生活習慣や価値観の違いが文化的摩擦を生むことも否定できません。それゆえ、日本社会の内なるグローバル化が進むほど、「多様な他者をつなぐ人材」としての素養を身につけた国際文化学科生が活躍できる領域は広がっていくと考えられます。

以下では、学科の人材育成方針や教育課程をふまえ、国際文化学科の卒業生にどのようなキャリアが考えられるか、どのようなキャリア関連科目やプログラムがあるかについてまとめておきます。卒業後のキャリアについて考え始めるのが早いほど、目標（＝こうなったら成功と思える姿）が明確になり、大学生活を充実させることにつながります。龍谷大学キャリアセンターや学外のイベント等も有効活用しながら、自身の将来について早めに考えるようにしましょう。

1. 想定する進路

国際文化学科での学びを活かしやすいと考えられる業界・職種・職業として、例えば次のようなものが挙げられます（あくまで一例です）。

- ・顧客や社員の文化的多様性が顕著な企業（多国籍企業、グローバル企業など）
- ・海外展開に積極的な日本企業
- ・企業におけるダイバーシティマネジメント業務、広報業務
- ・国家公務員（特に外務省、出入国在留管理庁、観光庁、税関職員、航空管制官など）
- ・地方公務員（地方自治体の多文化共生推進部門）、国際交流に関する公益法人など
- ・地方自治体の観光振興部門、観光に関する公益法人など
- ・地方自治体の芸術・文化振興部門、芸術・文化に関する公益法人、企業のメセナ部門など
- ・地方自治体の都市計画、住宅行政部門など
- ・国際協力、多文化共生、文化遺産、自然環境などに関するNGOやNPO
- ・公立および私立学校における英語科教員（中学、高校）
- ・海外および国内における日本語教員
- ・通訳、翻訳家（会議通訳、映像翻訳、通訳案内士など）
- ・旅行業（旅行代理店、各種オペレータなど）、ツアーコンダクター
- ・旅客運輸業（航空会社、鉄道会社、バス会社など）、ホテル・旅館などの宿泊業
- ・メディア業界（出版、放送、新聞、広告など）、コンテンツ産業（音楽、ゲーム、映画など）
- ・浄土真宗本願寺派開教使（海外における布教活動）、宗教法人職員
- ・国内外大学院への進学、起業

2. キャリア科目

国際文化学科では、キャリアデザインにとって参考となるキャリア関連科目を開講しています。必修科目ではありませんが、自身の将来を考える上で役に立ちますので、入学後の早い段階で履修することを推奨します。

① キャリアデザイン入門（学科基礎科目、2単位） ※第1セメスターから履修可

責任ある仕事を体験する機会の少ない学生にとって、キャリアデザインへの早期からの取り組みが重要であることを実践的に学ぶ科目です。就職活動で有効なのは、「大学でどのような行動を起こし、何を得たのか」を自分の言葉で堂々と語ることです。本科目では、なぜそのような考え方が必要なのか、また、それを自分の言葉で語る重要性を学びます。

② グローバル時代のキャリアデザイン（学科専攻科目、2単位） ※第3セメスターから履修可

現代では、キャリアデザインも社会経済のグローバル化を強く意識する必要があります。本科目では、世界経済の大きな変化を理解し、また、それを日本の文脈で捉え直し、今後どのようなキャリア形成が必要になるのかを学びます。授業では、受講者間での討議や発表機会もできるだけ導入し、受講者自らが主体的に学ぶ機会を追求します。

3. その他

・企業や団体等でのキャリア実習は、就業機会に限られる学生に様々な経験を与えてくれます。すべての龍谷大学生を対象とした単位を修得できるプログラムとして、①大学コンソーシアム京都「産学連携教育プログラム」、②RYUKOKUキャリア・スタートプログラム、の2つがあります。また、企業が個別に実施するインターンシップやキャリアスタートに関するプログラムについても、1年次から参加できるものも含めて多数あります。「まずは行動から」を肝に銘じ、積極的に情報収集しましょう。

・教養教育科目には「経済学のすすめ」（2単位）があります。また、学科専攻科目には「日本の経済と社会」（2単位）、「国際経済と日本」（2単位）があります。社会経済のグローバル化が進む現代において、日本を含む世界経済に関する知識と理解は大きく役立つはずで、積極的に受講してみましょう。

・外国語の資格試験を念頭に置いた授業もあります。就職活動時に先立ち、自身の外国語能力を客観的に証明する公的資格を取得しておくことも有効です。上述したような進路に興味のある学生は、積極的にこうした授業も受講してみましょう。履修を希望する場合は事前にシラバスを熟読し、内容をしっかり確認するようにしてください。

資格試験名称	授業科目名・科目区分・単位数
TOEIC®L&R	Advanced English B（学科専攻科目、2単位）
実用フランス語技能検定試験	実践フランス語A・B（学科専攻科目、各2単位）
HSK（中国政府公認の中国語検定）	実践中国語A・B（学科専攻科目、各2単位）
韓国語能力試験	実践コリア語A・B（学科専攻科目、各2単位）

・自ら起業することも立派なキャリア展開です。REC（龍谷エクステンションセンター）では、学生ベンチャー育成に関する様々な企画（教育事業、イベント事業、インキュベーション事業）を展開しています。龍谷大学生であれば、学部や学年を問わず誰でも参加することができます。

そのねらいは、①日本経済復興の鍵となる新事業や新産業創出のため、「大学発学生ベンチャー」の発掘や育成を行う、②新しい目標や課題に対して、積極的にアイデアを出し企画・実行していく応用能力や実践能力を養成し、チャレンジ精神、創造性の豊かな人材を社会に輩出することにあります。興味や関心がある学生は、ぜひ積極的にチャレンジしてみましょう。

・卒業に必要な単位の修得はできませんが、ほかにも以下のような教育プログラムや講座が開講されています。興味のある人は情報収集に努め、積極的に受講しましょう。それぞれについての詳細は、教務課やキャリアセンターなどで確認してください。

教職課程、本願寺派教師資格課程、博物館学芸員課程、ICCO文化交流創成コーディネーター資格認定制度、国際伝道者養成課程、矯正・保護課程、法職課程、教員採用試験対策講座、キャリア支援講座、公務員試験対策講座など

- ・龍谷大学のキャリアセンター（5号館1階）を積極的に利用しましょう。各種セミナーや個別のカウンセリングがおこなわれるほか、職業・業界・職種・企業に関する豊富な資料を常時閲覧可能です。また、資格試験対策講座や公務員試験対策講座なども実施しています。「自分にはまだ早い」とは思わず、1年次から積極的に利用することを強く推奨します。

VII 履修方法・履修上の注意点

国際文化学科の学生は、卒業後に「多様な他者をつなぐ人材」、例えば、異なる文化間に生じる問題を調整できる人材、世界に向けて日本文化を発信できる人材、国際社会における多様性の尊重に貢献できる人材として活躍することが期待されます。

そうなるためには、龍谷大学の建学の精神を学びつつ、4年間で『世界を学び、私を知る』ことが求められます。また、高校までとは異なる大学での学びに一日でも早く慣れるよう、基礎的な知識や技法を計画的に習得することが期待されています。

国際文化学科では、学生が体系的にそれらを身につけ、着実に成長できる教育課程（カリキュラム）を準備していますが、守るべき履修上のルールもいくつかあります。このルールを守らないと4年間で卒業できなくなりますので、大学生活を通じて日常的に確認するようにしてください。

1. 必修外国語の履修方法

国際文化学科では、「学科外国語」という科目区分で必修外国語を定めています。国際文化学科で開講されている必修外国語は、**英語・フランス語・中国語・コリア語・日本語**の5言語です。フランス語・中国語・コリア語は初級者を、英語は本学入学前に基礎を勉強した人を、日本語は母語が日本語以外の人（外国人留学生）を対象にしています。必修外国語は卒業までに20単位を修得しなければなりません。

必修外国語は、下表のとおり、入学時に1ヶ国語（英語週5回の1言語集中型）あるいは2ヶ国語（フランス語、中国語、コリア語のいずれかを週3回+英語週2回の2言語型）を選択して受講します。

必修外国語の履修パターン（入学時に選択）

	1年次	2年次
1言語集中型	英語（週5回）	英語（週3回）
	日本語（週5回）※	日本語（週3回）※
2言語型	フランス語（週3回）+英語（週2回）	フランス語（週3回）
	中国語（週3回）+英語（週2回）	中国語（週3回）
	コリア語（週3回）+英語（週2回）	コリア語（週3回）

※日本語は留学生のみ選択

1年次は、各言語のⅠ・Ⅱおよび「English Communication (EC)-Seminar A・B」（留学生は「日本語セミナー」）を合わせて週5回受講します。2年次は、各言語のⅢ・Ⅳを週3回受講します。必修外国語（学科外国語科目）の履修条件は以下のとおりです。なお、EC-Seminar A では討論手段としての英語を、EC-Seminar B では比較的高度な英文読解や英文法を学びます。

- ① 留学生を含めて、母語を外国語として選択することはできません。
 - 例1) 「留学生入試」で入学された留学生は日本語を選択してください。
 - 例2) 「留学生入試」以外の入試で入学された留学生は、母語以外の言語を選択してください。
- ② 必修外国語は先修制となっています。ローマ数字（Ⅰ～Ⅳ）が付いた科目の場合、「○○Ⅰ」を修得していなければ、続く「○○Ⅱ」を履修することはできません。同様に、Ⅱ→Ⅲ、Ⅲ→Ⅳについても、それぞれ先行する科目を修得しなければ続く科目を履修できません。先行する科目を不合格となった場合、再履修する必要があります。
- ③ 1言語集中型の場合は、必修外国語として第1～第4セメスターでそれぞれⅠ～Ⅳ（各1単位）を履修します。また、第1～第2セメスターでは「ECⅠ・Ⅱ-Seminar A・B」（各2単位）も履修します。

例えば、英語を選択した場合、1年次（第1～第2セメスター）は、「EC-Speaking I・II」、「EC-Writing I・II」、「EC-Reading I・II」の6科目（計6単位）と、「EC I・II-Seminar A・B」の4科目（計8単位）、合計14単位を履修します。2年次（第3～第4セメスター）は、「EC-Speaking III・IV」、「EC-Writing III・IV」、「EC-Reading III・IV」の6科目（計6単位）を履修します。

日本語の場合は、第1～第4セメスターで「日本語 I～IV」（各3単位）を履修します。また、第1～第2セメスターでは「日本語セミナー A～D」（各2単位）も履修します。

1 言語集中型を選択した場合の必修外国語

1年次（英語週5回）				2年次（英語週3回）			
第1セメスター	単位	第2セメスター	単位	第3セメスター	単位	第4セメスター	単位
EC I-Speaking	1	EC II-Speaking	1	EC III-Speaking	1	EC IV-Speaking	1
EC I-Writing	1	EC II-Writing	1				
EC I-Reading	1	EC II-Reading	1				
EC I-Seminar A	2	EC II-Seminar A	2	EC III-Reading	1	EC IV-Writing	1
EC I-Seminar B	2	EC II-Seminar B	2			EC IV-Reading	1
7単位		7単位		3単位		3単位	

(EC : English Communication)

日本語を外国語とする場合（留学生対象）

1年次（日本語週5回）				2年次（日本語週3回）			
第1セメスター	単位	第2セメスター	単位	第3セメスター	単位	第4セメスター	単位
日本語 I	3	日本語 II	3	日本語 III	3	日本語 IV	3
日本語セミナー A	2	日本語セミナー C	2				
日本語セミナー B	2	日本語セミナー D	2				
7単位		7単位		3単位		3単位	

- ④ 2言語型の場合は、選択した外国語（フランス語・中国語・コリア語のいずれか）につき、必修外国語として第1～第4セメスターでそれぞれ I～IV（各3単位）を履修します。また、第1～第2セメスターでは「EC I・II-Seminar A・B」（各2単位）も履修します。2言語選択型の場合、1年次のみ英語も学修します。2年次（第3～第4セメスター）では必修外国語としての英語はありません。

2 言語型でフランス語を選択した場合の必修外国語

1年次（フランス語週3回+英語週2回）				2年次（フランス語週3回）			
第1セメスター	単位	第2セメスター	単位	第3セメスター	単位	第4セメスター	単位
フランス語 I	3	フランス語 II	3	フランス語 III	3	フランス語 IV	3
EC I-Seminar A	2	EC II-Seminar A	2				
EC I-Seminar B	2	EC II-Seminar B	2				
7単位		7単位		3単位		3単位	

(EC : English Communication)

2 言語型で中国語を選択した場合の必修外国語

1年次（中国語週3回+英語週2回）				2年次（中国語週3回）			
第1セメスター	単位	第2セメスター	単位	第3セメスター	単位	第4セメスター	単位
中国語 I	3	中国語 II	3	中国語 III	3	中国語 IV	3
EC I-Seminar A	2	EC II-Seminar A	2				
EC I-Seminar B	2	EC II-Seminar B	2				
7単位		7単位		3単位		3単位	

(EC : English Communication)

2 言語型で韓国語を選択した場合の必修外国語

1年次（韓国語週3回＋英語週2回）				2年次（韓国語週3回）			
第1 Semester	単位	第2 Semester	単位	第3 Semester	単位	第4 Semester	単位
韓国語Ⅰ	3	韓国語Ⅱ	3	韓国語Ⅲ	3	韓国語Ⅳ	3
ECⅠ-Seminar A	2	ECⅡ-Seminar A	2				
ECⅠ-Seminar B	2	ECⅡ-Seminar B	2				
7単位		7単位		3単位		3単位	

(EC：English Communication)

2. 学科専攻科目の科目群について

学びを究めるための学科専攻科目は、5つの科目群と共通科目から構成されています。各科目群のコンセプトは次のとおりです。学生はこれらの科目群および共通科目から好きな科目を選び、卒業までに50単位以上を修得する必要があります。ただし、後述するように、必修の「専門演習A」と、それに続く10単位分の科目については一定のルールがあります

比較宗教

仏教・キリスト教・イスラームなど世界の宗教文化の特色を理解し、共通点や相違点を比較分析します。宗教の観点から異文化理解と実践的交流を目指します。

地域研究

地域に特有の文化や社会・経済、人びとの生活を比較考察して、アジア・太平洋地域を中心とした相互理解を目指します。また、日本、特に本学の拠点である京都の地域文化を多角的に学び、多様化する文化的価値の本質を探究します。

人間と共生

人と自然、人と人の共生の現状と可能性を探ります。グローバル化や都市化にともなう人の移動や住環境、自然や社会の変化を対象として、理論とフィールドの両面から探究します。

メディアと社会

グローバル化と情報化が進む現代社会におけるメディアの役割・意義・課題などを探究します。また、自ら情報を発信する際に必要となる技法や倫理を学びます。

芸術・表現

芸術を通して、文化を国際的な視点で学んでいきます。美術、舞台芸術、文学、漫画などのアート表現を中心に、それらの理論と技法を多角的に研究します。

共通科目

上記5つの科目群に属さない科目です。学科独自の修了証を申請できる国際ツーリズムプログラム（ITP）関連科目のほか、演習系科目、キャリア関連科目、必修外国語とは別枠で学ぶ多様な外国語科目（12言語）などが含まれます。

3. 国際ツーリズムプログラム (ITP) について

国際ツーリズムプログラム (ITP) は、卒業までに修了要件を充足した場合、インターン経験および関連する知識の修得を認定するものとして、国際文化学科が発行する「ITP修了証」を申請することができるものです。ITPについては事前の登録手続きは不要です。詳細はITPに関するページ (本履修要項P.39) を確認してください。

4. 専門演習および卒論演習について

一般に演習 (ゼミ) とは、3～4年次に配当され、同一の担当教員の指導の下、少人数 (20人前後) で調査や研究を進める科目のことで、通常、大学生活の集大成となる卒業論文 (または卒業制作) を仕上げることがを主たる目的とします。

国際文化学科では、3年次前期に「専門演習A」(2単位) を必修とし、そこからゼミがスタートします。続く3年次後期には「専門演習B」(2単位) を履修し、卒業論文 (卒業制作) を作成するかどうかを見極めます。なお、専門演習Aは、必修科目の「リサーチセミナーⅠ」を修得していないと受講することができません。

卒業論文 (卒業制作) を作成する場合は、専門演習Bを修得した上で、4年次前期に「卒論演習A」(3単位)、4年次後期に「卒論演習B」(3単位) を続けて履修し、ゼミ担当教員の指導と助言を受けながら、最終年度の1年をかけて卒業論文または卒業制作を完成させます。

演習担当教員が当該学生について卒業論文 (卒業制作) を作成するのに十分な知識や能力が足りないと判断した場合、専門演習Bは未修得 (不合格) のまま、4年次に「国際文化Study Project」A～Dの4科目 (各2単位) を代わりに履修し、卒業に必要な単位を修得します。

なお、所属する専門演習Aの選択は2年次後期にします (応募者が定員を超えたゼミは選考がおこなわれます)。詳細については、別途ポータルサイト等を通じてお知らせします。

5. 国際文化Study Projectについて

卒業論文 (卒業制作) をしない場合に必ず修得する必要がある科目です。

4年次前期に「国際文化Study Project」AおよびB、4年次後期に「国際文化Study Project」CおよびDを履修します (各2単位、計8単位)。授業担当教員の指導と助言を受けながら、自身の興味・関心も反映させた国際文化に関するテーマについて調査・分析・実験・制作などを進め、その結果をレポートにまとめたり、口頭発表したりします (具体的なテーマや進め方の詳細については担当教員によって異なります)。

6. 必修科目の再履修について

必修科目を不合格となった場合、再度履修すること (再履修) が必要となります。科目によって再履修上のルールがありますので、再履修時はそれにしてください。詳細についてはポータルサイト等でお知らせします。また、再履修は卒業にも大きく関わってきますので、不明な点は必ず教務課窓口で確認するようにしてください。

- ① リサーチセミナーⅠおよびリサーチセミナーⅡ
リサーチセミナーⅠを再履修する場合は、指定されたクラスで再度受講してください。
リサーチセミナーⅡを再履修する場合は、次の年次で再度受講してください。
- ② 学科外国語科目 (必修外国語)
再履修する場合は、指定されたクラスで受講してください。
- ③ 仏教の思想Aおよび仏教の思想B
これらの科目を再履修する場合は、次の年次で再度受講してください。なお、3年次生以上は、同一セメスターにおいて、「仏教の思想A」と「仏教の思想B」を同時に履修することが可能です。

学期	科目名
第1学期 (前期)	「仏教の思想A」・「仏教の思想B (再)」
第2学期 (後期)	「仏教の思想B」・「仏教の思想A (再)」

④ 専門演習 A

再履修する場合は、次の年次で再度受講してください。同じゼミ教員を希望する場合、同一セメスター（4年次前期）において、「専門演習 A」と「卒論演習 A」または「国際文化Study Project」AおよびBを同時に履修することが可能です。

7. 開設科目

◎は必修科目 ●は選択必修科目として開講する基幹科目 ○は選択科目を示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です（一部例外あり）。

（例：1年次配当科目であれば、2年次生・3年次生も受講可能）

■「仏教の思想」科目

授業科目名	単位	1年次		2年次		3年次		備考
		1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	
仏教の思想 A	2	◎						2科目（4単位）必修
仏教の思想 B	2		◎					
歎異抄の思想 I	2			○				
歎異抄の思想 II	2				○			

■教養科目

科目区分	授業科目名	単位	1年次		2年次		3年次		備考
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	
人文 科学 系 科目	哲学入門	2	●						1科目（2単位以上）必修
	哲学 A	2	●						
	倫理学入門	2	●						
	倫理学 A	2	●						
	クリティカル・シンキング	2	●						
	宗教学入門	4	●						
	宗教の世界 A	2	●						
	宗教の世界 B	2		●					
	中国の思想 A	2	●						
	中国の思想 B	2		●					
	日本の文学 A	4	●						
	日本の文学 B	4		●					
	アジアの文学 A	2	●						
	アジアの文学 B	2	●						
	西洋の文学 A	2	●						
	西洋の文学 B	2		●					
	文章表現法 A	2	●						
	文章表現法 B	2		●					
	言語と文化	2	●						
	日本の歴史 A	4	●						
	日本の歴史 B	4		●					
	アジアの歴史 A	4	●						
	アジアの歴史 B	4		●					
	西洋の歴史 A	4	●						
	現代世界の歴史 A	2	●						
	現代世界の歴史 B	2		●					
	心理学	4	●						
	心の科学 A	2	●						
	心の科学 B	2		●					
	教育学のすすめ A	2	●						
教育学のすすめ B	2		●						
哲学 B	2			○					

履修の心得
 教育課程
 諸課程
 手学
 引生活
 きの
 Q
 &
 A
 教
 員
 付
 録

科目区分	授業科目名	単位	1年次		2年次		3年次		備考
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	
人文科学系科目	倫理学B	2			○				
	論理学	2			○				
	芸術の世界A	2			○				
	芸術の世界B	2				○			
	日本の文学C	2			○				
	歴史学入門	2			○				
	日本の文化	4				○			
	アジアの文化	2			○				
	西洋の歴史B	2			○				
	西洋の歴史C	2				○			
	応用心理学A	2			○				
	応用心理学B	2				○			
	現代社会と教育A	2			○				
	現代社会と教育B	2				○			
	教育原論A	2			○				
	教育原論B	2				○			
	学習・発達論A	2			○				
	学習・発達論B	2				○			
	人文科学セミナー	4				○			
	大学論	2			○				
社会科学系科目	日本国憲法	2	●						1科目（2単位以上）必修
	法学のすすめ	2	●						
	政治学のすすめ	2	●						
	社会学のすすめ	2	●						
	地理学のすすめ	2	●						
	経済学のすすめ	2	●						
	経営学のすすめ	2	●						
	文化人類学のすすめ	2	●						
	社会調査のすすめ	2	●						
	社会統計学のすすめ	2	●						
	人権論A	2	○						
	人権論B	2		○					
	現代社会とメディア	2			○				
	現代社会と福祉	2			○				
	現代社会と法	2			○				
	環境と社会	2			○				
	平和学A	2			○				
	ジェンダー論	2			○				
	国際社会論	2			○				
	現代社会の諸問題	2			○				
地域論	2			○					
企業と会計	2			○					
現代社会と労働	2			○					
社会思想史	2			○					
英語で学ぶ日本の社会A	2	○							
英語で学ぶ日本の社会B	2	○							
データサイエンス・AI入門	2	○							
自然科学系科目	数学入門	2	●						1科目（2単位以上）必修
	数学への旅	2	●						
	確率・統計入門	2	●						
	宇宙の科学I	4	●						
	地球科学のすすめ	2	●						
	物理学の世界	4	●						
	時間と空間の科学	2	●						
	自然科学史I	2	●						
	生物科学のすすめ	4	●						
	生命科学のすすめ	2	●						
	生態学のすすめ	4	●						
	人類学のすすめ	4	●						
	環境学	4	●						
情報科学入門	2			●					

科目区分	授業科目名	単位	1年次		2年次		3年次		備考
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	
自然科学系科目	微分と積分	4	○						
	行列と行列式	4	○						
	数理統計学	4			○				
	数理と計算	2			○				
	数学の世界	4			○				
	数理と論証	2			○				
	宇宙の科学Ⅱ	2			○				
	地球科学	2		○					
	エネルギー入門	2			○				
	自然科学史Ⅱ	2			○				
	科学論	2			○				
	技術論	2				○			
	平和学B	2			○				
	里山学	2	○						
	生命科学	2		○					
	日本の自然	4	○						
	生命誌	2			○				
	植物の自然誌	2			○				
	動物の自然誌	2			○				
	民族の自然誌	2			○				
	人類進化学	2			○				
	人間の生物学Ⅰ	2			○				
	人間の生物学Ⅱ	2				○			
	自然誌実習	4			○				
野外観察法	2			○					
情報科学Ⅰ	2				○				
情報科学Ⅱ	2					○			
情報科学実習	4		○						
スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2			○				
	現代社会とスポーツ	2		○					
	スポーツ技術学演習	2	○						
	人間とスポーツ	2	○						
	スポーツと人権・平和	2			○				
	スポーツ文化史	2			○				
	スポーツ科学最前線	2	○						
	教養教育科目特別講義	2	○						4単位科目と2単位科目を複数開講するが、1科目(2単位/4単位)のみ卒業要件単位となる。
	教養教育科目特別講義	4	○						
	海外英語研修	2		○					1年次生と2年次生のみ履修可

(注1) 各印は配当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です。(一部例外あり)

(例：1年次配当科目であれば、2年次以降も受講可能)

(注2) 上記配当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。また、年度により不開講となることがあります。

詳細は時間割冊子およびWeb履修登録画面で確認してください。

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
引生活
きの

Q
&
A

教員

付録

■学科外国語科目

分野等	授業科目名	リナ ン グ バ	単 位	1年		2年		3年		4年		備 考
				1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ	
外 語	English Communication I -Speaking	U-01-FGN-1-01	1	◎								選択必修
	English Communication I -Writing	U-01-FGN-1-02	1	◎								選択必修
	English Communication I -Reading	U-01-FGN-1-03	1	◎								選択必修
	English Communication I -Seminar A	U-01-FGN-1-04	2	◎								必修
	English Communication I -Seminar B	U-01-FGN-1-05	2	◎								必修
	English Communication II -Speaking	U-01-FGN-1-06	1		◎							選択必修
	English Communication II -Writing	U-01-FGN-1-07	1		◎							選択必修
	English Communication II -Reading	U-01-FGN-1-08	1		◎							選択必修
	English Communication II -Seminar A	U-01-FGN-1-09	2		◎							必修
	English Communication II -Seminar B	U-01-FGN-1-10	2		◎							必修
	English Communication III -Speaking	U-01-FGN-2-01	1			◎						選択必修
	English Communication III -Writing	U-01-FGN-2-02	1			◎						選択必修
	English Communication III -Reading	U-01-FGN-2-03	1			◎						選択必修
	English Communication IV -Speaking	U-01-FGN-2-04	1				◎					選択必修
	English Communication IV -Writing	U-01-FGN-2-05	1				◎					選択必修
	English Communication IV -Reading	U-01-FGN-2-06	1				◎					選択必修
	フランス語 I	U-01-FGN-1-21	3	◎								選択必修
	フランス語 II	U-01-FGN-1-22	3		◎							選択必修
	フランス語 III	U-01-FGN-2-21	3			◎						選択必修
	フランス語 IV	U-01-FGN-2-22	3				◎					選択必修
	中国語 I	U-01-FGN-1-31	3	◎								選択必修
	中国語 II	U-01-FGN-1-32	3		◎							選択必修
	中国語 III	U-01-FGN-2-31	3			◎						選択必修
	中国語 IV	U-01-FGN-2-32	3				◎					選択必修
	コリア語 I	U-01-FGN-1-41	3	◎								選択必修
	コリア語 II	U-01-FGN-1-42	3		◎							選択必修
	コリア語 III	U-01-FGN-2-41	3			◎						選択必修
	コリア語 IV	U-01-FGN-2-42	3				◎					選択必修
	日本語 I	U-01-JLE-1-01	3	◎								留学生のみ
	日本語 II	U-01-JLE-1-02	3		◎							留学生のみ
	日本語 III	U-01-JLE-2-01	3			◎						留学生のみ
	日本語 IV	U-01-JLE-2-02	3				◎					留学生のみ
	日本語セミナー A	U-01-JLE-1-03	2	◎								留学生のみ
	日本語セミナー B	U-01-JLE-1-04	2	◎								留学生のみ
日本語セミナー C	U-01-JLE-1-05	2		◎							留学生のみ	
日本語セミナー D	U-01-JLE-1-06	2		◎							留学生のみ	
選 択	語学研修 A (英語)	U-01-FGN-1-11	2	○								
	語学研修 B (英語)	U-01-FGN-1-12	4	○								
	語学研修 A (フランス語)	U-01-FGN-1-23	2	○								
	語学研修 B (フランス語)	U-01-FGN-1-24	4	○								
	語学研修 A (中国語)	U-01-FGN-1-33	2	○								
	語学研修 B (中国語)	U-01-FGN-1-34	4	○								
	語学研修 A (コリア語)	U-01-FGN-1-43	2	○								
	語学研修 B (コリア語)	U-01-FGN-1-44	4	○								
	English language (Ryukoku Intercultural Program)	U-01-FGN-1-13	12	○								

■学科基礎科目

分野等	授業科目名	リナ ング バ	単 位	1年		2年		3年		4年		備 考
				1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ	
学 科 基 礎	リサーチセミナーⅠ	U-01-LTE-1-01	2	◎								必修★
	リサーチセミナーⅡ	U-01-LTE-1-02	2		◎							必修★
	調査分析の基礎A	U-01-LTE-1-01	2	○								事前登録対象科目
	調査分析の基礎B	U-01-LTE-1-02	2		○							事前登録対象科目
	キャリアデザイン入門	U-01-CAE-1-01	2	○								事前登録対象科目★
	東西文化交流入門	U-01-CUA-1-01	2		○							
	宗教学概論	U-01-RES-1-01	2	○								
	自然人類学入門	U-01-PHA-1-01	2	○								
	環境共生論入門	U-01-ENV-1-01	2		○							
	都市計画入門	U-01-TPA-1-01	2	○								
	社会心理学	U-01-SOP-1-01	2	○								
	言語論A	U-01-LIN-1-01	2	○								
	宗教の世界史	U-01-RES-1-02	2		○							
	東アジアの地域交流	U-01-ARS-1-01	2		○							
	社会学入門	U-01-SOC-1-01	2		○							
	文化人類学入門	U-01-CUA-1-02	2	○								
	映像文化入門	U-01-ART-1-01	2		○							
	大衆文化入門	U-01-CUA-1-03	2	○								
	比較演劇入門	U-01-CUA-1-04	2		○							
	世界文学入門	U-01-LIT-1-01	2	○								
	比較文化入門	U-01-ARS-1-02	2	○								
	国際政治入門	U-01-POL-1-01	2	○								
	観光学入門	U-01-TOU-1-01	2		○							ITP科目☆
日本語教育入門	U-01-JLE-1-07	2		○								
国際文化学特別講義A	U-01-ICC-1-01	2	○									
キャリア実習・実習指導	U-01-CAE-1-02	2		○							履修(単位認定)は1、2年生のみ	

■学科専攻科目

分野等	授業科目名	リナ ング バ	単 位	1年		2年		3年		4年		備 考
				1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ	
外 国 語	English Workshop A	U-01-FGN-2-07	2			○						事前登録対象科目
	English Workshop B	U-01-FGN-2-08	2				○					事前登録対象科目
	English Workshop C	U-01-FGN-3-01	2					○				事前登録対象科目・ITP科目☆
	English Workshop D	U-01-FGN-3-02	2						○			事前登録対象科目・ITP科目☆
	上級英語A	U-01-FGN-3-03	2					○				事前登録対象科目
	上級英語B	U-01-FGN-3-04	2						○			事前登録対象科目
	Advanced English A	U-01-FGN-3-05	2					○				事前登録対象科目
	Advanced English B	U-01-FGN-3-05	2						○			事前登録対象科目
	Advanced English C	U-01-FGN-3-07	2							○		事前登録対象科目
	Advanced English D	U-01-FGN-3-08	2							○		事前登録対象科目
	英語外書講読A	U-01-ENL-3-01	2					○				事前登録対象科目
	英語外書講読B	U-01-ENL-3-02	2						○			事前登録対象科目
	Exploring Cultures	U-01-FGN-2-09	2				○					
	フランス語セミナーⅠ	U-01-FGN-2-23	4			○						
	フランス語セミナーⅡ	U-01-FGN-2-24	4				○					
	フランス語セミナーⅢ	U-01-FGN-3-21	4					○				
	中国語セミナーⅠ	U-01-FGN-2-33	4			○						
	中国語セミナーⅡ	U-01-FGN-2-34	4				○					
	中国語セミナーⅢ	U-01-FGN-3-31	4					○				
	韓国語セミナーⅠ	U-01-FGN-2-43	4			○						事前登録対象科目
	韓国語セミナーⅡ	U-01-FGN-2-44	4				○					事前登録対象科目
	韓国語セミナーⅢ	U-01-FGN-3-41	4					○				事前登録対象科目
	日本語セミナー E	U-01-JLE-3-01	2					○				事前登録対象科目
日本語セミナー F	U-01-JLE-3-02	2						○			事前登録対象科目	
日本語セミナー G	U-01-JLE-3-03	2							○		事前登録対象科目	
日本語セミナー H	U-01-JLE-3-04	2							○		事前登録対象科目	
ペルシア語セミナーⅠ	U-01-FGN-2-81	2			○							
ペルシア語セミナーⅡ	U-01-FGN-2-82	2				○						
トルコ語セミナーⅠ	U-01-FGN-2-83	2			○							

履修の心得
 教育課程
 諸課程
 学修生活の
 Q & A
 教員付
 録

分野等	授業科目名	リナ ン グ バ	単 位	1年		2年		3年		4年		備 考
				1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ	
外国語	トルコ語セミナーⅡ	U-01-FGN-2-84	2				○					
	アラビア語セミナーⅠ	U-01-FGN-2-85	2			○						
	アラビア語セミナーⅡ	U-01-FGN-2-86	2				○					
	アラビア語セミナーⅢ	U-01-FGN-3-81	2					○				
	スペイン語セミナーⅠ	U-01-FGN-2-87	2			○						事前登録対象科目
	スペイン語セミナーⅡ	U-01-FGN-2-88	2				○					事前登録対象科目
	ドイツ語セミナーⅠ	U-01-FGN-2-89	2			○						事前登録対象科目
	ドイツ語セミナーⅡ	U-01-FGN-2-90	2				○					事前登録対象科目
	ロシア語セミナーⅠ	U-01-FGN-2-91	2			○						事前登録対象科目
	ロシア語セミナーⅡ	U-01-FGN-2-92	2				○					事前登録対象科目
	ロシア語セミナーⅢ	U-01-FGN-3-82	2					○				事前登録対象科目
	ロシア語セミナーⅣ	U-01-FGN-3-83	2						○			事前登録対象科目
	ポルトガル語セミナーⅠ	U-01-FGN-2-93	2			○						事前登録対象科目
	ポルトガル語セミナーⅡ	U-01-FGN-2-94	2				○					事前登録対象科目
	ポルトガル語セミナーⅢ	U-01-FGN-3-84	2					○				事前登録対象科目
	ポルトガル語セミナーⅣ	U-01-FGN-3-85	2						○			事前登録対象科目
	実践フランス語A	U-01-FGN-2-25	2				○					事前登録対象科目
	実践フランス語B	U-01-FGN-2-26	2				○					事前登録対象科目
	実践フランス語C	U-01-FGN-3-22	2					○				事前登録対象科目・ITP科目☆
	実践フランス語D	U-01-FGN-3-23	2						○			事前登録対象科目・ITP科目☆
	実践中国語A	U-01-FGN-2-35	2				○					事前登録対象科目
	実践中国語B	U-01-FGN-2-36	2				○					事前登録対象科目
	実践中国語C	U-01-FGN-3-32	2					○				事前登録対象科目・ITP科目☆
	実践中国語D	U-01-FGN-3-33	2						○			事前登録対象科目・ITP科目☆
実践コリア語A	U-01-FGN-2-45	2				○					事前登録対象科目	
実践コリア語B	U-01-FGN-2-46	2				○					事前登録対象科目	
実践コリア語C	U-01-FGN-3-42	2					○				事前登録対象科目・ITP科目☆	
実践コリア語D	U-01-FGN-3-43	2						○			事前登録対象科目・ITP科目☆	
5科目群・比較宗教	比較宗教論A（仏教）	U-01-RES-3-01	2					○				
	比較宗教論B（キリスト教）	U-01-RES-2-01	2			○						
	比較宗教論C（イスラーム）	U-01-RES-2-02	2					○				
	現代社会と宗教A	U-01-RES-3-02	2					○				
	現代社会と宗教B	U-01-RES-2-03	2				○					
	宗教と共生社会	U-01-RES-2-04	2				○					
	宗教と民俗文化	U-01-RES-3-03	2					○				
	宗教と芸術	U-01-RES-2-05	2				○					
	国際関係と宗教	U-01-RES-2-06	2				○					
	宗教文化の交流	U-01-RES-3-04	2						○			
	アジアの宗教文化	U-01-RES-2-08	2			○						
	中央アジアの文化	U-01-RES-2-12	2			○						
	イスラームの歴史と文化	U-01-RES-2-09	2			○						
	世界の宗教と日本	U-01-RES-2-10	2			○						
日本の宗教思想	U-01-RES-2-07	2			○							
比較宗教思想	U-01-RES-2-11	2				○						
5科目群・地域研究	日本語論文表現A	U-01-JLN-2-01	2			○						事前登録対象科目・留学生のみ
	日本語論文表現B	U-01-JLN-2-02	2			○						事前登録対象科目・留学生のみ
	日本語から見た歴史と文化	U-01-ARS-2-01	2			○						
	日本語教育実践	U-01-ARS-2-02	2				○					
	京ことばと京文化	U-01-ARS-2-03	2					○				
	音声学概論	U-01-LIN-2-01	2			○						事前登録対象科目
	比較言語学	U-01-LIN-3-01	2						○			事前登録対象科目
	日本の言語文化	U-01-ARS-2-04	2					○				
	日本の近現代と国際関係	U-01-ARS-2-05	2			○						
	日本の経済と社会	U-01-ARS-2-06	2			○						
	アジアの文化遺産	U-01-ARS-2-07	2			○						
	東アジアの古代文化	U-01-ARS-3-01	2					○				
	東北アジアの地域文化	U-01-ARS-3-02	2						○			
	東西文化交渉論	U-01-ARS-3-03	2					○				
国際経済と日本	U-01-ARS-3-04	2						○				
オセアニアと日本	U-01-ARS-3-05	2						○				
世界と日本の民俗	U-01-ARS-3-06	2						○				

分野等	授業科目名	リナ ング バ	単 位	1年		2年		3年		4年		備 考
				1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ	
5 科 目 群 ・ 人 間 と 共 生	都市計画	U-01-TPA-3-01	2						○			
	都市と住まい	U-01-TPA-2-01	2				○					
	住環境計画	U-01-TPA-2-02	2				○					
	環境人類学	U-01-ENV-2-01	2				○					
	環境保全論	U-01-ENV-2-02	2				○					
	言語論B	U-01-LIN-2-02	2				○					
	言語論C	U-01-LIN-2-03	2				○					
	NGO/NPO論	U-01-SOC-2-01	2				○					
	自然と文化	U-01-BAB-3-01	2				○					
	Race and Ethnicity入門	U-01-SOC-2-02	2				○					
	日本の思想	U-01-CUA-2-01	2				○					
	マイグレーション研究A(多文化共生社会)	U-01-SOC-2-03	2				○					
	マイグレーション研究B(社会統合論)	U-01-SOC-3-01	2						○			
	マイグレーション研究C(国際労働移動)	U-01-SOC-3-02	2						○			
5 科 目 群 ・ メ デ ィ ア と 社 会	グローバル社会学	U-01-SOC-2-04	2				○					
	社会調査法	U-01-SOC-2-05	2				○					
	Exporting Japanese Culture	U-01-CUA-2-02	2				○					
	TVCMと社会	U-01-SOC-2-06	2				○					
	映像文化論	U-01-CUA-2-03	2				○					
	比較文化史	U-01-CUA-3-01	2						○			
	アメリカ映画論	U-01-CUA-2-04	2				○					
	表象文化論	U-01-CUA-3-02	2						○			
	アジアの大衆文化	U-01-CUA-2-05	2				○					
	Comparative Popular Culture Studies	U-01-CUA-2-06	2				○					
	現代ジャーナリズム論	U-01-SOC-2-07	2				○					
	情報化とプロパガンダ	U-01-SOC-2-08	2				○					
	情報文化論	U-01-SOC-2-09	2				○					
	情報技術と未来社会	U-01-SOC-3-03	2						○			
5 科 目 群 ・ 芸 術 ・ 表 現	芸術表現特殊講義A	U-01-CUA-3-03	2						○			
	芸術表現特殊講義B	U-01-CUA-2-07	2				○					
	芸術表現特殊講義C	U-01-CUA-2-08	2				○					
	芸術表現特殊講義D	U-01-CUA-2-09	2				○					
	芸術表現特殊講義E	U-01-CUA-2-10	2				○					
	芸術表現特殊講義F	U-01-CUA-3-04	2						○			
	芸術表現法A	U-01-ART-2-01	2				○					事前登録対象科目
	芸術表現法B	U-01-ART-3-01	2						○			事前登録対象科目
	芸術表現法C	U-01-LIT-3-01	2						○			事前登録対象科目
	グローバル・アートA	U-01-CUA-3-05	2						○			
	グローバル・アートB	U-01-CUA-2-11	2				○					
	グローバル・アートC	U-01-CUA-2-12	2				○					
	グローバル・アートD	U-01-LIT-2-01	2				○					
	グローバル・アートE	U-01-CUA-2-15	2				○					
グローバル・アートF	U-01-CUA-2-13	2				○						
グローバル・アートG	U-01-CUA-2-14	2				○						
アート・マネジメントA	U-01-ART-2-02	2				○						
アート・マネジメントB	U-01-ART-3-02	2						○				
国 際 ソ ー リ ズ ム プ ロ グ ラ ム	観光社会論	U-01-TOU-2-01	2				○					ITP科目☆
	ホスピタリティ論	U-01-TOU-2-02	2				○					ITP科目☆
	観光心理学	U-01-TOU-2-03	2				○					ITP科目☆
	国際観光論	U-01-TOU-2-04	2				○					ITP科目☆
	観光文化論A	U-01-TOU-2-06	2				○					ITP科目☆
	観光文化論B	U-01-TOU-2-07	2				○					ITP科目☆
	京都観光学A	U-01-TOU-2-08	2						○			ITP科目☆
	京都観光学B	U-01-TOU-2-09	2				○					ITP科目☆
	文化・観光政策	U-01-TOU-2-05	2				○					ITP科目☆
	旅行の法律	U-01-TOU-1-02	2		○							ITP科目☆
	旅行の契約	U-01-TOU-1-03	2		○							ITP科目☆
国内旅行の実務	U-01-TOU-2-10	2				○					ITP科目☆	
海外旅行の実務	U-01-TOU-2-11	2				○					ITP科目☆	

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
引生
活の
きQ
&
A教
員付
録

分野等	授業科目名	リナ ングバ	単 位	1年		2年		3年		4年		備 考
				1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ	
共 通	リサーチセミナー III	U-01-ICC-2-01	2			○						1科目(2単位以上) 選択登録必修 必修 登録必修 選択必修 [専門演習B 合格者] 選択必修 [専門演習B 合格者] 選択必修 [専門演習B 不合格者] 選択必修 [専門演習B 不合格者] 選択必修 [専門演習B 不合格者] 選択必修 [専門演習B 不合格者] 事前登録対象科目★
	海外研修 (異文化交流)	U-01-ICC-2-01	2			○						
	専門演習A	U-01-ICC-3-01	2					○				
	専門演習B	U-01-ICC-3-02	2						○			
	卒論演習A	U-01-ICC-4-01	3							○		
	卒論演習B	U-01-ICC-4-02	3								○	
	国際文化Study Project A	U-01-ICC-3-01	2							○		
	国際文化Study Project B	U-01-ICC-3-02	2							○		
	国際文化Study Project C	U-01-ICC-4-01	2								○	
	国際文化Study Project D	U-01-ICC-4-02	2								○	
	グローバル時代のキャリアデザイン	U-01-CAE-2-01	2			○						
	国際文化学特別講義B	U-01-ICC-2-02	2			○						
	Lecture (Ryukoku Intercultural Program)	U-01-CAE-1-03	6	○								
Volunteer (Ryukoku Intercultural Program)	U-01-CAE-1-04	6	○									
グ ロ ー バ ル ス タ ー ディ ー ズ 学 科 提 供 科 目	会話分析入門A	U-02-LIN-2-01	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
	会話分析入門B	U-02-LIN-2-02	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
	心理言語学	U-02-LIN-3-01	2					○				グローバルスタディーズ学科提供科目
	応用言語学	U-02-FLE-3-02	2						○			グローバルスタディーズ学科提供科目
	Contemporary Literature	U-02-LIE-2-01	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
	国際関係入門	U-02-INR-2-01	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
	Introduction to Sociolinguistics	U-02-SOE-2-01	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
	Introduction to Cultural Anthropology	U-02-CUA-2-01	2				○					グローバルスタディーズ学科提供科目
	グローバリゼーションとアフリカ	U-02-ARS-2-02	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
	グローバリゼーションと東アジア	U-02-ARS-2-03	2				○					グローバルスタディーズ学科提供科目
	グローバリゼーションと南アジア	U-02-ARS-2-04	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
	グローバリゼーションとヨーロッパ	U-02-ARS-2-05	2				○					グローバルスタディーズ学科提供科目
	グローバリゼーションとラテンアメリカ	U-02-ARS-2-06	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
	国際政治経済学	U-02-POL-3-03	2					○				グローバルスタディーズ学科提供科目
	異文化間コミュニケーション論	U-02-LIN-2-03	2			○						グローバルスタディーズ学科提供科目
言語教育政策論	U-02-FLE-3-03	2						○			グローバルスタディーズ学科提供科目	
英語教育特殊研究	U-02-ESS-4-01	2							○		グローバルスタディーズ学科提供科目	

グローバルスタディーズ学科提供科目 (単位読替用)												
分野等	授業科目名	リナ ングバ	単 位	1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ	備 考
フ リ ー	Career English	G3101E	2					○	○			グローバルスタディーズ学科提供科目 (単位読替用)
	Critical Reading	G2317E	2			○	○					グローバルスタディーズ学科提供科目 (単位読替用)
	Study Abroad Project A	G3801B	6			○						グローバルスタディーズ学科提供科目 (単位読替用)
	Study Abroad Project B	G3802B	6				○					グローバルスタディーズ学科提供科目 (単位読替用)

(注1) 各印は配当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です。(一部例外あり)

(例: 1年次配当科目であれば、2年次以降も受講可能)

(注2) 上記配当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。また、年度により不開講となることがあります。

詳細は時間割冊子およびWeb履修登録画面で確認してください。

(注3) ★☆は、国際学部としてキャリア教育科目として位置づけている科目です。

★キャリア啓発科目【進路動機付け科目】…キャリア意識を醸成する講義を行います。

☆キャリア形成科目【進路選択支援科目】…進路選択を支援する講義を行います。

★後期入学生の「学年」と「科目の学年配置」について

9月入学の学生は、入学の翌年度も学年表示は1年次となります(つまり、1年次を1年半続けることとなります。これは年度の途中で学年の進行ができないためです)。

ただし、4月入学と同様に、入学の翌年度は2年次配当の科目を登録・履修することが可能です。

(例: 入学の翌年度も1年次だが、開設科目一覧の「2年次」配当の科目が履修可能)

ただし、「外国語」は、先修制のため、上記とは考え方が異なります(P.13「6. 先修制」参照)。

〈参考〉国際文化学科 英文科目名一覧

分野等	授業科目名 (英文)	授業科目名 (和文)
外国語	English Communication I -Speaking	English Communication I -Speaking
	English Communication I -Writing	English Communication I -Writing
	English Communication I -Reading	English Communication I -Reading
	English Communication I -Seminar A	English Communication I -Seminar A
	English Communication I -Seminar B	English Communication I -Seminar B
	English Communication II -Speaking	English Communication II -Speaking
	English Communication II -Writing	English Communication II -Writing
	English Communication II -Reading	English Communication II -Reading
	English Communication II -Seminar A	English Communication II -Seminar A
	English Communication II -Seminar B	English Communication II -Seminar B
	English Communication III -Speaking	English Communication III -Speaking
	English Communication III -Writing	English Communication III -Writing
	English Communication III -Reading	English Communication III -Reading
	English Communication IV -Speaking	English Communication IV -Speaking
	English Communication IV -Writing	English Communication IV -Writing
	English Communication IV -Reading	English Communication IV -Reading
	フランス語 I	French I
	フランス語 II	French II
	フランス語 III	French III
	フランス語 IV	French IV
	中国語 I	Chinese I
	中国語 II	Chinese II
	中国語 III	Chinese III
	中国語 IV	Chinese IV
	コリア語 I	Korean I
	コリア語 II	Korean II
	コリア語 III	Korean III
	コリア語 IV	Korean IV
	日本語 I	Japanese I
	日本語 II	Japanese II
	日本語 III	Japanese III
	日本語 IV	Japanese IV
	日本語セミナー A	Japanese Seminar A
	日本語セミナー B	Japanese Seminar B
	日本語セミナー C	Japanese Seminar C
	日本語セミナー D	Japanese Seminar D
	語学研修A (英語)	Overseas Language Program A (English)
	語学研修B (英語)	Overseas Language Program B (English)
語学研修A (フランス語)	Overseas Language Program A (French)	
語学研修B (フランス語)	Overseas Language Program B (French)	
語学研修A (中国語)	Overseas Language Program A (Chinese)	
語学研修B (中国語)	Overseas Language Program B (Chinese)	
語学研修A (コリア語)	Overseas Language Program A (Korean)	
語学研修B (コリア語)	Overseas Language Program B (Korean)	
English language (Ryukoku Intercultural Program)	English language (Ryukoku Intercultural Program)	
学科基礎	リサーチセミナー I	Research Seminar I
	リサーチセミナー II	Research Seminar II
	調査分析の基礎A	Fundamental Research Methods A
	調査分析の基礎B	Fundamental Research Methods B
	キャリアデザイン入門	Introduction to Career Design

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
引生活
きの

Q
&
A

教員

付録

履修の心得
教育課程
 諸課程
 手学修引生活きの
 Q & A
 教員付録

分野等	授業科目名 (英文)	授業科目名 (和文)
学 科 基 礎	東西文化交流入門	Introduction to East-West Cultural Exchanges
	宗教学概論	Introduction to Religious Studies
	自然人類学入門	Introduction to Biological Anthropology
	環境共生論入門	Introduction to Environmental Co-existence
	都市計画入門	Introduction to Urban Planning
	社会心理学	Social Psychology
	言語論A	Language and Mind A
	宗教の世界史	History and World Religions
	東アジアの地域交流	Regional Exchanges in Eastern Asia
	社会学入門	Introduction to Sociology
	文化人類学入門	Introduction to Cultural Anthropology
	映像文化入門	Introduction to Visual Culture
	大衆文化入門	Introduction to Popular Culture Studies
	比較演劇入門	Introduction to Comparative Theatre
	世界文学入門	Introduction to World Literature
	比較文化入門	Introduction to Comparative Culture
	国際政治入門	Introduction to International Politics
	観光学入門	Introduction to Tourism Studies
	日本語教育入門	Introduction to Japanese Language Teaching
国際文化学特別講義A	IC Special Lecture A	
キャリア実習・実習指導	Career Practicum	
学科専攻 (外国語)	English Workshop A	English Workshop A
	English Workshop B	English Workshop B
	English Workshop C	English Workshop C
	English Workshop D	English Workshop D
	上級英語A	Upper Level English A
	上級英語B	Upper Level English B
	Advanced English A	Advanced English A
	Advanced English B	Advanced English B
	Advanced English C	Advanced English C
	Advanced English D	Advanced English D
	英語外書講読A	Intensive English Reading A
	英語外書講読B	Intensive English Reading B
	Exploring Cultures	Exploring Cultures
	フランス語セミナー I	French Seminar I
	フランス語セミナー II	French Seminar II
	フランス語セミナー III	French Seminar III
	中国語セミナー I	Chinese Seminar I
	中国語セミナー II	Chinese Seminar II
	中国語セミナー III	Chinese Seminar III
	韓国語セミナー I	Korean Seminar I
	韓国語セミナー II	Korean Seminar II
	韓国語セミナー III	Korean Seminar III
	日本語セミナー E	Japanese Seminar E
	日本語セミナー F	Japanese Seminar F
	日本語セミナー G	Japanese Seminar G
	日本語セミナー H	Japanese Seminar H
	ペルシア語セミナー I	Persian Seminar I
	ペルシア語セミナー II	Persian Seminar II
トルコ語セミナー I	Turkish Seminar I	
トルコ語セミナー II	Turkish Seminar II	

分野等	授業科目名 (英文)	授業科目名 (和文)
学科専攻 (外国語)	アラビア語セミナーⅠ	Arabic Seminar I
	アラビア語セミナーⅡ	Arabic Seminar II
	アラビア語セミナーⅢ	Arabic Seminar III
	スペイン語セミナーⅠ	Spanish Seminar I
	スペイン語セミナーⅡ	Spanish Seminar II
	ドイツ語セミナーⅠ	German Seminar I
	ドイツ語セミナーⅡ	German Seminar II
	ロシア語セミナーⅠ	Russian Seminar I
	ロシア語セミナーⅡ	Russian Seminar II
	ロシア語セミナーⅢ	Russian Seminar III
	ロシア語セミナーⅣ	Russian Seminar IV
	ポルトガル語セミナーⅠ	Portuguese Seminar I
	ポルトガル語セミナーⅡ	Portuguese Seminar II
	ポルトガル語セミナーⅢ	Portuguese Seminar III
	ポルトガル語セミナーⅣ	Portuguese Seminar IV
	実践フランス語A	Practical French Language A
	実践フランス語B	Practical French Language B
	実践フランス語C	Practical French Language C
	実践フランス語D	Practical French Language D
	実践中国語A	Practical Chinese Language A
	実践中国語B	Practical Chinese Language B
	実践中国語C	Practical Chinese Language C
	実践中国語D	Practical Chinese Language D
	実践コリア語A	Practical Korean Language A
実践コリア語B	Practical Korean Language B	
実践コリア語C	Practical Korean Language C	
実践コリア語D	Practical Korean Language D	
学科専攻 (5科目群・比較宗教)	比較宗教論A (仏教)	Comparative Religion A (Buddhism)
	比較宗教論B (キリスト教)	Comparative Religion B (Christianity)
	比較宗教論C (イスラーム)	Comparative Religion C (Islam)
	現代社会と宗教A	Contemporary Society and Religion A
	現代社会と宗教B	Contemporary Society and Religion B
	宗教と共生社会	Religion and Co-existence Society
	宗教と民俗文化	Religion and Folk Culture
	宗教と芸術	Religion and Arts
	国際関係と宗教	International Relations and Religion
	宗教文化の交流	Interaction of Religious Cultures
	アジアの宗教文化	Asian Religious Culture
	中央アジアの文化	Cultures of Central Asia
	イスラームの歴史と文化	Islamic History and Culture
	世界の宗教と日本	World Religions and Japan
	日本の宗教思想	Religious Thought in Japan
	比較宗教思想	Comparative Religious Thought
学科専攻 (5科目群・地域研究)	日本語論文表現A	Academic Writing in Japanese A
	日本語論文表現B	Academic Writing in Japanese B
	日本語から見た歴史と文化	History and Culture from a Japanese Language Perspective
	日本語教育実践	Japanese Teaching Practice
	京ことばと京文化	Kyoto Dialect and Kyoto Culture
	音声学概論	Introduction to Phonetics
	比較言語学	Comparative Linguistics
	日本の言語文化	Linguistic Culture in Japan

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きのQ
&
A教
員付
録

履修の心得
教育課程
諸課程
手学
引生
活の
き
Q
&
A
教
員
付
録

分野等	授業科目名 (英文)	授業科目名 (和文)
学科専攻 (5科目群・地域研究)	日本の近現代と国際関係	Japanese Modern Era and International Relations
	日本の経済と社会	Japanese Economy and Society
	アジアの文化遺産	Cultural Heritage Sites in Asia
	東アジアの古代文化	Ancient Cultures in Eastern Asia
	東北アジアの地域文化	Regional Cultures of Northeast Asia
	東西文化交渉論	Cultural Encounters between East and West
	国際経済と日本	International Economy and Japan
	オセアニアと日本	Oceania and Japan
	世界と日本の民俗	Folklore of the World and Japan
学科専攻 (5科目群・人間と共生)	都市計画	Urban Planning
	都市と住まい	Urban Housing Science
	住環境計画	Residential Environment Planning
	環境人類学	Environmental Anthropology
	環境保全論	Environmental Conservation
	言語論B	Language and Mind B
	言語論C	Language and Mind C
	NGO/NPO論	NGO/NPO Studies
	自然と文化	Nature and Culture
	Race and Ethnicity入門	Introduction to Race and Ethnicity
	日本の思想	Japanese Thought
	マイグレーション研究A (多文化共生社会)	Migration Studies A
	マイグレーション研究B (社会統合論)	Migration Studies B
	マイグレーション研究C (国際労働移動)	Migration Studies C
学科専攻 (5科目群・メディアと社会)	グローバル社会学	Global Sociology
	社会調査法	Social Research Methods
	Exporting Japanese Culture	Exporting Japanese Culture
	TVCMと社会	Television Commercials and Society
	映像文化論	Visual Culture Studies
	比較文化史	History of Comparative Culture
	アメリカ映画論	Cultural and Social Issues in American Movies
	表象文化論	Representation and Culture
	アジアの大衆文化	Popular Culture in Asia
	Comparative Popular Culture Studies	Comparative Popular Culture Studies
	現代ジャーナリズム論	Contemporary Journalism Studies
	情報化とプロパガンダ	Information Society and Propaganda
	情報文化論	Information and Culture
	情報技術と未来社会	Information Technology and Future Society
学科専攻 (5科目群・芸術・表現)	芸術表現特殊講義A	Artistic Expression Special Lecture A
	芸術表現特殊講義B	Artistic Expression Special Lecture B
	芸術表現特殊講義C	Artistic Expression Special Lecture C
	芸術表現特殊講義D	Artistic Expression Special Lecture D
	芸術表現特殊講義E	Artistic Expression Special Lecture E
	芸術表現特殊講義F	Artistic Expression Special Lecture F
	芸術表現法A	Artistic Expression Method A
	芸術表現法B	Artistic Expression Method B
	芸術表現法C	Artistic Expression Method C
	グローバル・アートA	Global Art A
	グローバル・アートB	Global Art B
	グローバル・アートC	Global Art C
	グローバル・アートD	Global Art D
	グローバル・アートE	Global Art E

分野等	授業科目名（英文）	授業科目名（和文）
学科専攻（5科目群） 芸術・表現	グローバル・アートF	Global Art F
	グローバル・アートG	Global Art G
	アート・マネジメントA	Art Management A
	アート・マネジメントB	Art Management B
学科専攻（国際ソールリズムプログラム）	観光社会論	Tourism and Society
	ホスピタリティ論	Hospitality Studies
	観光心理学	Psychology and Tourism
	国際観光論	International Tourism
	観光文化論A	Tourism Culture A
	観光文化論B	Tourism Culture B
	京都観光学A	Kyoto Tourism Studies A
	京都観光学B	Kyoto Tourism Studies B
	文化・観光政策	Culture and Tourism Policy
	旅行の法律	Tourism Law
	旅行の契約	Tourism Contracts
	国内旅行の実務	Domestic travel practice
	海外旅行の実務	Overseas travel practice
	学科専攻（共通）	リサーチセミナー III
海外研修（異文化交流）		Study Abroad (Intercultural Communication)
専門演習A		Specialized Seminar A
専門演習B		Specialized Seminar B
卒論演習A		Thesis Seminar A
卒論演習B		Thesis Seminar B
国際文化Study Project A		IC Study Project A
国際文化Study Project B		IC Study Project B
国際文化Study Project C		IC Study Project C
国際文化Study Project D		IC Study Project D
グローバル時代のキャリアデザイン		Career Design in Global Era
国際文化学特別講義B		IC Special Lecture B
Lecture (Ryukoku Intercultural Program)		Lecture (Ryukoku Intercultural Program)
Volunteer (Ryukoku Intercultural Program)		Volunteer (Ryukoku Intercultural Program)
学科専攻（グローバルスタディーズ学科提供科目）	会話分析入門A	Introduction to Conversation Analysis A
	会話分析入門B	Introduction to Conversation Analysis B
	心理言語学	Psycholinguistics
	応用言語学	Applied Linguistics
	Contemporary Literature	Contemporary Literature
	国際関係入門	Introduction to International Relations
	Introduction to Sociolinguistics	Introduction to Sociolinguistics
	Introduction to Cultural Anthropology	Introduction to Cultural Anthropology
	グローバリゼーションとアフリカ	Globalization and Africa
	グローバリゼーションと東アジア	Globalization and East Asia
	グローバリゼーションと南アジア	Globalization and South Asia
	グローバリゼーションとヨーロッパ	Globalization and Europe
	グローバリゼーションとラテンアメリカ	Globalization and Latin America
	国際政治経済学	International Political Economy
	異文化間コミュニケーション論	Intercultural Communication
	言語教育政策論	Language Education Policy Studies
	英語教育特殊研究	Teaching English as a Foreign Language

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きのQ
&
A教
員付
録

VIII 卒業論文・卒業制作

卒業論文とは、大学での学びの集大成として、3年次から所属する演習（ゼミ）の授業を通じて、学生自らが設定したテーマで執筆する学術論文のことです。ゼミによっては、卒業論文の代わりに卒業制作（表現作品の制作）も認めています。

それまでの授業等で身につけた知識やスキルを最大限活用し、担当教員の指導と助言を受けながら、自らの研究成果を論文あるいは制作物としてまとめます。テーマ設定～資料収集と分析～執筆（制作）という過程で多くの時間と労力を要しますが、やり遂げれば大きな達成感と自信を得られるはずです。

卒業論文を作成するにあたっては、4年次前期に「卒論演習A」（3単位）、4年次後期に「卒論演習B」（3単位）を履修します。卒論演習Aを履修するには、「専門演習B」（2単位）を3年次後期に修得（合格）している必要があります。

その他卒業論文に関する詳細については、ゼミ選択に関する学内説明会やポータルサイト等で別途お知らせします。

1. 執筆および提出について

①卒業論文は文書作成ソフト／アプリ（Microsoft Word等）で執筆するものとします。卒業制作の場合は、制作の意義・意図・過程等をまとめた報告書（制作ノート）を、同様に文書作成ソフト／アプリで執筆し成果物と併せて提出します。

【卒業論文／制作ノートの書式】

- ・用紙はA4サイズ、白の普通紙とします。
- ・日本語で執筆する場合、1ページあたり1000字（40字×25行）の設定とします。
- ・外国語で執筆する場合、行間をダブルスペースとし、見やすい字数となるよう設定します。
- ・本文フォントは明朝体（和文）およびTimes New Roman（英文）を基本とします。
- ・フォントサイズは10.5ポイント～11ポイントとします。
- ・余白については標準的な設定とします（20mm～30mm程度）。

②卒業論文／制作ノートは、日本語または指導教員が認めた外国語で執筆し、卒業予定者自身のオリジナルなものに限ります。他者が執筆した文章やデータ等を引用する場合、必ず引用箇所・出典を明示し、剽窃（盗用）とならないように注意してください。

③卒業論文／制作ノートは個人で執筆（単著）します。ただし卒業制作については、指導教員が認めた場合、共同制作が認められることもあります。共同制作の許可基準や具体的な方法等については、指導教員の指示にしたがってください。

④卒業論文の長さは、本文で12,000字以上～20,000字程度とします（日本語の場合）。卒業論文を英文で書く場合、本文で5,000 words以上～7,500 words程度とします。その他の外国語で書く場合は指導教員の指示にしたがってください。

⑤制作ノートの長さは、本文で5000字以上（日本語の場合）とします。英語およびその他の外国語で書く場合の字数については、指導教員の指示にしたがってください。

⑥卒業論文／制作ノートには、本文のほかに、学科が指定する書式の表紙、要旨（600字以内）、目次、参考文献をつけます。本文以外については上記④⑤の字数には含めません。

⑦指導教員が認めた場合、卒業論文／制作ノートに加えて、各種記録メディア（SDカード、USBメモリな

ど)に保存したデータや造形物を参考資料として提出できます。ただし、これら参考資料やその説明文等は本文の字数には含めません。

- ⑧卒業論文の具体的な提出期限や提出方法については、詳細が決まった段階で「卒論演習A・B」の授業やポータルサイトを通じてお知らせします(例年、4年次の12月上旬～中旬が提出時期となっています)。不明な点があれば教務課または指導教員に確認してください。

2. 評価方法および注意事項

卒業論文および卒業制作は、国際文化学科が定める評価基準(評価ルーブリック)にもとづき評価されます。評価ルーブリックは、「卒論演習A」または「卒論演習B」の授業を通じて事前に公表します。執筆および制作にあたっては、評価基準が意味するところを十分理解し、高い完成度を追求することが求められます。評価基準の詳細については指導教員に確認してください。

★注意事項★

- ・卒業論文および卒業制作において剽窃が認められた場合、「卒論演習B」を無効扱いとし、当該学期に履修登録した全科目の単位認定をおこないません。
- ・「卒論演習A」または「卒論演習B」が不合格となった場合、卒業修了要件を満たすには、次年度に同じ科目を再履修するか、代わりに国際文化Study Project(A～D)を修得して合格する必要があります。

IX その他の教育課程・教育プログラム

国際学部の教育課程の他にも、みなさんが受講できる多様な教育課程・教育プログラムがあります。詳細は、ホームページ、配布冊子などで確認するとともに、各担当窓口にお問い合わせください。

1. データサイエンス・AIリテラシープログラム

本学が全学的に展開するデータサイエンス教育として、「データサイエンス・AIリテラシープログラム」を開設します（2022年度以降入学生対象）。

日本政府は、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（物理空間）が高度に統合された社会「Society5.0」を提唱しています。このような社会では、フィジカル空間の膨大なデータをサイバー空間に蓄積し、そのデータをAI（人工知能）で解析し、その結果をフィジカル空間にフィードバックすることで、経済発展や社会課題の解決が実現されると考えられています。

このような新しい社会の到来に備えて、ビッグデータから有用な情報を可視化し、意思決定を行い、機械学習などのAI技術で結果を分析・予測するスキルを身につけることが重要です。

そのために、これから社会に出る大学生には、データサイエンス・AIに関する基礎的な知識やスキルが不可欠です。また、社会の変化に対する意識を持つことや、データを扱う上での倫理観が求められます。本学ではこれらのことを学ぶために「データサイエンス・AIリテラシープログラム」を全学的に展開しています。

(1) プログラムの概要

データサイエンス・AIリテラシープログラムは、以下の①②で構成されます。

①教養教育科目「データサイエンス・AI入門」

②教養教育科目、学部専攻科目、学部共通コース科目のうちプログラム科目として指定する科目

(2) プログラムの修了要件

データサイエンス・AIリテラシープログラムは、教養教育科目「データサイエンス・AI入門」（2単位）を必修科目として、教養教育科目、学部専攻科目、学部共通コース科目のうちプログラム科目として指定する科目^{※1}の中から2単位以上を選択して修得し、合計4単位以上を修得することがプログラム修了の要件です。

(3) 修了の認定

データサイエンス・AIリテラシープログラムの修了要件を満たした学生については、各年度末に修了認定の結果をポータルサイトを通じてお知らせします（希望する学生にはプログラム修了証を発行します）。

<データサイエンス・AIリテラシープログラム>

「データサイエンス・AI入門」
(教養教育科目)
必修2単位

プログラム科目として指定する科目^{※1}
(教養教育科目、学部専攻科目、学部共通コース科目)
選択2単位以上

合計4単位以上の修得でプログラム修了

※1 教養教育科目、学部専攻科目、学部共通コース科目のうちプログラム科目として指定する科目



〈教養教育科目のうち指定する科目〉





科目名	単位数	配当年次	備考
社会統計学のすすめ	2	1年次～	深草学舎・瀬田学舎開講
確率・統計入門	2	1年次～	深草学舎開講
生活の中の統計技術	2	1年次～	瀬田学舎開講



〈国際学部専攻科目のうち指定する科目〉

科目名	単位数	配当年次	備考（対象学科）
社会調査法	2	3年次～	国際文化学科
ITリテラシーA	2	1年次～	グローバルスタディーズ学科
ITリテラシーB	2	1年次～	グローバルスタディーズ学科

2. 留学／国際交流プログラム・単位互換制度・各種ランゲージスタディエリア実習プログラム

留学／国際交流プログラムについて	担当窓口・関係情報
<p>龍谷大学では、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成及び「多文化共生キャンパスの実現」を目的として、学生の海外派遣及び外国人留学生の受入を積極的に推進するため、様々な留学制度や国際交流プログラムを整備しています。交換留学や私費留学に加えて、龍谷大学の海外拠点を活用して展開されるRI（Ryukoku Intercultural）Program 留学や短期海外派遣プログラム等の多様なプログラムが展開されています。また、グローバルコモンズにおいては、英会話レッスンのほか、本学に留学中の学生から多言語、文化を学ぶ機会や異文化交流イベントを実施しています。</p> <p>ランゲージスタディエリア（LSA）では、TOEIC®、TOEFL®、IELTS™等の英語資格試験や初修外国語の教材も幅広く取り揃えているため、検定試験対策はもちろんのこと、備え付けのパソコンを利用した海外とのコミュニケーション等、幅広い活用が可能です。</p> <p>経済、社会、文化、政治などあらゆる局面でグローバル化が急速に進む現在、海外の大学での学修、国内外での異文化交流を通して広い視野と柔軟な発想を学ぶことは、みなさんにとって有意義な経験となることでしょう。</p>	<p>（担当窓口） グローバル教育推進センター 深草学舎 和顔館1階／瀬田学舎 智光館2階 ※単位認定に関する相談は国際学部教務課 深草学舎 和顔館1階 留学サポートデスク</p> <p>（関係情報） ・「留学ガイド」グローバル教育推進センターで配布 ・グローバル教育推進センター ホームページ （URL）https://intl.ryukoku.ac.jp/ （QRコード） </p> <p>・龍谷大学グローバル教育推進センター 交換留学マンスリーレポート （URL）https://mrepo.jp/ （QRコード） </p>

<p>大学コンソーシアム京都「単位互換制度」</p> <p>大学コンソーシアム京都では、京都地域の約50の大学・短期大学が協定を締結し、各大学の科目を履修できる「単位互換授業」の制度を設置しています。</p> <p>一部の科目は、京都駅前の「キャンパスプラザ京都」で開講されます。</p> <p>なお、出願については、大学コンソーシアム京都のホームページの「単位互換・京カレッジポータルサイト」から出願手続きを行ってください。</p>	<p>担当窓口・関係情報</p> <p>(担当窓口) 国際学部教務課 深草学舎 紫英館1階 ※単位認定できる科目、出願資格・手続きなど、まずは、国際学部教務課で確認してください。</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html (QRコード) </p> <p>(関係情報) ・大学コンソーシアム京都 単位互換制度特設サイト (URL) https://www.consortium.or.jp/special/tani_gokan/index.html (QRコード) </p>
<p>RYUKOKUキャリア・スタートプログラム</p> <p>本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして企業・団体等と協定を締結して「RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム」を実施しています。</p> <p>このプログラムは、建学の精神にもとづくきめ細かな実習前後の学修を通じて職業観・勤労観を醸成する本学独自の特色あるプログラムです。</p> <p>2022年度入学生からは、「教養教育科目特別講義（キャリア入門）」を実習前の学修と位置づけ、この特別講義を登録および受講することで、夏期休業期間中に開講される1・2年次生対象の「キャリア実習・実習指導」を履修することができます。</p> <p>このプログラムに積極的に参加することでコミュニケーション力や人に働きかけ巻き込む力、主体性や行動力等社会で求められる様々な能力を身につけることができます。</p> <p>少しでも興味を持った方は、履修要項WEBサイトの「(3) 就業体験を伴うプログラム」を確認し、4月に開催する説明会に参加しましょう。</p>	<p>担当窓口・関係情報</p> <p>(担当窓口) キャリアセンター 深草学舎 5号館1階／瀬田学舎 1号館1階</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html (QRコード) </p> <p>(関係情報) インターンシップ・キャリア実習 (URL) https://career.ryukoku.ac.jp/support/internship.html </p> <p>RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム 「キャリア実習・実習指導」パンフレット (URL) https://career.ryukoku.ac.jp/statistical/ </p>

大学コンソーシアム京都 「産学連携教育プログラム」	担当窓口・関係情報
<p>大学コンソーシアム京都の産学連携教育プログラムは、就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラム（コアオプ教育）として、1998年度より全国に先駆けて開始しています。単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、社会人基礎力を育成するカリキュラムを持ったキャリア教育として、受講生からも高い満足度を得ています。</p> <p>「学生ならではの経験がしたい！」 「社会人になる力をつけたい！」 「“働く”をイメージしたい！」 「自分の強みや課題に気づきたい！」 「地域・社会に貢献したい！」 「他大学生と交流したい！」</p> <p>1つでもあてはまる方に、 【大学コンソーシアム京都の産学連携教育プログラム】をお勧めします。</p>	<p>(担当窓口) 【単位認定に関する問い合わせ】 国際学部教務課 深草学舎 紫英館1階 【プログラムに関する問い合わせ】 公益財団法人大学コンソーシアム京都 産学連携教育事業推進室 〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル キャンパスプラザ京都内 TEL：075-353-9106</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html (QRコード)</p>  <p>(関係情報) ・大学コンソーシアム京都 産学連携教育プログラムサイト (URL) https://consortiumkyoto-internship.jp/ (QRコード)</p> 

履修の心得
教育課程
諸課程
手学 修引 生活 きの
Q & A
教員
付録

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
引修
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録



第3部 諸課程

I 諸課程

1. 諸課程

教職課程	担当窓口・関係情報
<p>教職課程は、教員免許状の取得を目指す学生を対象とした課程です。教科等に関する確かな専門的知識はもちろん、広く豊かな教養、人間の成長・発達への深い理解、生徒に対する教育的愛情、教育者としての使命感を基盤とした、実践的な指導力を養成することを目的に設置しています。教職課程の履修にあたっては、「履修要項別冊 教職課程ガイドブック」を熟読してください。</p> <p>また、教職センターでは、教職課程履修者を対象に教員採用試験突破のための基礎力・実践力養成講座なども実施しています。</p>	<p>(担当窓口) 教職センター 深草学舎 紫英館 1階 大宮学舎 西翼 1階 瀬田学舎 3号館 1階</p> <p>(関係情報) 教職センター HP (URL) https://www.ryukoku.ac.jp/faculty/kyoshoku</p> 
本願寺派教師資格課程	担当窓口・関係情報
<p>本願寺派教師資格課程は、浄土真宗本願寺派における寺院の住職や布教使になるために必要となる資格課程です。本学では、本願寺派教師資格に関する養成施設としての認定を受け、資格課程にかかわる科目を開設しており、1回生から受講することが可能です(受講する場合は、科目一覧を確認のうえ、履修登録をしてください)。</p> <p>この課程は、最終的には浄土真宗本願寺派が実施する本資格に関連する試験・研修を受けなければなりません。</p> <p>資格制度の詳細について、不明な点等がありましたら、浄土真宗本願寺派僧侶養成部に尋ねてください。</p> <p>履修に関する詳細については、担当窓口尋ねてください。</p>	<p>(担当窓口) 国際学部教務課 深草学舎 紫英館 1階</p> <p>(関係情報) ・履修要項WEBサイト (URL) https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</p> 
博物館学芸員課程	担当窓口・関係情報
<p>資料の収集・保管・展示および調査研究等の業務に携わり、博物館の事業全般をサポートする博物館学芸員を養成します。</p>	<p>(担当窓口) 国際学部教務課 深草学舎 紫英館 1階</p> <p>(関係情報) ・履修要項WEBサイト (URL) https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</p> 
ICCO文化交流創成コーディネーター／Intercultural Coordinator (通称：インターカルチュラル・コーディネーター) 資格認定制度	担当窓口・関係情報
<p>ICCO(インターカルチュラル・コーディネーター)は、日本国際文化学会が認定する資格です。この資格は、新たな時代や社会づくりに向けて、人と人、人とモノ、コトとコト、モノとモノ、地域と地域、地域と世界など、文化と文化の〈あいだ〉につながりをつける力を備えた人材を養成することを目的としています。</p>	<p>(担当窓口) 国際学部教務課 深草学舎 紫英館 1階</p>

2. 特別研修講座・各種講座・試験

課程・講座	目的・内容	担当部署
国際伝道者養成課程	広く国際的な素養として英語で仏教・浄土真宗を学修することや、海外の仏教事情に関心を持つ方を対象にした課程であり、また同時に、将来、浄土真宗本願寺派の海外開教区で伝道者として活躍できる人材養成を目的とした講座です。	(深草／大宮) 文学部教務課
矯正・保護課程	刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く矯正職員や、犯罪をおかしたり非行をおこなった人たちの社会復帰を手助けする保護観察官等の専門職やボランティアを養成するために、実務に即した教育プログラムを提供しています。	矯正・保護総合センター事務部 深草学舎 至心館1階 〈各学舎申し込み窓口〉 (深草) 法学部教務課 深草学舎 紫英館1階 (大宮) 文学部教務課 大宮学舎 西覺1階 (瀬田) 社会学部教務課 瀬田学舎 6号館1階
法職課程	各種公務員試験(国家一般職、地方上級等)の合格や法科大学院進学を目指す学生に対し、法律科目を体系的かつ効率的に学習できる講座や最新の試験情報などを提供しています。また、法職カウンセラーが常駐し、学習方法や受験対策のアドバイスをを行っています。	法学部教務課 深草学舎 紫英館1階 (URL) https://www.ryukoku.ac.jp/faculty/syokatei/houshoku/ 
教員採用試験対策講座	教員採用試験突破のための基礎力・実践力を養成する講座です。	教職センター 深草学舎 紫英館1階 大宮学舎 西覺1階 瀬田学舎 3号館1階
キャリア支援講座 ※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。 ※開講する学舎が限定されている講座があります。	キャリアアップに向けた資格取得や公務員試験などの対策が必須の就職を支援するために、各種講座を開講しています。資格取得等に信頼と実績のある有名予備校等と提携し、一人ひとりの目標や夢の実現をバックアップします。 〈資格系〉 宅地建物取引士講座／旅行業務取扱管理者講座／社会福祉士国家試験講座 〈語学系〉 TOEIC® Listening&Reading Test対策講座 〈就職対策〉 公務員講座／エアライン就職対策講座	キャリアセンター 深草学舎 5号館1階 大宮学舎 東覺2階 瀬田学舎 1号館1階
手話講座	社会福祉法人全国手話研修センターとの連携事業により、「手話コミュニケーションコース」「手話ステップアップコース」「手話通訳コース」を実施します。「手話コミュニケーションコース」では全国手話検定試験2級レベルを、「手話ステップアップコース」では全国手話検定試験1級レベルを目指し、「手話通訳コース」では手話通訳者全国統一試験に備える力を養います。 2024年度の講座実施については、実施が決定次第、ポータルサイト等で案内します。	REC事務部 深草学舎 4号館2階 社会福祉法人全国手話研修センターホームページ (https://www.com-sagano.com/ryukoku) 

第4部 学修生活の手引き

I 窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室

1. 窓口事務

各学部教務課の窓口事務については、履修要項WEBサイトに掲載していますので、確認してください。
(<https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>)

主に次の情報を掲載しています。

- (1) 窓口取扱時間
- (2) 届出書・願書および各種証明書
- (3) 各種証明書の交付について
- (4) 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて



2. 保健管理センター

保健管理センターの利用については、本学HP『保健管理センター』に掲載しています。(<https://www.ryukoku.ac.jp/hoken/index.php>)

毎年、4月には学生の定期健康診断が実施されますので、日程をHPで確認するようにしてください。

その他、主に次の情報を掲載しています。

- (1) 緊急時には
- (2) 学校感染症に罹患した場合には
- (3) カウンセラーに相談したい
- (4) 保健師・看護師に相談したい
- (5) 医師の診療を受けたい
- (6) 急な怪我をした
- (7) タバコをやめたい
- (8) 健康チェックをしたい
- (9) 健康診断
- (10) 健康診断証明書・健康診断書発行について
- (11) AEDについて知りたい



3. 障がい学生支援室

障がい学生支援室は、すべての学生が社会参加に向けて主体的に取り組むことを支援するという視点に立ち、障がいのある学生の学修や学生生活上の困難に対し、様々な相談、支援を行っています。また、障がいのある学生とサポートをする学生、その他すべての学生や教職員が互いに理解し、尊重し合える関係づくりを目指し、サポーター養成や研修会、交流会などにも取り組んでいます。詳しくは、本学HP『障がい学生支援室』に掲載しています。(<https://www.ryukoku.ac.jp/support/index.php>)

HPでは主に次の情報を掲載しています。

- (1) 障がいのある学生への支援について
- (2) 支援を希望される方へ（支援の内容、支援の申し出方法、障がい学生支援室の紹介）
- (3) 支援をしたい方へ（学生スタッフ募集）
- (4) 教職員のみなさんへ
- (5) 障がいのある受験生の方へ
- (6) アクセス・お問い合わせ



II 授業等の休講措置に関する取扱基準

(自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱について)

自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱については、「授業等の休講措置に関する取扱基準」によります。

○授業等の休講措置に関する取扱基準:

https://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/support/classinfo/disaster.html



「授業等の休講措置に関する取扱基準」に定める自然災害及び交通機関不通時の授業等の実施有無については、以下の4つの方法で確認することができます。

確認方法		説明
(1) 龍谷大学ホームページ https://www.ryukoku.ac.jp/		トップページに「重要なお知らせ」として授業実施の有無を記載します。
(2) ポータルサイト https://portal.ryukoku.ac.jp		ポータルサイトのログイン画面に、ホームページと同様の情報を記載します。
(3) 公式X (旧Twitter)「龍谷大学 (緊急連絡用)」 https://x.com/Ryukoku_univ (@Ryukoku_univ)		大学全体に関わる緊急情報の速報発信を目的として、本学公式X (旧Twitter) アカウントを開設しています。ここからホームページと同様の情報を発信します。

※緊急時は、大学ホームページおよびポータルサイトへのアクセスが集中し、サイトを閲覧できなくなる可能性がありますので、公式X (旧Twitter)「龍谷大学 (緊急連絡用)」の利用を推奨します。

III 学籍の取り扱い

1. 学籍とは

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は入学によって発生し、入学は大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は卒業により消滅します。

2. 学籍簿

(1) 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の学籍番号が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は卒業後も変わらない当人固有の番号であり、本学在学中は身分証明証（学生証）の番号でもありますから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。

学籍番号の仕組み

X	24	0	001
L : 文学部	入学年度（西暦）の下2桁	学生区分（主たる学生区分を記す）	学部内における個人番号
E : 経済学部		学部生：0～7	
B : 経営学部		編転入生：8	
J : 法学部		再入学生：9	
T : 理工学部		修士課程：M	
C : 社会学部		博士後期課程：D	
W : 国際文化学部		短大専攻科生：A	
H : 政策学部		専門職学位課程生：F	
U : 国際学部		研究生：R	
N : 農学部		特別専攻生：S	
Y : 先端理工学部		科目等特別履修生：U	
V : 心理学部		科目等履修生：V	
S : 短期大学部		外国人特別留学生・交換留学生：Y	
M : 実践真宗学研究科			
R : 留学生別科			

このような仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。

頭のアファベット（学部等をあらわす）が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので注意してください。

(2) 学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にするものとして、**学籍簿**（入学手続き時に各自がWeb入学手続にて登録）が編成されます。学籍簿に登録される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには直ちに国際学部教務課窓口へ届け出てください。

3. 学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

- (1) 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。
 - ① 試験を受けるとき。
 - ② 各種証明書の発行を受けるとき。
 - ③ 通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
 - ④ 龍谷大学保健管理センターを利用するとき。
 - ⑤ 図書館を利用するとき。
 - ⑥ その他、本人であることを確認することが必要なとき。

- (2) 入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用しますので大切に扱ってください。ただし、在籍を証明する「在籍確認シール」は、毎年学年始めに配布します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら（在籍生は、必ず前年度のシールをはがしたうえで）、速やかに新しいシールを貼ってください。

シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。

なお、当該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は、無効として取り扱いますので注意してください。

- (3) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに国際学部教務課窓口にてその内容を届け出てください。ただし、「在籍確認シール」に記載されている“通学区間情報”を変更する場合は、ポータルサイトの“連絡先・通学情報登録”画面にて変更のうえ、国際学部教務課窓口で「在籍確認シール」の交付を受けてください。

- (4) 学生証を破損または紛失した場合は、直ちに国際学部教務課窓口へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再発行願」（紛失・破損届）に必要事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署（交番）・生協事務室に紛失届等の提出をしてください。

- (5) 学生証の再発行については、1,000円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再発行願を出力できますので、所定の手続きを国際学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再発行には、2日以上を要するので注意してください。

- (6) 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。

- (7) 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。

- (8) 除籍・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに国際学部教務課窓口にて返納してください。

4. 学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失（本学の学生でなくなる）する場合としては、退学と除籍の2種類があり、さらに退学はその内容により依願退学と懲戒退学に区分されます。

(1) 退学

① 依願退学

依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失（本学の学生でなくなる）することです。

依願退学は、学生の意志によるものであることから、いつでも願い出ることができますが、次の諸手続きが必要です。

ア 大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。

イ 当該該学期分の学費を納入していること（学費の納入と学籍の取得は対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格もありません。なお、学期当初に退学をする場合は、学部で個別に対応しますので相談してください）。

また、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることができません。

② 懲戒退学

懲戒退学は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

(2) 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要のある場合があります。このため本学ではこれを除籍として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。

- ① 定められた期間に所定の学費を納入しないとき。
- ② 在学し得る年数（通常の場合は8年間）以内に卒業できないとき。
- ③ 休学期間を終えても復学できないとき。

なお、死亡の場合も除籍とします。

5. 休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3ヶ月以上修学を中断しようとするときは、休学を願い出ることができます。

(1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。

- ① 大学所定の書式により願い出ること。
- ② 休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。
- ③ 保証人と連署で願い出ること。

(2) 休学期間

- ① 休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。

1年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日まで、第2学期（後期）休学希望者は12月

31日までに国際学部教務課窓口で大学所定の書類を提出してください。なお、受付は窓口の開室日に限ります。

- ② 休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。※その際は、改めて休学の願出が必要です。
- ③ 休学期間は連続して2年、通算して4年を越えることはできません。

(3) 休学中の学費

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料（100,000円（年間））を納入しなければなりません。

(4) 復学の願い出

休学者の休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、教育課程編成との関係で、学期の始め（第1学期（前期）または第2学期（後期）の開始日）に限定されています。復学の願い出は、学期開始日の前1ヶ月以内になければなりません。

(5) 休学による学年進行

学年進行するためには、各年度末の時点で当該学年における1年以上の在学歴が必要となります。例えば1年生の時に第1学期もしくは第2学期のいずれか1学期間の休学をした場合、在籍2年目となる翌年度の一年間も1年生の扱いとなります。このことにより、在籍2年目も1年生対象の科目しか受講できない可能性がありますので、休学する場合は履修計画に注意してください。

6. 再入学

- (1) 学則第19条により退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に、入学を許可することがあります（学則第14条）。ただし、再入学を願い出たときが、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (2) 学則第20条第1項第1号により除籍された者が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります（学則第14条第2項）。ただし、再入学を願い出たときが除籍された年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (3) 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。
- (4) 再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせてください。

7. 編入学・転入学

本学の他学部（学科・専攻）、他大学への編入学・転入学をすることになった場合は、その旨を国際学部教務課窓口で速やかに報告してください。

なお、本学学内での編入学・転入学に関する学則は以下のとおりです。

- (1) 本学の第3年次および第2年次に転入学または編入学を希望する者については、選考の上これを許可することがあります。（学則第13条）
- (2) 入学志願者は、所定の書式にしたがい、入学願書、履歴書および修学証明書を提出しなければならない。（学則第15条）
- (3) 他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願い出てその許可を受けなければならない。（学則18条の3）

※本学の他学部（学科・専攻）への転入学の場合は、学則19条に基づく退学の手続きが必要となります。

8. 9月卒業

第1学期（前期）末（9月30日）で卒業要件（修得単位・在学期間）を充足することとなる学生が、届出期間内に9月卒業の希望申込をした場合には、9月30日付で卒業の認定を受けることができます（要件充足者について、自動的に卒業認定を行うことはありません）。詳細については国際学部教務課窓口で相談してください。

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引生活
きの

Q
&
A

教員

付録

第5部 Q & A

登録・履修・試験について

Q 1年次で開講されている科目は、2年次以上でも履修できるのですか。

A 履修できます。各科目を受講できる学年はP.47～54の開設科目を参照してください。「1年」に○があれば「1年次以上から卒業年次まで」、「2年」に○があれば「2年次から卒業年次まで」受講することが出来ます。

Q 予備・事前登録はどのようにおこなうのでしょうか。

A 本学のポータルサイトにログインし「予備・事前登録」より予備・事前登録をおこなってください。(日程はポータルサイトや国際学部掲示板等で各自確認してください)。

結果については、以下のとおりポータルサイトで発表します。

- ◆当該科目が受講許可された場合
→履修登録(本登録)の登録画面上で、「履修確定」として結果が表示されます。
- ◆当該科目が受講許可されなかった場合
→表示されません。

受講許可された場合に限り、履修登録(本登録)および受講が可能となります。

受講許可がされなかった場合や、予備・事前登録を行わなかった場合は、理由のいかんに関わらず、一切登録・受講を認めません。

また、志望理由書の提出が必要な科目で提出が行われなかった場合も受講を認めません。

また、当該科目が受講定員に満たなかった場合、追加募集をおこなうことがあります。実施の有無については、国際学部教務課掲示板およびポータルサイトに掲載します。

なお、追加募集は国際学部教務課窓口でのみ受け付けます。(Webでは登録できません)

Q 予備・事前登録で受講許可が出た科目は、改めて履修登録しなければなりませんか。

A 受講許可が出た科目は、必ず履修登録期間中に履修登録をしてください。そのままでは登録されません。履修登録をしないと、「受講登録確認表」にエラーが表示されます。

Q 予備・事前登録した科目が受講許可された場合、必ず履修しなければなりませんか。取消はできますか。

A 一旦許可された予備・事前登録科目は、必ず履修しなければなりません。よって**取消は認めません**。予備登録をする前に履修要項やシラバスをよく読んで、今までの成績表を確認しながら、履修計画をきちんと立てておく必要があります。また、予備・事前登録をした科目は「履修辞退」もできません。

Q 予備・事前登録期間に手続ができませんでした。後日手続はできますか。

A 予備登録は予備・事前登録期間中のみ受け付けています。ただ、予備・事前登録結果発表の際に受講者の上限に余裕がある場合に限り、「追加募集」をおこなうことがあります。それに該当する科目であれば、登録は可能です。その際、登録は国際学部教務課窓口にて受け付けます。追加募集を申請した場合でも、受講許可ができない場合はポータルサイトにおいて当該科目が表示されません。また、追加募集の申請手続きをおこなった場合でも志望理由書が必要な科目において提出がない場合は受講許可ができません。いずれにせよ、事前に予備・事前登録期間および科目をポータルで確認することが大切です。

Q 「日本語論文表現」について教えてください。

A 「日本語論文表現」は留学生のみ受講することができます（日本人学生は受講できません）。第1回目の授業時に、クラス分け試験（プレismensテスト）を実施し、第2回目からクラス毎に分かれての受講になります。（クラス分け試験を受けていなければ、受講できません）
まずは履修を希望するクラス（「初級」または「上級」）をWeb登録してください。ただし、試験結果によっては、所属クラス（「初級」と「上級」）が変更となることもあります（後日クラス分け結果をポータルサイトに発表します。必ず確認してください）。

Q 再履修はどのクラスを受講すればよいですか。

A ① 「リサーチセミナーⅠ」「リサーチセミナーⅡ」について
それぞれ指定されたクラスを受講してください。クラス指定に関しては、履修登録画面を確認してください。

② 「必修外国語」について
それぞれ指定されたクラスを受講してください。クラス指定に関しては、履修登録画面を確認してください。

③ 「仏教の思想A・B」について
それぞれ指定されたクラスを受講してください。クラス指定に関しては、履修登録画面を確認してください。

④ 「専門演習A・B」および「卒論演習A・B」について
原則として、不合格となったゼミ担当教員のクラスを次年度受講してください。ただし、現担当教員と変更後担当教員の承認が得られた場合には、申請書を提出した上で演習クラスを変更して受講することが可能です。

Q 留学先で修得した授業科目の単位は、いつの成績表に記載されますか。

A 交換留学、私費留学、RIプログラム留学、夏期・春期休暇中における短期留学などの留学先において修得した単位については、成績表への反映時期がそれぞれ異なります。
成績表に反映される次期については個別でお知らせします。ただし、単位認定には時間を要しますのでご注意ください。

Q 「フリーゾーン」を満たすにはどの科目を履修すればよいですか。

A 「フリーゾーン」は「外国語」「学科基礎科目」「教養教育科目」「学科専攻科目」の修得単位の余剰分を指します。
この「フリーゾーン」については、個々人の関心とニーズに応じて多様な選択ができるように設けられています。教養知識を身につけたい学生は「教養教育科目」で充足してください。専門知識を身につけたい学生は「学科専攻科目」で充足してください。どの分野の科目を選択するかはみなさん次第です。また、グローバルスタディーズ学科提供科目を履修した場合も「フリーゾーン」で認定されます。

Q クラス指定や予備・事前登録のない科目は、どの先生の授業を履修してもよいのですか。

A 担当教員によって講義の内容が異なります。シラバスを参考にして、自分の興味がある内容の講義を履修することができます。クラス指定されている科目については、掲示板で自分のクラスを確認してください。
なお、同一科目であれば、たとえ担当者や開講曜講時が異なる場合でも、一度単位を修得した科目は再度履修登録できませんので注意してください。

Q 昨年度、不合格や履修辞退した科目は、今年度も履修登録できますか。

A 履修登録できます。なお、一度単位を修得した科目は再度履修登録できません。

Q 「サマーセッション」はいつ履修登録すればよいのですか。履修登録制限単位に含まれますか。

A サマーセッションを利用して開講される科目は、前期の履修登録時に登録してください。登録できる科目は2科目までとなります。
履修登録制限単位に含める必要はありません。(その他の履修登録制限単位に含まれない科目については、P.16を参照してください)
なお、単位認定は後期に行います。

Q 履修登録後、登録間違いに気づきました。修正することはできますか。

A 履修登録期間中であれば、修正は可能です。万一、登録に疑問または誤りがあれば登録修正期間中に国際学部教務課まで申し出てください。
履修登録期間終了後の修正は、履修辞退期間中に履修辞退を申し出る場合を除き、一切出来ませんので、シラバス・時間割を熟読のうえ登録をおこなってください。
※登録確認を怠ったために、登録不備等により卒業延期等の重大な不利益を被った例が生じています。確認は1科目ずつ慎重に行ってください。履修登録後は必ず受講登録確認表を印刷（プリントアウト）してください。

Q 受講登録確認表の合計単位数に「サマーセッション」「随意科目」が含まれていませんが、正しく登録されていますか。

A 受講登録確認表の合計単位数には、履修登録制限単位数に含まれる科目のみ換算されます。「サマーセッション」「随意科目」は履修登録制限単位に含みません（「サマーセッション」は卒業要件単位数には含まれます）ので、表示されません。上記の科目については、科目名・担当者名が正しく記載されているかを確認し、誤りがなければ正しく登録されています。

Q 卒業年次生ですが、今まで修得した単位数について、国際学部教務課でチェックしてもらえますか。

A 原則として、国際学部教務課で成績のチェックはしません。成績表については、成績照会期間にポータルサイトの成績照会より確認いただけます。履修要項を熟読し、自分の修得した単位数が卒業要件単位数を満たしているかの確認は各自の責任でおこなってください。
もし、疑問点等がありましたら、国際学部教務課まで来てください。

Q 授業を欠席してしまいました。何か必要な手続はありますか。

A 授業を欠席した旨を担当教員に申し出るための「講義欠席届」をお渡しします。学生本人が、国際学部教務課まで受け取りに来てください。なお、国際学部教務課から担当教員への欠席連絡は一切おこなっていません。学生本人から直接教員へ申し出てください。

Q 授業に遅刻する場合は、どうすれば良いですか。

A 公共交通機関の遅延により、遅刻する場合は、駅などで遅延証明書を受けとり、その裏面に「遅延が発生した日時」「遅延区間」「遅延時間」「学籍番号：氏名」「遅刻した科目」を明記し、第三者が客観的に遅延状況を判別できる状態で教員へ提出し、遅刻を申し出てください。

Q 定期試験の時間割は、いつ、どこで発表されますか。

A 試験開始日の原則14日前に、ポータルサイト（MY定期試験時間割）で発表します。

Q 定期試験をやむを得ない理由で欠席してしまったのですが、どうすれば良いですか。

A 欠席理由の証明書と印鑑を持参のうえ、試験日を含め4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし土曜日が試験日の場合は、試験当日を含む4日以内）に国際学部教務課にて追試験受験申込手続をしてください。追試験の受験料は、1科目1,000円です。
ただし、追試験は必ず受験できるわけではありません。寝坊など本人の過失の場合は、追試験の対象になりません。詳細は、P.23を参照してください。

Q 定期試験に学生証を持ってくるのを忘れてしまいました。どうすれば良いでしょうか。

A 国際学部教務課で試験用臨時学生証を借りてください。ただし、試験用臨時学生証は、その日の試験が終わり次第、速やかに国際学部教務課まで返却してください。

Q 成績評価に納得できません。どうすれば良いですか。

A 「成績に関する意味・内容がはっきりしないこと、疑わしいこと」に対し授業担当者に再確認を願い出る」ための成績疑義制度があります。定められた期間以内に国際学部教務課まで申し出てください。主観や感覚で「点数が低い」と感じたことを疑義の対象として受け付けることはできません。出席やレポート提出など必要な条件をすべて満たし、正当な理由と思われる疑義のみが受付対象となります。

留学制度・留学生について

Q 留学をしたいのですが、誰に相談すれば良いですか？

A 和顔館1Fに「留学サポートデスク」があります。専門の職員が留学についてアドバイスを行っています。

Q 学内の留学制度について知りたいです。どこで教えてもらえますか？

A グローバル教育推進センターの窓口にて配布される「留学ガイド」を参照してください。また、各学期の授業開始日以降にグローバル教育推進センター主催の「留学WEEK」があり、留学制度の紹介や各プログラムの説明を行っています。興味のある留学の説明会に参加することを推奨します。HPからは交換留学生の「マンスリーレポート」や、私費留学生の「帰国レポート」もオンラインで閲覧可能です。

Q 留学から帰国しました。単位認定を受けたいのですが、シラバスやアウトラインとは何ですか。

A 授業の内容がわかるものです。
シラバスとアウトライン両方ではなく、自分が受講した授業内容がわかるものです。
受講した期間・レベルの内容・授業の計画・評価の仕方（Assessment）などの項目です。
学校によってそれぞれ形式が違いますので、第三者が見て授業内容や評価方法などがわかる資料を提出してください。

Q 留学から帰国しました。単位認定を受けたいのですが、学校からシラバスなどが発行されない場合はどうすれば良いですか。

A 留学先学校に直接交渉してください。
授業内容がわかるものが一切発行されない場合は、「発行していない」という公式文書を留学先からもらってください。もし、シラバス等を作成してもらえるのであれば、前述した項目を含ませ、作成してもらうようにして下さい。

Q 留学から帰国しました。単位認定を受けたいのですが、成績表・修了書がもらえない場合はどうすれば良いですか。

A これらは必ず提出してください。修了書や成績表がないと単位認定できません。万が一、学校から発行できないと言われた場合は、帰国前に必ずメールにて「留学サポートデスク」までご相談ください。

Q 留学から帰国しました。単位認定を受けたいのですが、成績表や修了書が帰国後2週間以内に提出できない場合はどうすれば良いですか。

A その時点で揃っている書類を提出ください。
遅れて提出する場合は、遅れる理由、提出予定期日を別の書面（遅延理由書）に記入し提出して下さい。

Q 留学から帰国しました。データの提出方法がわかりません

A ダウンロードセンターで【帰国報告書・レポート】（ワード書式）をダウンロードし、それに直接入力し留学サポートデスクまでメールに添付してください。もしくは、USB にデータを保存し、留学サポートデスクに持ってきてください。
※詳細は、オリエンテーションにて説明します。

Q 単位認定を受けるための書類はいつまでに提出する必要がありますか

A 留学から帰国後2週間以内（短期は10日以内）に、定められた書類をすべて提出してください。提出がない場合は、単位認定の対象となりません。
なお、本人の帰国日から起算して、単位認定に必要な書類が60日以内（60日目が留学サポートデスク閉室日の場合は翌開室日）に留学サポートデスクに提出されない場合、すべての単位認定は行いません（ただし、留学先機関からの書類発行が遅れている等、本人の過失によらない遅延は上記の日数に算入しません。その場合も必ず事前に留学サポートデスクに申し出てください）。

Q 留学生です。アルバイトをしたいのですが、どういう手続きが必要ですか。

A まず、アルバイトをする前に、資格外活動許可書の申請が必要です。入国管理局にて、各自が直接申請してください。ビザの更新結果を受け取りに行く際、「資格外活動許可書」を申請すると手続きがスムーズです。なお、平成22年より大学内で教育に関する業務（ティーチング・アシスタント等）を行う場合は、資格外活動許可は不要となりました。**資格外活動で許可されるアルバイトの時間数と業種には制限があります。必ず守ること。**学則に定めている授業期間中、テスト期間中は1週について28時間以内、長期休業期間中は1日について8時間以内で資格外活動を行ってください。

Q 留学生です。ビザの有効期間がもうすぐ切れるのですが、どうすれば良いですか。

A ビザの有効期間が切れる3ヶ月前から、在留期間更新許可申請ができます。申請する際、「在留資格更新許可申請書（「個人作成用」と「所属機関作成用）」、「学業成績証明書」「在学証明書」「パスポート」「在留カード」が必要となります。「所属機関作成用」申請書を国際学部教務課まで申し出てください。休学経験者に対しては、上記以外に更に「休学許可書」「復学許可書」「休学期間証明書」が必要となります。新入生の場合は前の学校の「学業成績証明書」「出席状況証明書」が求められることがあります。
※資格外活動許可申請も更新許可受領時に合わせて延長となった在留期間まで申請しましょう。

Q 留学生です。就職内定先が決まらず、卒業後も日本で就職活動を続けたい場合はどうすれば良いですか。

A 日本で就職したい意志を明白に持ち、卒業後も引き続き就職活動を行う場合、「留学」ビザから「特定活動」ビザへの変更申請は可能です。詳しくは国際学部教務課窓口で相談してください。
※「留学」ビザのまま、就職活動を行った場合は入管法違反となりますので十分ご注意ください。

Q 留学生です。パスポートの有効期間が切れた場合や紛失した場合、どうすれば良いですか。

A 有効期間が切れる前に、居住地の所轄母国の在日大使館・領事館でパスポートの更新手続きをおこなってください。紛失した場合は、まずは最寄りの警察で「紛失届証明書」を発行してください。その後、母国の在日大使館・領事館で再発行の手続きをおこなってください、その際、紛失届に記載されている受理番号が必要になりますので、確認しておいてください。

Q 留学生です。長期休暇期間中、帰国したいのですが、どんな手続きが必要ですか。

A 帰国する前に国際学部教務課窓口にて「旅行・帰国届」を提出して下さい。用紙は国際学部教務課にて受け取ってください。場合によって、入国管理局にて「再入国許可」を申請する必要があります。詳しくは国際学部教務課窓口で確認してください。

Q 留学生を対象とする奨学金を申請したいのですが、どんな奨学金がありますか。また、どうやって申請すれば良いですか。

A 留学生を対象とする奨学金は「自己応募奨学金」と「学部推薦奨学金」があります。自己応募奨学金の情報は、学生部の掲示板（カフェ樹林外側）に随時掲示しますので、各自で確認し、学生部にて申請してください。学部推薦奨学金は、「龍谷大学特別奨学金」「私費外国人留学生学習奨励費」の2種類があり、いずれにしても成績の優劣が重視され、学部内で推薦されることにより対象者となります。

Q 留学生寮に入りたいのですが、どんな手続きが必要でしょうか。

A 本学には留学生寮が3ヶ所あります。（「りゅうこく国際ハウス」「大宮荘」「向島学生センター」）入寮募集期間は、年に2回（6月・12月）です。詳しい情報については、グローバル教育推進センターHP（<https://intl.ryukoku.ac.jp/dormitory/index.html>）や国際学部教務課にて確認してください。

Q 京都に在住している留学生です。国民健康保険補助金を申請したいのですが、どうすれば良いですか。

A 京都市に在住している外国人留学生は、国民健康保険の補助金を申請し、年間8,400円の補助を受けることができます。申請期間は年に1回（9/1～9/30）を設けており、一回申請すれば、1年の補助金が支給されます。詳しくは国際学部教務課まで相談してください。

Q 留学生ですが、部屋を借りるのに保証人が見つかりません。どうすれば良いですか。

A 京都市内に住むのであれば、「京都地域留学生住宅支援制度」があります。詳しくはグローバル教育推進センターまで問い合わせください。

証明書について

Q 「英文証明書」が必要です。どこで発行できますか。

A 国際学部教務課で発行します。証明書自動発行機で証明書交付願を出力のうえ、国際学部教務課にて申し出てください。なお、「英文証明書」の発行には1週間程度必要です。日数に余裕をもって申し込んでください。

Q 就職活動のために「卒業見込証明書」「成績証明書」「健康診断証明書」が必要です。いつから発行してもらえますか。

A 「成績証明書」は、常時、証明書自動発行機にて発行可能です。
「卒業見込証明書」は、卒業年次生が5月上旬から証明書自動発行機にて出力できます。ただし、履修登録を完了していない場合や登録修正をしていない場合、卒業の見込がたたないことがあります。その場合は、至急、国際学部教務課で登録状況の確認をしてください。
「健康診断証明書」も5月上旬から証明書自動発行機にて発行可能です。ただし、4月の定期健康診断を受けていない場合や、健診項目を1つでも受診していない場合は発行できません。必ず定期健康診断を受検してください。

Q 証明書を厳封して提出しなければなりません。どこで厳封してもらえますか。

A 国際学部教務課にて厳封します。証明書自動発行機から出力した場合は、証明書を持参のうえ、国際学部教務課に来てください。証明書交付願を出力し、国際学部教務課で申し込む場合は、その際に厳封の依頼をしてください。

Q 今までに単位を落とした科目や履修辞退した科目があります。証明書に記載されますか。

A 単位を落とした科目および履修辞退した科目については、科目と評価ともに記載されません。証明書に記載されるのは当該学期までに単位を修得した科目と評価です。評価方法は、点数ではなくS・A・B・Cによる記載です。
(詳細はP.20の「成績評価の基準」を参照して下さい)

Q 提出先に3カ月前に発行した証明書を提出しても良いですか。(証明書に期限はありますか。)

A 証明書の期限は3カ月を目安にしています。従って、留学手続に必要な場合や就職活動の際に企業に提出する場合、または大学院進学などの手続の際には再度最新のものを発行してください。

Q 証明書を間違えて出力してしまいました。返金してもらえますか。

A 返金は可能です。間違えて出力した証明書、もしくは証明書交付願を持参のうえ、国際学部教務課で返金依頼書に記入後、経理課(紫英館2F)にて返金手続をおこなってください。

Q 深草学舎以外にある証明書自動発行機からも証明書(交付願)は出力できますか。

A 学舎を問わず、いずれの発行機でも発行が可能です。ただし、証明書交付願等の受付は国際学部教務課のみです。

Q 調査書の依頼は演習担当教員に直接しても良いのでしょうか。

A 調査書は、証明書と同様に発行手数料が必要です。証明書自動発行機で「調査書」の交付願を出力し、国際学部教務課にて申込手続きをしてください。ただし、調査書の推薦文等は、演習担当教員が記入します。国際学部教務課で手続きをおこなう前に、次の2点を必ず各自で演習担当教員に伝えてください。

- ① 調査書の推薦文を書いていただくよう依頼をする
 - ② 出願締切日および作成締切日の打ち合わせをする
- 必ず出願期間の締切日を確認し、日数に余裕をもって申し込んでください。

学籍について

Q 休学（退学）を考えています。

A まずは国際学部教務課までご相談ください。理由をうかがった後に所定の用紙をお渡しします。詳細な手続については、P.76の「休学と復学」を参照してください。

Q 今年度後期から来年度前期までの1年間の休学は可能ですか。

A 可能です。ただし、年度をまたがった休学申請は不可能なため、今年度後期と来年度前期でそれぞれ休学手続をとる必要があります。詳細は、国際学部教務課までご相談ください。

Q 休学中の在籍料を除いた学費の余剰分は返金されるのでしょうか。

A 次学期の学費に繰り越されますので、返金はされません。次学期の学費は、当該学期の学費からその余剰分を差し引いた金額が請求されます。

Q 1年次後期（2セメスター）を休学した場合、次年度前期には2年次の科目は登録できますか。

A まず、復学の手続が必要です。復学の手続が完了した後で、今までに修得した単位数、これから履修したい科目によっては登録できる場合があります。復学手続の際に、今後の履修計画を立て、国際学部教務課までご相談ください。

Q 「現住所」「氏名」「保証人」「緊急連絡先」「学費請求先」の登録内容が変わりました。必要な手続は何ですか。

A 本学所定の各種変更届を国際学部教務課でお渡しします。印鑑を持参のうえ国際学部教務課までお越しください。なお、書類によっては書類添付や保証人の連署捺印が必要なものがあります。

Q 学生証を紛失してしまいました。再発行はできますか。

A 学生証の再発行は可能です。紛失した場合は学生部・最寄りの警察署（交番）・生協事務室に紛失届を提出し、ただちに国際学部教務課にて再発行の手続をおこなってください。その際、再発行手数料として1,000円が必要です。なお、学生証の再発行には、2日以上を要するので注意してください。また、紛失でなくても、破損や顔写真が見えない場合は、必ず再発行してください。

Q 学生証の磁気が弱くなりました。再発行しなければなりませんか。

A 磁気入力をおこないますので学生証を持参のうえ、国際学部教務課まで来てください。ただし、磁気入力不可能な場合は再発行する必要があります。

Q 学生証の再発行中に証明書の発行および図書館利用は出来ますか。

A ①証明書の発行について
証明書の発行は可能です。国際学部教務課にて手続をおこなってください。
②図書館利用について
図書館への入館、図書の間覧・返却は可能です。ただし、原則として貸出は認めていません。入館の際には図書館入口で学生証の再発行中であることを係の者に申し出てください。

Q 瀬田学舎でサークルに所属しています。自宅から深草学舎までの通学定期券とは別に家から瀬田までの通学定期券を買いたいのですが、できますか。

A 自宅から瀬田学舎までの通学定期券の購入はできません。通学定期券は大学（所属学舎）の最寄駅と自宅の最寄駅の最短経路、区間に限り購入可能です。よって深草学舎から自宅までの通学定期券のみ購入可能となります。

学生生活について

Q 情報処理自習室はいつ、どの場所で使用できますか。

A 情報メディアセンターの掲示板で確認してください。
なお、自習教室の開室状況は、下記URLより参照できます。
<https://www.media.ryukoku.ac.jp/>

Q 全学統合認証パスワード（Webポータルサイト・メール・証明書自動発行機のパスワード）を忘れてしまいました。どこで教えてもらえますか。

A 全学統合認証パスワードは、情報メディアセンターで管理しています。各自で直接申し出てください。

Q ゼミやサークルで教室を使用したいのですが、どこでどのような手続をすれば良いですか。

A ゼミや一般同好会等の自主活動の場として、教室貸出をしています。教室を使用したい場合は、代表者（あるいはそれに代わる者）が学生証および印鑑を持参して、学生部にて手続をおこなってください。申込受付は1週間ごとにおこなっていますが、臨時の教室変更等で使用できない場合もあります。
また、土曜日の教室貸出は15時までです。日曜、祝日の貸出はおこなっていません。

Q 先生と連絡を取りたいのですが、連絡先(住所・電話番号・メールアドレス)を教えてください。

A 教員の連絡先は、国際学部教務課で教えることは出来ません。必要な場合は、直接教員に確認してください。なお、多くの教員はホームページ等で連絡先を公開しているので、まずは確認してください。

Q 先生へ伝えたいことがあります。国際学部教務課から伝えてもらえますか。

A 国際学部教務課から教員への伝言は一切受け付けていません。講義時等を利用して直接学生本人から先生に伝えてください。もちろん、レポートや課題等も国際学部教務課で受け付けることはありません。

Q 奨学金の申込をしたいのですが、手続場所はどこですか。

A 奨学金は「貸与」と「給付」の大きく2種類に分けられます。選考は奨学金の種類によって基準が異なります。出願に関しては、説明会や掲示板、および学生部で配付される各要項を確認してください。

Q 学費の納入期限に間に合わないかもしれません。どうすれば良いですか。

A 期日までに納入できない場合は、学費延納・分納の制度があります。学生部にて書類の配付・受付をしています。

Q 学費が10万円だけ足りません。大学での貸付制度はありますか。

A やむを得ない事情がある場合、短期貸付制度があります。他に方法が無い場合は国際学部教務課までご相談ください。

Q ケガをしてしまい、車で通学したいのですができますか。

A 医療機関が発行する診断書を持参のうえ、国際学部教務課までご相談ください。

こんな場合には？

こんなとき		ここで	こうする
講義関係で	短期間欠席する	各科目担当教員	「講義欠席届」を国際学部HPからダウンロードの上、提出する。
	3ヵ月以上欠席する	国際学部教務課	保証人と連署で、休学を願い出、許可を受ける。 (印鑑必要)
	休講・教室等講義に関係することが知りたい	国際学部教務課	毎日登下校時に、学部掲示板を見る。不明な点は国際学部教務課に問い合わせる。なお、休講情報は大学のホームページ上でも確認できる。
	教員と面談したい	国際学部教務課	manabaで教員のオフィスアワーを確認する。 または、国際学部教務課に問い合わせる。
	登録に際し、不明な点がある	国際学部教務課	履修要項熟読の上、登録日までに照会・相談する。
	成績に疑義・質問がある	国際学部教務課	掲示された所定期間に申し出る。 (印鑑必要)
	学業・修学についてわからないこと、知りたいことがある。	国際学部教務課	随時、照会・相談する。
試験関係で	突発事由で試験に欠席して追試を願い出たい	国際学部教務課	欠席後その科目の試験日を含め4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし土曜日が試験日の場合は、試験当日を含む4日以内）に届け出る。（診断書等理由を証明できるもの、印鑑必要）
	試験の日時を知りたい	国際学部教務課	試験開始日の原則14日前に掲示・発表される。
	受験に際し、学生証の不携帯に気がついた	国際学部教務課	試験用臨時学生証の交付を受けて受験し、受験後ただちに国際学部教務課に返却する。
	交通機関ストライキ・台風等の場合の授業は？		授業休止の取扱基準の欄を参照のこと。(P.73)
学籍関係で	現住所を変更した	本人	変更内容をただちに届け出、学生証の住所および通学区間・方法を変更する。 (印鑑必要)
		保証人	変更内容をただちに届け出る。 (印鑑必要)
	氏名を変更した	本人	変更内容をただちに届け出、学生証の氏名を変更する。 (住民票記載事項証明書・印鑑必要)
		保証人	変更内容をただちに届け出る。 (印鑑必要)
保証人を変更するとき	国際学部教務課	変更内容をただちに届け出る。 (印鑑必要)	
	休学したい	国際学部教務課	保証人と連署で休学を願い出、許可を受ける。 (理由書又は診断書添付・印鑑必要)
	復学したい	国際学部教務課	事前に相談のうえ、期限内に保証人と連署で学期開始日1ヵ月前までに復学を願い出、許可を受ける。 (印鑑必要)
	退学したい	国際学部教務課	事前に相談のうえ、期限内に保証人と連署で退学を願い出、許可を受ける。 (理由書または診断書と学生証添付・印鑑必要)
	編・転入試験を受けたい	国際学部教務課	随時、照会・相談する。
	再入学したい	国際学部教務課	国際学部教務課で相談の上、入試部に問い合わせる。

	こんなとき	ここで	こうする
証 明 書 関 係 で	学生証の交付を受ける	国際学部教務課	入学時に交付を受け、卒業まで使用する。ただし、「在籍確認シール」を毎年学年始めに配布する。
	学生証を紛失した	国際学部教務課	紛失後ただちに届け出る。最寄りの警察へも届け出る。
	学生証の再交付を受ける	国際学部教務課	発行機にて「学生証再交付願」（再交付手数料1,000円）の交付を受け、提出する。顔写真を変更希望する場合は写真が必要。（印鑑必要）
	通学定期券を購入したい	各交通機関	学生証を各交通機関の窓口に提示した上、購入する。
	学割証がほしい	証明書自動発行機	各種証明書の交付の欄を参照。
	団体旅行割引証がほしい	国際学部教務課	クラス・ゼミの場合、必要時に申し込む。即日交付。
経 済 生 活 の 面 で	アルバイトの紹介	学 生 部	紹介物件を掲示板で確認し、各自窓口に申し込む。
	奨学金を希望するとき	学 生 部	学生手帳「奨学金」の欄を参照。
	授業料の納入がおくれるとき	学 生 部	延納一括・分納最高3回分割の制度があるので、学生部へ所定の期間内に申し出ること。期日については学生手帳で確認すること。（印鑑が必要）
	生活費の支弁が困難なとき	学 生 部	学生手帳「短期貸付制度」の欄を参照
課 外 活 動 の こ と	団体を結成するとき（同好会・県人会など）	学 生 部	前もって課外活動担当者の相談を受け、所定用紙に必要事項を記入し、提出する。（印鑑が必要）
	課外活動諸団体への入部	各 団 体	直接各団体に申し込む。学生手帳「課外活動のすすめ」の欄を参照。
	課外活動でのいろいろな問題	学 生 部 学 生 相 談 室	各団体の長や先輩に相談する。相談できない時は、部長・顧問の先生または学生部・学生相談室で相談する。
	集会をするとき	学 生 部	前もって学生部で所定の手続きをして、会場等の調整を計ること。
	合宿をするとき	学 生 部	所定の用紙で合宿の10日前までに届け出る。
施 設 の 利 用	大学指定合宿施設を利用するとき	学 生 部	学生手帳「大学指定合宿施設」の欄を参照。
	教室を借用したいとき	学 生 部	所定の用紙で願い出ること。
	学友会館のホール・会議室等を利用したいとき	学 友 会 館 事 務 室	所定の用紙で願い出ること。学生手帳「学友会館」の欄を参照。
ものを紛失・拾得または盗難にあったとき	学 生 部 国際学部教務課	ただちに学生部または、国際学部教務課に申し出る。	
種々の問題で悩んでいるとき	学 生 相 談 室 国際学部教務課	学生手帳「学生相談室」の欄を参照。 悩んでいること、困っていることは遠慮せず早目に相談すること。	
障がいにより大学生活に困難を有し支援を希望するとき	障がい学 生 支 援 室	学生手帳「障がい学生支援」の欄を参照。	
正課または正課外において災害事故にあったとき	学 生 部	学生手帳「学生災害事故療養費等給付」の欄を参照。	
健康相談、診療および応急処置をうけたいとき	保 健 管 理 セ ン タ ー	学生手帳「保健管理センター」の欄を参照。	

履修の心得

教育課程

諸課程

学生生活の手引き

Q & A

教員

付

録

第6部 教員

国際学部 専任教員名簿

	教員氏名	Name	所属学 科	研究室	
あ	泉 文明	IZUMI, Fumiaki	IC	和-410	
か	カルドネル シルヴァン	CARDONNEL, Sylvain	IC	和-411	
	カルロス マリア レイナルース	CARLOS, Maria Reinaruth	IC	和-415	
さ	河合 沙織	KAWAI, Saori	GS	和-426	
	斎藤 文彦	SAITO, Fumihiko	GS	和-434	
	佐野 東生	SANO, Tosei	IC	和-408	
	澤西 祐典	SAWANISHI, Yusuke	IC	和-421	
	史 彤嵐	SHI, Tonglan	IC	和-406	
	清水 耕介	SHIMIZU, Kosuke	GS	和-431	
	杉本バウエンス ジェシカ	SUGIMOTO-BAUWENS, Jessica	IC	和-422	
	徐 光輝	XU, Guanghui	IC	和-418	
	壽崎 かすみ	SUSAKI, Kasumi	IC	6-426	
	鈴木 滋	SUZUKI, Shigeru	IC	和-412	
た	瀧口 順也	TAKIGUCHI, Junya	GS	和-432	
	瀧本 真人	TAKIMOTO, Masato	GS	和-436	
	嵩 満也	DAKE, Mitsuya	IC	和-413	
	チャプル ジュリアン	CHAPPLE, Julian	GS	和-437	
	陳 慶昌	CHEN, Ching-Chang	GS	和-433	
	塚本 瑞香	TSUKAMOTO, Mizuka	IC	和-409	
	デブナール ミロシュ	DEBNÁR Miloš	IC	和-405	
	友永 雄吾	TOMONAGA, Yugo	IC	和-401	
	な	長尾 明子	NAGAO, Akiko	GS	和-427
		中根 智子	NAKANE, Satoko	GS	和-435
長嶺 寿宣		NAGANINE, Toshinobu	GS	和-424	
は	林 則仁	HAYASHI, Norihito	IC	和-430	
	早島 慧	HAYASHIMA, Satoshi	IC	和-407	
	朴 炫国	PARK, Hyunkuk	IC	和-428	
	久松 英二	HISAMATSU, Eiji	IC	和-420	
	ピゴット ジュリアン	PIGOTT, Julian	GS	和-438	
	平塚 貴晶	HIRATSUKA, Takaaki	GS	和-429	
	ファーマノフスキー マイケル	FURMANOVSKY, Michael	IC	和-416	
	福山 泰子	FUKUYAMA, Yasuko	GS	和-425	
	二葉 晃文	FUTABA, Terufumi	IC	6-408	
	ブラドリー ウィリアム	BRADLEY, William	GS	和-440	
ま	古川 秀夫	FURUKAWA, Hideo	IC	和-419	
	松居 竜五	MATSUI, Ryugo	IC	和-423	
	松村 省一	MATSUMURA, Shoichi	GS	和-439	
や	八幡 耕一	YAWATA, Koichi	IC	和-417	
ら	劉 虹	LIU, Hong	IC	和-404	

IC…… Intercultural Communication (国際文化学科)

GS …… Global Studies (グローバルスタディーズ学科)

和 ……和顔館

6 ……6号館 (紫英館)

国際文化学科 専任教員紹介



泉 文明
IZUMI, Fumiaki

職名	教授
学歴・学位	博士（文学）
専門分野	日本語学／日本語教育学／応用言語学／京都学／国際協力論／社会文化論
研究分野	複合新領域
研究テーマ	語彙研究／文字表記研究／コミュニケーション論／応用言語学／京都学／言語文化研究
研究キーワード	言語／文化／社会／京都
主な研究活動等	<p>《主著》『京ことばとその周辺.晃洋書房2012』。『葵祭に行くっ』『祇園祭に行くっ』『時代祭に行くっ』（以上3部.京都市産業観光局MICEより2017～継続的に出版中）。『京ことばの心髄にせまる.宗教部報.2019-連載中』。「京都とアジア:いにしえからの交流をひもとく.文化交流のエリアスタディーズ所収.ミネルヴァ書房2011）。『日本語学を学ぶ人のために.世界思想社2009』。『新しい日本語研究を学ぶ人のために.世界思想社2009』。『動詞と形容詞の使い方辞典.三省堂2008』。『基礎から学ぶ語学シリーズ韓国語.学研2007』。『すぐに役立つ韓国語.学研2007』。《事典辞典》『新版日本語教育事典.大修館書店2005』。『キャリア開発ビジネスサポート5言語対応辞典.英光社2007』。《教科書》『大学大学院総合日本語.学研2002』。『日本語ⅠⅡ.韓国高等学校国定教科書2015-19』。『中国日本語教師テキスト.国際文化フォーラム2001』。《報告書》『東アジア地域における1945年以降の日本語教育の自律と変容に関する調査研究.文部科学省科学研究費研究成果報告書2008』。『中国語朝鮮語話者の日本語漢語語彙の学習を支援するための基礎的研究.文部科学省科学研究費研究成果報告書2004』。《主な論文》「京都の寺社にまつわる言い回し.ことわざ学会誌9,2020」,「日口言語教育交流小考.国際文化研究17.2017」。「植民地支配下および解放後の日本語教育:日本語教科書と聞取りをてがかりに.龍谷紀要29」。「日本語教師という職業:概要と道のり.国際文化ジャーナル16.2012」。「海外日本人学校に期待される文化理解力養成についての考察.国際文化研究16」。「京都の社会的可変性と不変性の考察.比較文化研究101.2012」。「京ことばの婉曲表現に関する考察.比較文化研究96.2011」。「仮名の機能とハングルの機能.表現学会&韓国日本文化学会」。「情報伝達と漢字仮名.日本文化研究6」。「似て非なる漢字漢語.国際文化フォーラム通信誌2013」。「情報伝達と漢字仮名.日本文化研究6」。「高校国語教科書に見る複表記.比較文化研究76.2007」。《所属学会等》日本語教育学会・韓国日本語教育学会・日本国際文化学会・日本比較文化学会・国際文化フォーラム・ことわざ学会・日本語誤用例研究会・京都民俗学会・近代語研究会・語彙史研究会</p>

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録



カルドネル シルヴァン
CARDONNEL, Sylvain

職名	教授
学歴・学位	文学修士号（哲学）〔パリ第12大学〕 博士号（哲学）〔トゥールーズ・ル・ミライユ大学〕
専門分野	哲学
研究分野	人文学／哲学
研究テーマ	西田幾多郎哲学、京都学派の（再）評価／赤瀬川原平が提言した「超芸術トマソン」における「他力思想」及び「日本的」美意識／フランス語圏文学における日本文化論、日本に対する言説の変成
研究キーワード	西田幾多郎／赤瀬川原平／超芸術トマソン／日本文化論
主な研究活動等	<p>〈論文〉 <i>Anatomie du tomason, observation urbaine et état de conscience modifié</i>, (トマソンの解剖学、路上観察と意識の変化について) 雑誌 TRANSES (6号) DUNOD出版、France、2019年。 <i>Le récit par Paul Nicolas Bouvier du voyage de la Suisse au Japon à travers articles et photographies parus dans des revues japonaises (1955-56)</i> (ニコラ・ブーヴィエの1955-56年の間に日本の雑誌に掲載された記事及び写真をまとめたスイスから日本までの旅行記について) 国際文化研究 (19号) 2015年。 <i>Nishida contre Numa: Le Japon et les démons de la modernité 3/4</i> 国際文化研究 (16号) 2012年。 <i>Nishida contre Numa: Le Japon et les démons de la modernité 2/4</i> 国際文化研究 (14号) 2010年。 <i>Nishida contre Numa: Le Japon et les démons de la modernité 1/4</i> 国際文化紀要 (13号) 2009年。「欧米社会におけるCMの表現様式の変化—ポストモダンの視点から—」、ミネルヴァ書房、2009年。</p> <p>〈翻訳〉 Nishida Kitarô, <i>Logique du lieu et vision religieuse du monde</i>, 1999, Éditions Osiris (en collaboration avec Sugimura Yashuhiko)。 Numa Shôzo, <i>Yapou, bétail humain</i>, 3 volumes, 2005~2007, Éditions L. Viallet。 Takahashi Genichirô, <i>La centrale en chaleur</i>, 2013, Books Editions。 Maekawa Yutaka, <i>Creepy</i>, 2017, Éditions d'Est en Ouest。 EnjoeToh, <i>Arlequinus arlequinus & Chronique de Matsunoe</i>, 2020, Éditions de la ronde de Nuit。 Yorifuji Bunpei, <i>Le dessin et les mots</i>, 2021, Éditions B42。</p> <p>〈新聞記事等〉「消滅する京町家、街並み、トマソン、実在」 京都新聞、新年号2021年 https://pr.kyoto-np.jp/campaign/nwc_wise/message/culture/k11.html <i>Kyoto-tomason: the hunt for hidden Hyperart</i>, in « Kyoto Journal » (100号), Japan, 2021年 https://www.kyotojournal.org/kyoto-notebook/kyoto-tomason-the-hunt-for-hidden-hyperart/</p>
一言コメント	趣味はアート鑑賞とトマソン探し、料理と読書。
E-mail	sylvain@world.ryukoku.ac.jp



カルロス マリアレイナルース
CARLOS, Maria Reinaruth

職名	教授
学歴・学位	神戸大学大学院経済学研究科 博士（経済学）
専門分野	国際労働移動、経済発展と人的資源、東南アジアの経済
研究分野	社会科学 応用経済学 Migration Studies
研究テーマ	<p>国際労働移動の経済的分析</p> <p>(1) 高齢社会日本における外国人労働者の受け入れ</p> <p>(2) 東南アジア・日本間の国際労働移動</p> <p>(3) 在日フィリピン人労働者（とりわけ介護士と英語教師）</p> <p>(4) 在日フィリピン人コミュニティの課題（高齢化など）</p>
研究キーワード	外国人労働者・フィリピン・在留外国人・高齢化・海外送金・人的資源
主な研究活動等	<p>在日フィリピン人コミュニティの実態調査（フィールドワーク）</p> <p>Where do overseas Filipinos intend to retire? The case of Filipinos in Chugoku Region, Japan (2022年, <i>Asian and Pacific Migration Journal</i>) その他</p>
一言コメント	人々は他人のことはよくわかるが、自分のことはわからないと言います。もちろん、私もその一人です。国際学部は外国の文化を学ぶ場のみならずそれを通じて自文化を見つめ直しより深く理解する場所でもあります。



佐野 東生
SANO, Tosei

職名	教授
学歴・学位	ハーヴァード大学修士課程修了 慶応義塾大学博士課程修了 博士（法学）（龍谷大学）
専門分野	イスラーム研究／比較宗教学
研究分野	イスラーム史／宗教学
研究テーマ	イスラーム研究を神秘思想を中心に行う。またキリスト教、仏教との対話に向けた比較宗教学を研究。
研究キーワード	イスラーム／神秘思想／トルコ
主な研究活動等	『近代イラン知識人の系譜』ミネルヴァ書房 2010 （編訳）『カーシアの説教：悪魔にいかに対処するかーカリフ・アリーの『雄弁の道』Nahj al-Balāghahよりー』龍谷大学国際社会文化研究所 2021 「ルーミーとキリスト教ーそのイエス、キリスト教徒観よりー（1）」龍谷大学国際社会文化研究所紀要22号 2020 9-27 「ズィクルと念仏の比較考察ータワックルと他力の接点ー」『世界仏教文化研究論叢』第61集 龍谷大学世界仏教文化研究センター 2023 61-90
一言コメント	イスラームは世界宗教であるとともに多様な文化を有しています。イスラーム世界の人々と交流する上で豊かな言語文化を知ってください。



澤西 祐典
SAWANISHI, Yusuke

職名	准教授
学歴・学位	京都大学大学院人間・環境学研究科 博士（人間・環境学）〔京都大学〕
専門分野	日本近代文学／比較文学
研究分野	人文学／文学／日本文学
研究テーマ	芥川龍之介。特に、旧蔵書（洋書）の調査を中心とした、芥川の海外文学受容について。
研究キーワード	芥川龍之介／比較文学
主な研究活動等	著書に『芥川龍之介選 英米怪異・幻想譚』（共編訳・2018）、『芥川龍之介ハンドブック』（共著・2015）など、論文に「芥川龍之介編The Modern Series of English Literatureについて・補遺」（『別府大学大学院紀要』2019）、「英文との対照から見た芥川龍之介の文体」（『國語國文』2016）、「江戸東京博物館所蔵 芥川龍之介関連資料解題（1）「馬の脚」自筆原稿」（『芥川龍之介研究』2016）、「芥川龍之介と卒業論文『Young Morris』」（『京都大学國文学論叢』2015）など。 小説に「妖精展覧会」（『小説新潮12月号』2020）、『雨とカラス』（2019）、『文字の消息』（2018）などがある。『フラミンゴの村』（2012）で第35回すばる文学賞受賞。
一言コメント	たくさん本を読んで、たくさん語り合ってください。その時間が必ずかけがいのない財産になります。

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録



史 彤嵐
SHI, Tonglan

職名	教授
学歴・学位	関西大学大学院文学研究科中国文学専攻博士後期課程単位取得満期退学 博士（文学）
専門分野	現代中国語文法／対外国人中国語教育
研究分野	人文学／言語学／外国語教育
研究テーマ	文法研究／言語文化研究
研究キーワード	中国語・中国の言語文化
主な研究活動等	『ちょっとまじめに中国語』（共著・同学社・2001）、 「V得C構文における“得”の文法機能」（『中国語学』2001）、 「形容词重疊式作“得”后补语和状语—由“她把茶沏得酽酽的。”及“她酽酽地沏了一杯茶。”两类句式说起」（『中国語学』2005）、 「“玩个痛快”“忙得个不亦乐乎”类补语考察」（『中国語教育』2006）その他



杉本パウエンス ジェシカ
SUGIMOTO-BAUWENS, Jessica

職名	准教授
学歴・学位	ルーヴァンカトリック大学日本学修士、同社会文化人類学修士、大阪大学大学院人間科学研究科博士課程修了（2007年）
専門分野	カルチュラル・スタディーズ、漫画研究、映像論
主な研究活動等	2014 「ヨーロッパの輸入、再生産、そして逆輸入と再々生産——ゴスロリ・ファッションをめぐる」、『着ること／脱ぐことの記号論』日本記号学会編、新曜社（2014年10月10日 発行）pp. 85-96. 2016 “Queering Black Jack: A look at how the manga industry adapts to changing reader demographics”. In: <i>Orientalisk Studier Nr 147, Proceedings from the 2016 NAJAKS Conference at Stockholm University</i> . Stockholm University, pp. 111-140. 2019 “Yoko Tsuno and Franco-Belgian Girl Readers of Bande Desinée”. In: Ogi Fusami, et al. (eds.) <i>Women’s Manga in Asia and Beyond: Uniting Different Cultures and Identities</i> (pp.181-198). Palgrave McMillan. 2020 (Co-translated with Patrick W. Galbraith) (2020) Nagayama Kaoru: <i>Erotic Comics in Japan: An Introduction to Eromanga</i> . (永山薫の『エロマンガ・スタディーズ——増補版』の英訳) Amsterdam: Amsterdam University Press.
一言コメント	研究においても、レポート・卒論を書く時も、「案ずるより産むが易し」
E-mail	jess@world.ryukoku.ac.jp



徐 光輝
XU, Guanghui

職名	教授
学歴・学位	吉林大学歴史学修士
専門分野	中国考古学
研究分野	人文学／史学／考古学
研究テーマ	初期国家の形成過程の探索
研究キーワード	東アジア諸地域／集落形態／城郭／農耕文化／金属器
主な研究活動等	「中国の農耕集落」(『東アジアと日本の考古学』・同成社・2003)、「東北アジアにおける集落形態研究」(『国際文化研究』10・龍谷大学・2006)、『東北アジア古代文化論叢』(2008)、『壁画から見る北魏の此岸彼岸観』(2014)など、中国考古学会、考古学研究会所属。たまに市民講座などを担当。
一言コメント	書道、音楽のほか、衣食住と方言を含む民俗調査。
E-mail	xgh@world.ryukoku.ac.jp



壽崎 かすみ
SUSAKI, Kasumi

職名	准教授
学歴・学位	東京工業大学大学院 社会工学研究科 社会工学専攻 博士課程修了 博士(工学)
専門分野	都市計画、住環境計画、まちづくり
研究分野	工学／都市計画、住環境計画、まちづくり
研究テーマ	人にやさしい住環境計画、都市シミュレーション
研究キーワード	都市計画、住環境計画、防災・福祉のまちづくり、生き物との共生、都市シミュレーション
主な研究活動等	「まちづくりと宗教」 壽崎かすみ、多文化時代の宗教論入門 久松英二、佐野東生 編著 ミネルヴァ書房 第2章、2017 “The current QOL situation of inhabitants of urban areas in Japan - From the perspective of living with companion animals” Kasumi Susaki, 6th Central European Conference in Regional Science Engines of Urban and Region Development Conference Proceedings, 2017 「市街地での家庭犬の飼育に関わる近隣トラブルを回避するための課題に関する基礎的研究—イギリスとの比較・検討から」、 壽崎かすみ、日本地域学会 地域学研究 第四十八巻 第二号、2018 “MODELING AND SIMULATION OF A VISION-DRIVEN PEDESTRIAN AGENT”, 共著, Proceedings of the 12 th Space Syntax Symposium, 2019 “Potential of Vision Driven Agent Simulation-The VD-Walker”, Kasumi Susaki, Toshiyuki Kaneda, Downtown Dynamics: Novel Perspective for Agent-Based Urban Research Chapter 10, Springer, 2020 「地域コミュニティに内在する防災と文化遺産保全の隔たり—都市縮小時代をむかえた京都市を事例に」、共著、歴史都市防災論文集 Vol.15 立命館大学歴史都市防災研究所 2021 「指定避難所での同行避難者受入れ円滑化にむけて—大阪・兵庫の犬や猫を飼育しない住民への調査結果から」、 壽崎かすみ 「地域安全学会論文集」No.43, pp.265-274 〈所属学会〉日本建築学会、日本都市計画学会、日本生活学会、都市住宅学会、日本地域学会、Regional Science Association International、こども環境学会、福祉のまちづくり学会 他
一言コメント	大学時代は好きなことが好きなだけ勉強できる時間です。身につけたことは一生の財産です。卒業までに自分の財産をどれだけ増やせるか、挑戦してください。大学にはいるとき、獣医になろうかと迷いました。毎日、ネコに遊んでもらってエネルギーをもらい、すごしてます。趣味は子どもの影響ではじめたバイオリン演奏。退職するまでにそれなりに弾けるようになりたいのですが
E-mail	susaki@world.ryukoku.ac.jp

履修の心得

教育課程

諸課

程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付

録



鈴木 滋
SUZUKI, Shigeru

職名	教授
学歴・学位	京都大学大学院理学研究科研究指導認定退学博士（理学）〔京都大学〕
専門分野	人類学／霊長類学
研究テーマ	アフリカ大型類人猿ゴリラとチンパンジーの種間関係の生態学的研究・野生ニホンザルの社会学的研究・進化論の比較文化研究・野生動物保護
研究キーワード	人類進化論／霊長類／社会構造／文化／アフリカ／屋久島／熱帯林／環境保全
主な研究活動等	《論文・著書》「現代進化論と宗教」『多文化時代の宗教論入門』（ミネルヴァ書房2017）、「ヒトによる「共生」は可能かー生物学との関係を探るー」『「多文化共生」を問い直すーグローバル化時代の可能性と限界ー』（日本経済評論社2014）、「同所的に生息するゴリラとチンパンジーの種間関係を探る」（生物科学2013）、「十二支考のサルたち」（季刊民族学2012）、「サルから見た里山」『里山学のすすめ』（昭和堂2007） 《所属学会》国際霊長類学会、日本霊長類学会、日本人類学会、進化人類学分科会（幹事）、日本アフリカ学会
一言コメント	屋久島でニホンザルの、アフリカでゴリラとチンパンジーのフィールドワークをしてきました。熱帯林や野生動物の保全など、ヒトと自然の関係についても注目しています。
E-mail	suzuki@world.ryukoku.ac.jp



嵩 満也
DAKE, Mitsuya

職名	教授
学歴・学位	龍谷大学文学研究科博士後期課程単位取得文学修士
専門分野	親鸞思想
研究分野	人文学／哲学／宗教学
研究テーマ	親鸞の思想形成と本覚思想／仏教と環境思想／浄土真宗の海外開教
研究キーワード	親鸞思想／本覚思想／環境思想／海外開教
主な研究活動等	『国際社会と日本仏教』（編著・丸善出版）、『親鸞読み解き事典』（共編著・柏書房）、『仏教生命観の流れ』（共編著・法蔵館）、『変貌と伝統の現代インド』（編著・法蔵館）、「親鸞における〈浄土真実〉と〈浄土方便〉の構想」（『真宗学』107・108合併号）など （所属学会）真宗学会（学会長）、国際真宗学会（学会長）、日本宗教学会、日本宗教倫理学会、日本印度学・仏教学会、日本国際文化学会
一言コメント	世の中には大きすぎて見えないものだけでなく、身近すぎて見えないものがある。だから、対象だけでなく、自己についても距離を置いて考える習慣は大切である。最近、学生時代に聞いた「億劫相別れて而も須臾も離れず、尽日相對して而も刹那も對せず」という大燈国師の言葉が、身に滲みて考え合わせられる。
E-mail	dake@world.ryukoku.ac.jp

塚本 瑞香
TSUKAMOTO, Mizuka

職名	講師
学歴・学位	Ed.D. (Higher Education)
専門分野	外国語教育 (英語)
研究テーマ	Professional experiences of instructors in higher education
研究キーワード	Professional development, teacher research, learner autonomy, TEFL/TESOL, Qualitative research
主な研究活動等	My main research interest concerns the professional experiences of university instructors. Initially, my focus was on English language instructors, but my current research has now expanded more broadly to consider teachers of various languages at the tertiary level in Japan, as well as instructors of EMI courses.
一言コメント	New challenge, new horizons.
E-mail	



デブナール ミロシュ
DEBNÁR Miloš

職名	准教授
学歴・学位	京都大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程博士 (文学)
専門分野	社会学、日本社会論
研究分野	国際移動、エスニシティと人種、日本社会
研究キーワード	グローバル化、在日ヨーロッパ人、ホワイトネス、レイシズム
主な研究活動等	“Migration, whiteness, and cosmopolitanism: Europeans in Japan” (2016, Palgrave)、「グローバル化時代の移民現象における動機の多様化・複雑化・偶発化—在日ヨーロッパ人移住者の経験から」(『同志社社会学研究』第19巻)、「グローバル・シティと賃金の不平等—産業・職業・地域」(安井・太郎丸との共著、『社会学評論』第64巻2号)

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
引生活
きのQ
&
A教
員付
録

友永 雄吾
TOMONAGA, Yugo

職名	准教授
学歴・学位	総合研究大学院大学文化科学研究科地域文化学専攻 修了（国立民族学博物館） 博士（文学）
専門分野	文化人類学（含民族学・民俗学）
研究分野	社会・文化人類学、オーストラリア研究
主な研究活動等	<p>〈書籍〉 「第7章 オーストラリア：法は先住民族の権利と国の利益をどのように両立できるか」『考えてみよう：先住民族と法』信山社、2022年（共著） 「国際人権・国際社会とオーストラリア先住民族」『オーストラリア多文化社会論：移民・難民・先住民族との共生をめざして』法律文化社、2020年（共著） 『スタディツアーの理論と実践』明石書店、2019年（単著） 『オーストラリア先住民の土地権と環境管理』明石書店、2013年（単著）</p> <p>〈論文〉 Yugo Tomonaga (2024) “Dispute over the Recognition of Indigenous Peoples in the Lawsuit Calling for the Return of the Ryukyuan Remains” International Journal of Human Rights 友永 雄吾 (2021) 「オーストラリアにおける先住民族の遺骨・副葬品の返還と再埋葬」『オーストラリア研究』34号、2021年、pp.45-59 Yugo Tomonaga (2019) “Comparative Study on Environmental Management of Catchment and Forest as the Water Source in Australia and Japan” 国際社会文化研究所紀要21号pp.79-90</p> <p>〈訳書〉 ベフルーズ・ブチャーニー著『山だけが友』（仮題）明石書店、2024年（監修・監訳） ブルース・パスコウ著『ダーク・エミュー アボリジナル・オーストラリアの「真実」—先住民の土地管理と農耕の誕生』明石書店、2022年（単訳）</p>
一言コメント	文献上の知識、頭だけでなく身体全体で確かめ、観察し考えることで得る知識や経験、それを社会で実践し自己を省察する、そうした「実践知」を共に学びましょう。
E-mail	tomoU5@world.ryukoku.ac.jp



林 則仁
HAYASHI, Norihito

職名	准教授
学歴・学位	ロンドン大学SOAS、B.A.、M.A.修了 龍谷大学大学院国際文化学研究所博士課程修了 博士（国際文化学）
専門分野	美術史／建築史・装飾デザイン
主な研究活動等	『中東・オリエント文化事典』（項目執筆）丸善出版 2020年、『この世のキワ〈自然〉の内と外』（共著）勉誠出版 2019年、「Scientific or Narrative? The Tradition of Illustration of the al-Qazwini's Ajaib al-Makhlukat in the late 15th Century Persian Manuscripts」(Advanced Science Letters, 23・2017) 『『驚異』の文化史 中東とヨーロッパを中心に』（共著・名古屋大学出版会・2015) 『アジアの芸術史・造形篇II』（共著・幻冬舎・2013)、「ペルシアの細密画にみる創造物の不思議」『民族芸術』（28・2012)、「The Turkman Commercial Style of Painting : Origins & Development Reconsidered」(ORIENT・2012)
一言コメント	国内外の庭園を散策してまわることが好きです。最近はその写真を残すべく、カメラのテクニックを修得中。
E-mail	hayashi@world.ryukoku.ac.jp



早島 慧
HAYASHIMA, Satoshi

職名	准教授
学歴・学位	龍谷大学大学院文学研究科博士課程修了 博士（文学部）〔龍谷大学〕
専門分野	インド仏教学
研究分野	人文学／哲学／印度哲学・仏教学
研究テーマ	インド唯識思想／中観思想
主な研究活動等	『『大乘莊嚴經論』第XVII章の和訳と注解-供養・師事・無量とくに悲無量-』（共著、自照社、2013年）、『戒律辞典を知るための小辞典』（共著、永田文昌堂、2014年）、『『大乘莊嚴經論』第II章の和訳と注解-大乘への帰依-』（共著、法蔵館、2020年）、「『唯識三十論』における二種の転依」（『印度学仏教学研究』、2010年）、"A Study of the Concept of the Absolute Truth (<i>Paramārtha</i>) from the Perspective of the Analysis of the Compound"（『佛教学研究』、2017年）、「『大乘莊嚴經論』安慧釈の撰述問題—“rgya gar skad du”という表現に注目して—」（『印度学仏教学研究』、2021年）など。

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教

員

付

録

朴 炫国
PARK, Hyunkuk

職名	教授
学歴・学位	円光大学校師範大学国語教育科（学士） 忠南大学校大学院国語国文学科（修士） 中央大学校大学院国語国文学科（博士）
専門分野	韓国文学／民俗学
研究分野	人文学／文学／各国文学／韓国語教育
研究テーマ	韓国文学特に韓国口伝文学 民俗文化特に伝統的な村の祭りを含めて伝統文化
研究キーワード	韓国文学／口伝文学／民俗学／韓国語教育
主な研究活動等	「韓国 伝説話集21集 井邑山外面編」（民族苑・2012）、「近江八幡の左義長祭りについて」、『比較民俗学』（第33輯・2007）、『韓国語発音と演習』（白帝社・2004）、『銅雀区の民俗文学』（民俗苑・1997）、『韓国空間説話研究』（国学資料院・1995）等。 朝鮮学会、民俗学会、比較民俗学会、ハングル学会等の会員や理事
一言コメント	いつも新しい所や新しいことを捜して創造的な靈感を得ようと思います。
E-mail	paku@world.ryukoku.ac.jp



久松 英二
HISAMATSU, Eiji

職名	教授
学歴・学位	ウィーン大学大学院神学専攻博士課程修了・神学博士
専門分野	宗教学
研究分野	人文学／哲学／宗教学
研究テーマ	諸宗教（とりわけキリスト教）／仏教／イスラーム教の 神秘思想の比較研究
研究キーワード	比較宗教／神秘思想
主な研究活動等	（著書）『Gregorios Sinaites als Lehrer des Gebetes』、 『祈りの身心技法』（京都大学学術出版会・キリスト 教史学会学術奨励賞）、『ギリシア正教—東方の智』 （講談社選書メチエ522）講談社、2012年（単著） 『多文化時代の宗教論入門』ミネルヴァ書房、2017 年（共編） 『古代ギリシア教父の霊性 東方キリスト教修道制と 神秘思想の成立』教文館、2018年（単著） 『1冊でわかるキリスト教史—古代から現代まで』日 本キリスト教団出版局、2018（共著）
一言コメント	キリスト教を専門とする私が本学で宗教を教え、研 究することに大きな喜びと誇りを感じています。 諸宗教間の対話促進を目標に、教育・研究に励みたい と思っています
E-mail	hisamatsu@world.ryukoku.ac.jp



ファーマノフスキー マイケル
FURMANOVSKY, Michael

職名	教授
学歴・学位	UCLA M.A (U.S History) 1980 C. Phil (U.S History) 1982
専門分野	Popular Culture / American History / EFL
研究分野	総合領域
研究テーマ	Popular Music History, Japanese Popular Culture, Contemporary American History, Content Teaching in EFL, Movies and Documentaries as Content
研究キーワード	Popular Culture / African-American History / EFL in Vietnam / Fandom Studies
主な研究活動等	Pre and Post-War Japanese Fashion (2016)、 「American Country Music in Post-War Japan」 (2006)、「Street Children in Vietnam」(2009)、 「Outselling the Beatles」(2010)、Janizu (2020) .
一言コメント	No popular culture, no life
E-mail	michael@world.ryukoku.ac.jp
URL	www.researchgate.net/profile/Michael_Furm



二葉 晃文
FUTABA, Terufumi

職名	教授
学歴・学位	Ph.D. in Educational Linguistics University of Pennsylvania
専門分野	Educational Linguistics
主な担当科目	言語とところ入門 / 言語とところA / 言語とところB
研究テーマ	教育言語学
研究キーワード	第二言語習得、会話分析、言語人類学、 ことばの民族誌
主な研究活動等	“The effect of zazen fasting on participants’ psychophysiological condition: nonlinear chaos analysis of fingertip pulse wave” IN M.BASIC & CLINICAL PHARMACOLOGY & TOXICOLOGY (2018) 共著 “Smartphone-based Device for Checking Mental Status in Real Time” In Proceedings of the 9th International Joint Conference on Biomedical Engineering Systems and Technologies - Volume 4: BIOSIGNALS, (2016) 共著
一言コメント	命こそ宝
E-mail	futaba@world.ryukoku.ac.jp

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
引修
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録



古川 秀夫
FURUKAWA, Hideo

職名	教授
学歴・学位	大阪大学人間科学研究科博士課程後期単位取得退学 学術修士
専門分野	社会心理学／社会学／心理学
研究分野	社会科学／社会学
研究テーマ	サービスマーケティングの心理・社会的影響
研究キーワード	サービス・ラーニング／ボランティア／インターン シップ／NPO、NGO／ゆとり／観光／働きがい
主な研究活動等	『現代日本のボランティア像（龍谷大学社会文化研究所 叢書1）』（思文閣出版・2002）、「学生ボランティアに関 する日英比較」（『龍谷大学国際社会文化研究所紀要』 第8号・2006）、「中国の学生ボランティア」（『龍谷大学 国際社会文化研究所紀要』第9号・2007） 日本社会心理学会 日本社会学会 日本心理学会所属
一言コメント	教育・研究いずれも「遊び」の要素が大切です。単 位や業績の手段でなく、それ自体を楽しみたいです。 学会出張旅行やゼミ旅行も重要な「遊び」を構成し ます。
E-mail	furukawa@world.ryukoku.ac.jp



松居 竜五
MATSUI, Ryugo

職名	教授
学歴・学位	東京大学大学院総合文化研究科比較文学比較文化専 攻中退 博士（学術）
専門分野	比較文学、比較文化
研究分野	人文学 文学 日本文学
研究テーマ	日本文化の比較文化的研究（特に南方熊楠の総合的 研究）／日本民俗学史の研究／マンガの影響力を中 心とするサブカルチャー研究
研究キーワード	比較文学／比較文化／民俗学／南方熊楠／生態学／ マンガ／サブカルチャー
主な研究活動等	著書に『南方熊楠、一切智の夢』（1991）、『達人た ちの大英博物館』（共著・1996）、『クマグスの森』 （2007）、『南方熊楠、複眼の学問構想』（2016）な どがある。小泉八雲奨励賞受賞（1992）、角川財団 学芸賞受賞（2017）。日本国際文化学会常任理事・ 学会誌編集委員。南方熊楠顕彰会理事・学術委員。
一言コメント	最近「研究」を離れて文学作品の古典を読むのが楽 しくてしかたありません。素直に読んで素直に楽し む。これに勝る贅沢はないように感じています。
E-mail	rmatsui@world.ryukoku.ac.jp



八幡 耕一
YAWATA, Koichi

職名	教授
学歴・学位	北海道大学大学院国際広報メディア研究科博士後期課程修了 博士（国際広報メディア）
専門分野	社会学
研究分野	社会情報学、文化の社会学
研究テーマ	メディア研究／情報文化論／ジャーナリズム論
主な研究活動等	主たる著書に『台湾メディアと日本：「日本へのまなざし」はどのように生み出されているのか』（共編著、晃洋書房、2020年）。 最近発表した論文として『メディア・アジェンダとしての「多文化共生」の変遷：毎日新聞における記事数の分析から』（多文化関係学、Vol.17、pp.3-17）など。 所属学会：多文化関係学会、日本メディア学会、日本マレーシア学会など。
一言コメント	藻谷浩介さんが『デフレの正体』という本で書いている、「生きる力」（＝普通に生きて十分に稼いで楽しく家族と暮らしながら人とコミュニケーションし力づけ、社会にも貢献していく力）を追求すべく毎日を過ごしています。
E-mail	yawata@world.ryukoku.ac.jp



劉 虹
LIU, Hong

職名	教授
学歴・学位	上海外国語大学対外漢語教学研究科博士後期課程現代言語学専攻修了 博士（文学）〔上海外国語大学〕
専門分野	言語学
研究分野	言語学、人文学
研究テーマ	会話分析／社会言語学
研究キーワード	discourse analysis, conversational analysis, social linguistics. 会話分析、社会言語学、日中文化、現代中国
主な研究活動等	『中国言語学』（北京語言文化大学出版社）、『会話結構分析』（北京大学出版社） The International Association of Chinese Linguistics 日本中国語学会 日本中国語教育学会
一言コメント	読書、音楽鑑賞と最も平凡なものを趣味としている。
E-mail	liu@world.ryukoku.ac.jp

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録

履修の心得

教育課程

諸課程

学修生活の手引き

Q & A

教員

付録

第7部 付録



深草学舎 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL 075-642-1111 (代表)

◆主な事務室連絡先

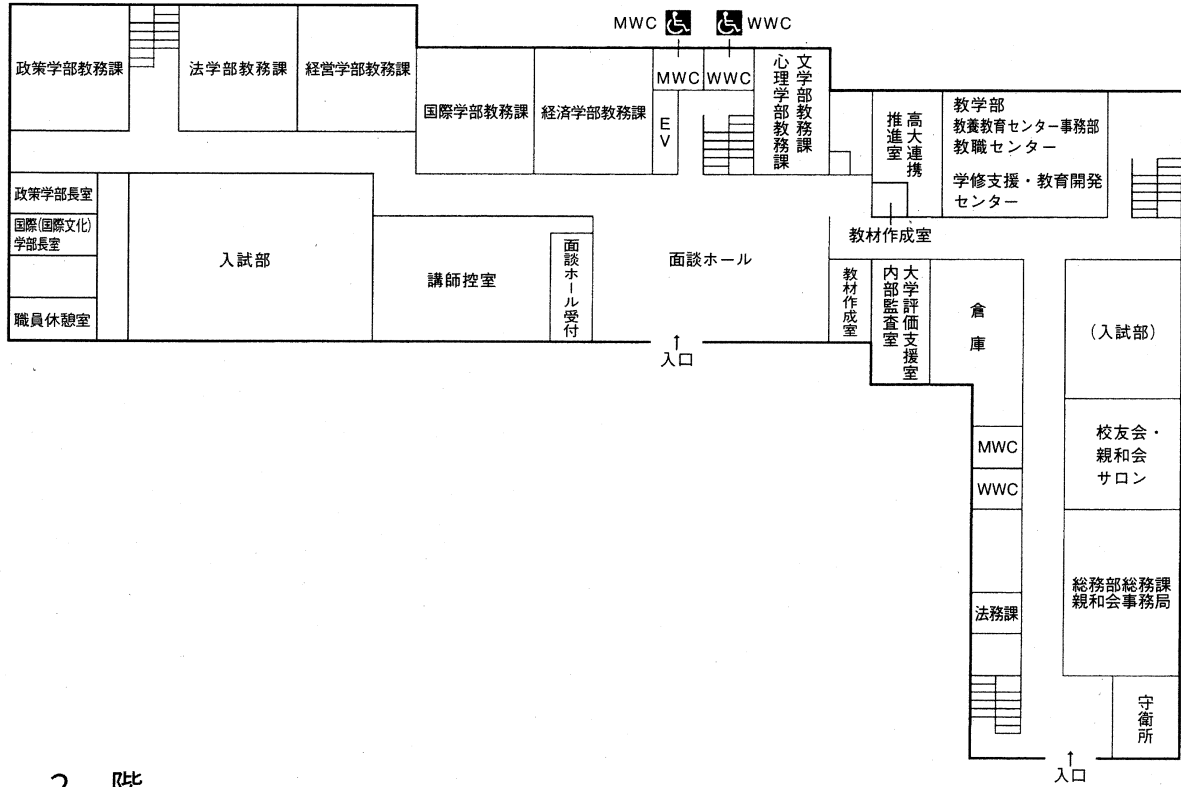
市外局番は「075」です。

部 署 名	事 例	ダイヤルイン	FAX
① 政策学部教務課	政策学部の科目に関する事	645-2285	645-2101
② 法学部教務課	法学部の科目に関する事	645-7896	643-9901
③ 経営学部教務課	経営学部の科目に関する事	645-7895	643-9901
④ 国際学部教務課	国際学部の科目に関する事	645-5645	645-6444
⑤ 経済学部教務課	経済学部の科目に関する事	645-7894	645-6444
⑥ 文学部教務課 心理学部教務課	文学部の科目に関する事 心理学部の科目に関する事	645-7893	645-5639
⑦ 短期大学部教務課 短期大学部実習指導室 短期大学部社会活動センター	短期大学部の科目・実習・社会活動に関する事	645-7897 645-7906	645-2825
⑧ 矯正・保護総合センター 事務部〔2階〕	矯正・保護の教育・研究・社会貢献活動に関する事	645-2040	645-2632
⑨ 教学部 教養教育センター事務部 教職センター(深草)	深草・大宮学舎の教養教育科目に関する事 教室に関する事 教職課程に関する事	645-7891	643-5021
⑩ 教材作成室	印刷が必要な教材作成に関する事	645-7891	643-5021
⑪ 研究部(深草)〔2階〕	各種研究支援に関する事	645-7922	645-2033
⑫ 総務部人事課〔2階〕	人事・給与に関する事	645-7874	645-8685
⑬ 講師控室(6号館)			
⑭ 講師控室(2号館)	大学からの通知・連絡		
⑮ 障がい学生支援室	障がい学生支援に関する事	645-5685	645-2825
⑯ 学修支援・教育開発センター グローバル教育 推進センター事務部	教育活動の支援に関する事 留学・国際交流に関する事	645-2163	645-2190
⑰ 図書館事務部(深草)	図書館利用に関する事	645-7885	645-8691
⑱ 宗教部	宗教教育・宗教行事に関する事	645-7880	645-7939
⑲ 学生部(深草) スポーツ・文化活動 強化センター	学生生活に関する事	645-7889	644-2988
⑳ 保健管理センター	診察、健康診断、健康相談に関する事	645-7879	643-9909
㉑ 情報メディアセンター 〔2階〕	情報実習室、メディア機器の利用に関する事 メディア教材作成に関する事	645-2108	645-2109
㉒ キャリアセンター	学生の就職支援及びキャリア開発に関する事	645-7878	645-5556
㉓ ボランティア・NPO 活動センター	教育研究活動とボランティア・NPO活動との連携に 関する事	645-2047	645-2064
㉔ REC事務部(京都) 〔2階〕	地域社会との交流、「産・官・学」連携による教育 ・研究活動の推進に関する事	645-7892	645-9222
㉕ 生活協同組合〔地下1階〕	購買(書籍・文具・チケット等)	642-0213	643-7774

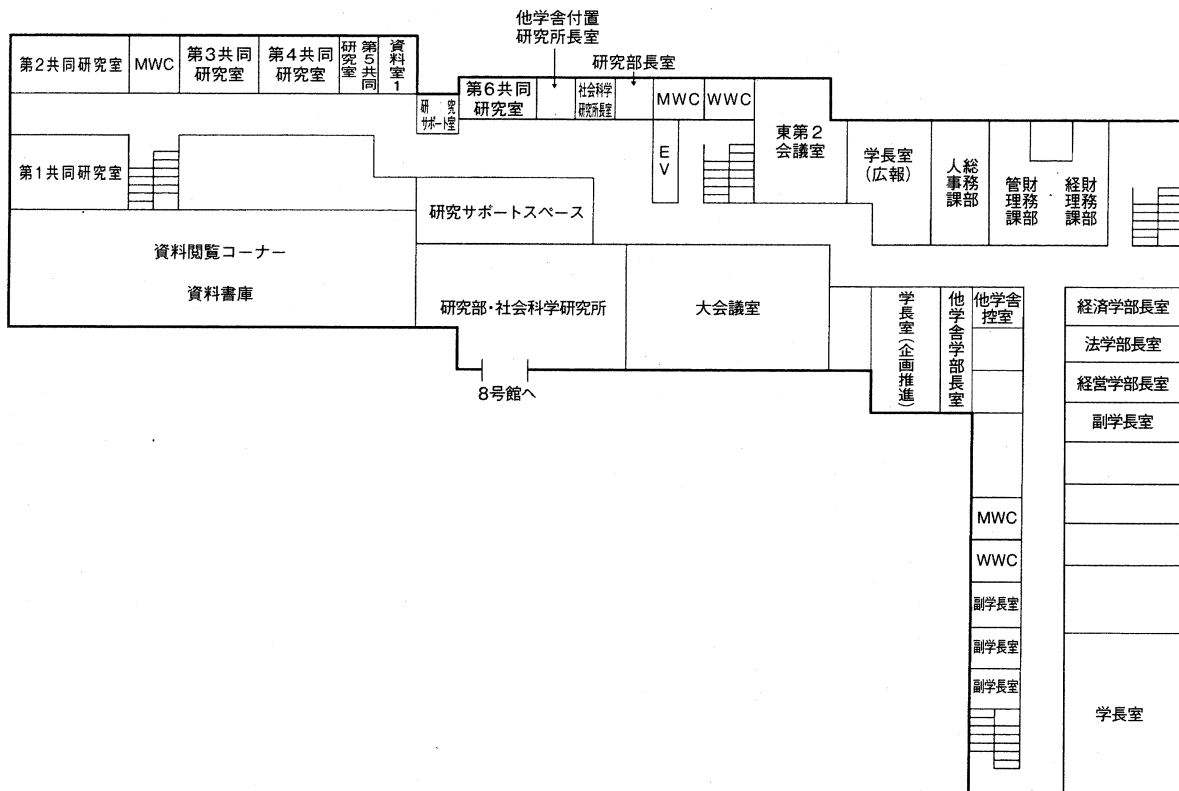


〈深草学舎〉 6 号 館 (紫英館)

1 階



2 階



履修の心得

教育課程

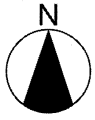
諸課程

学修生活の手引き

Q & A

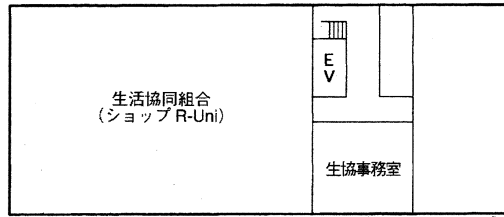
教員

付録

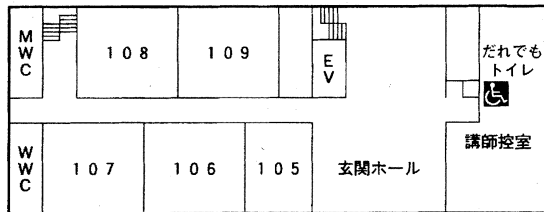


〈深草学舎〉 2 号 館

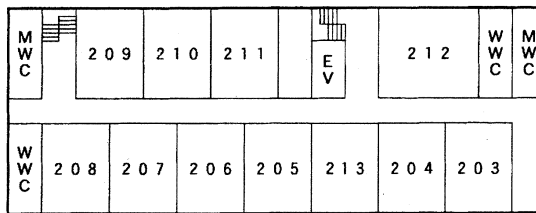
地下1階



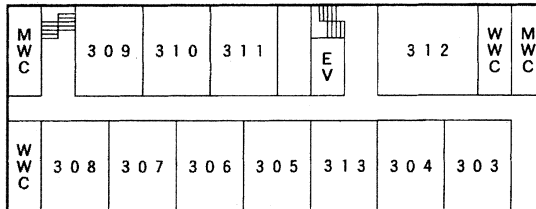
1 階



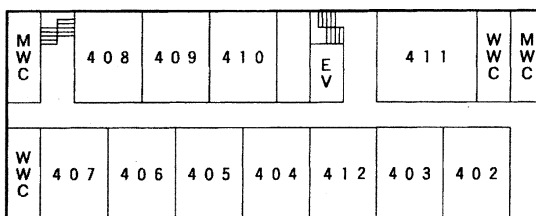
2 階



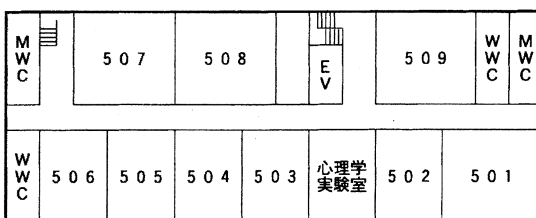
3 階



4 階



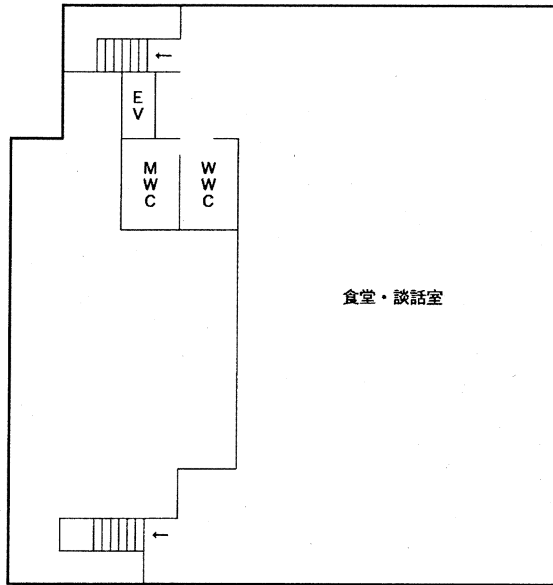
5 階



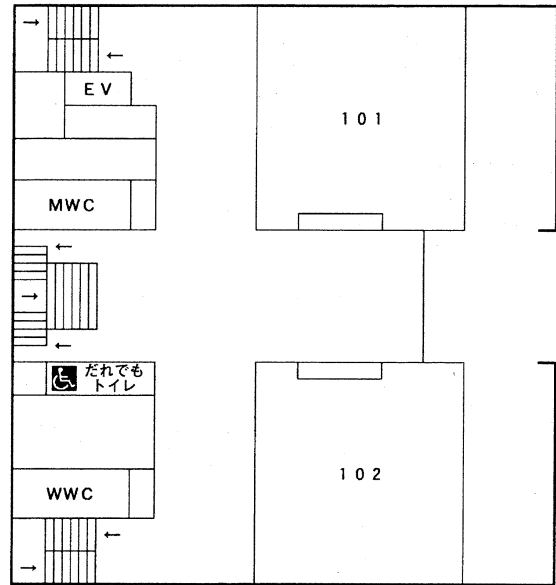


〈深草学舎〉 3 号 館

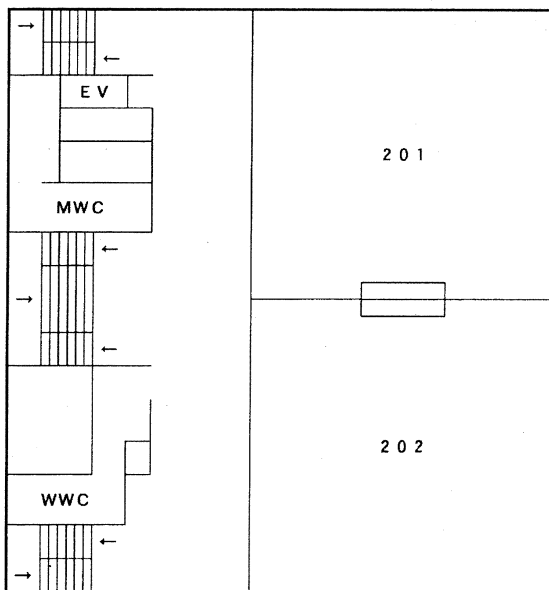
地下1階



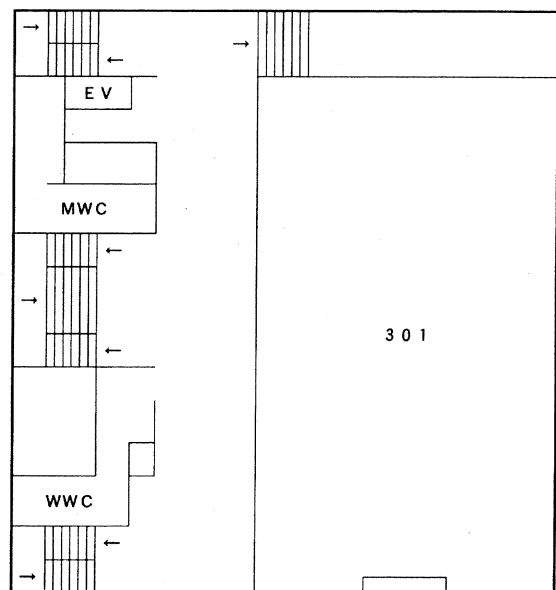
1 階



2 階



3 階



履修の心得

教育課程

諸課程

学修生活の手引き

Q

&

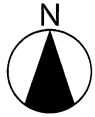
A

教

員

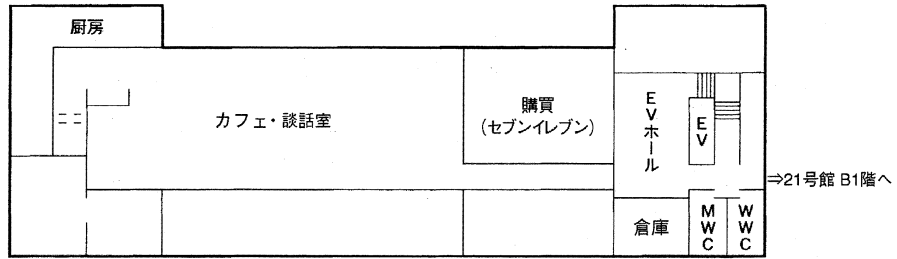
付

録

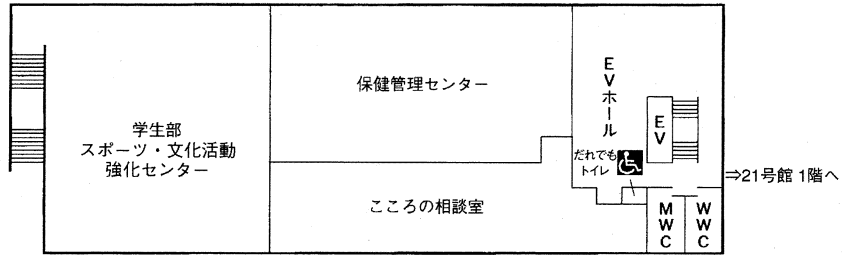


〈深草学舎〉 4 号 館

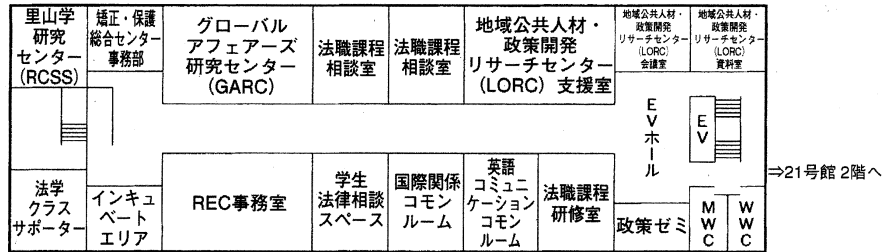
地下1階



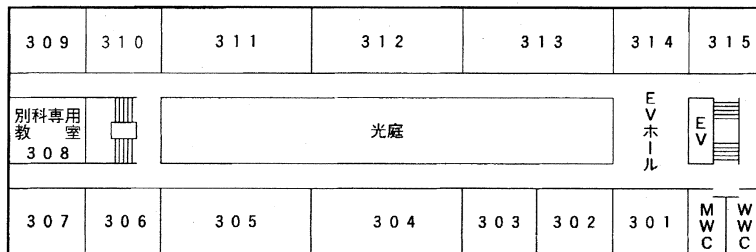
1 階



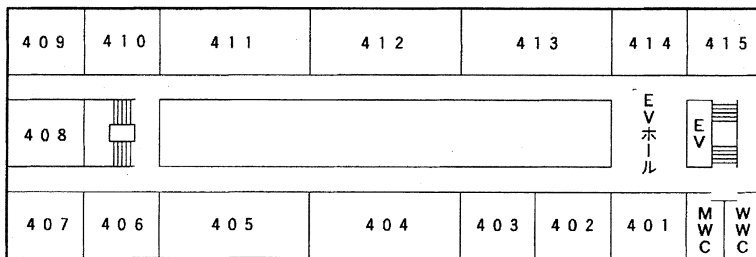
2 階



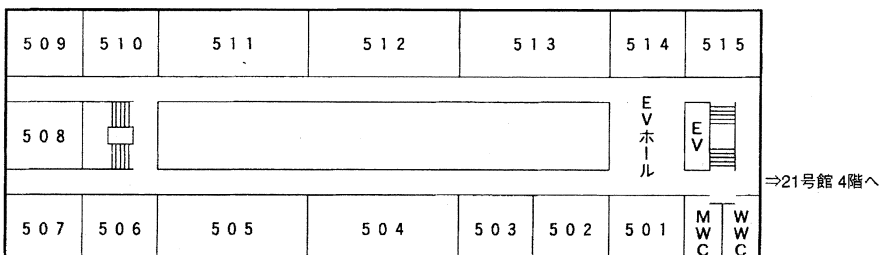
3 階



4 階



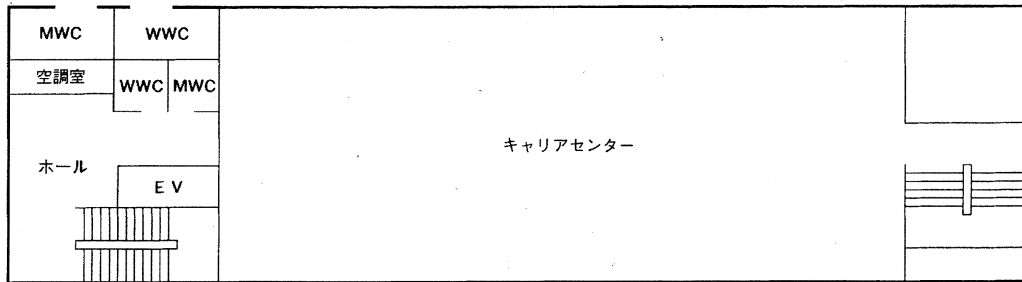
5 階



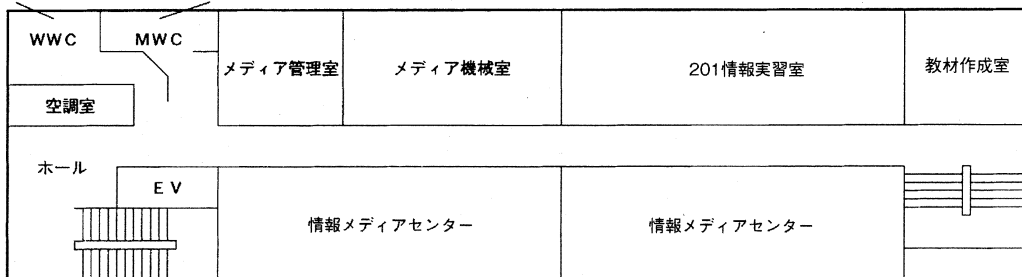


〈深草学舎〉 5 号 館 (紫明館)

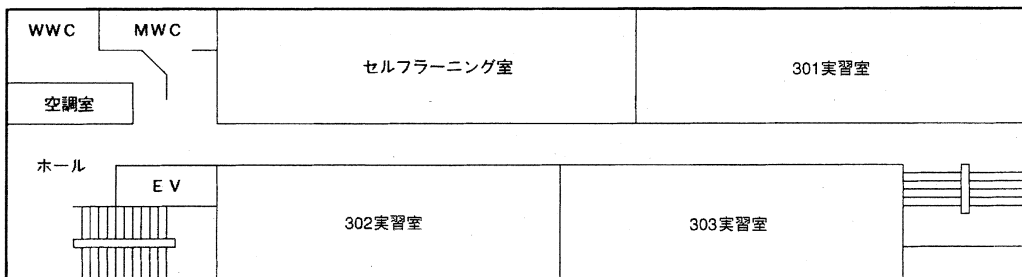
1 階



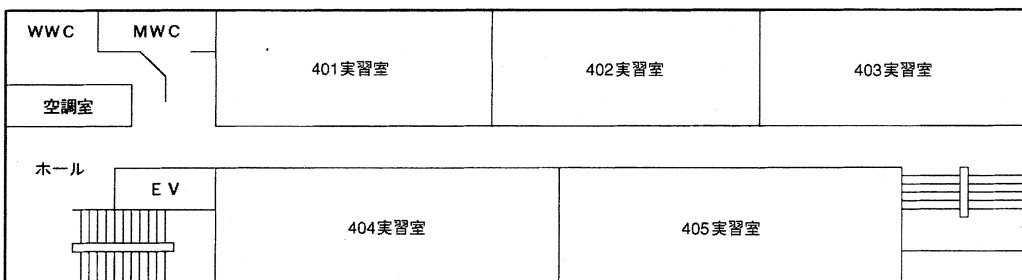
2 階



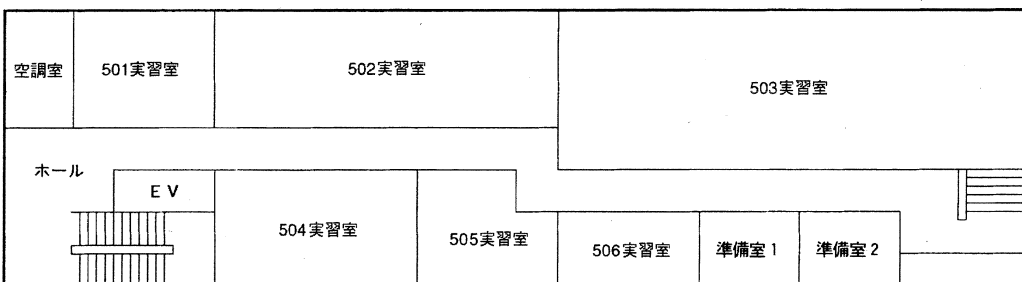
3 階



4 階



5 階



21号館 4階へ

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教

員

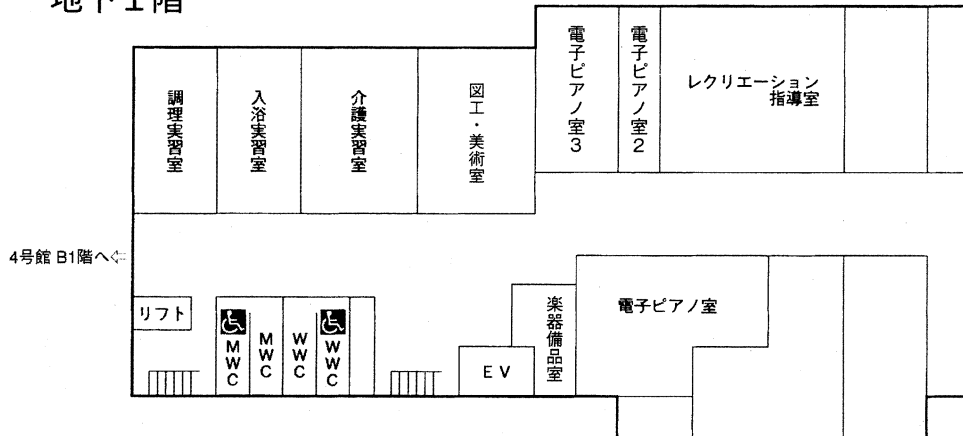
付

録

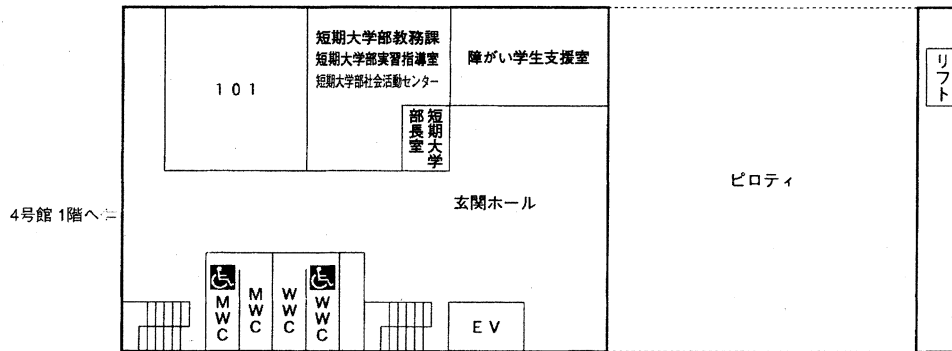


〈深草学舎〉 21 号 館

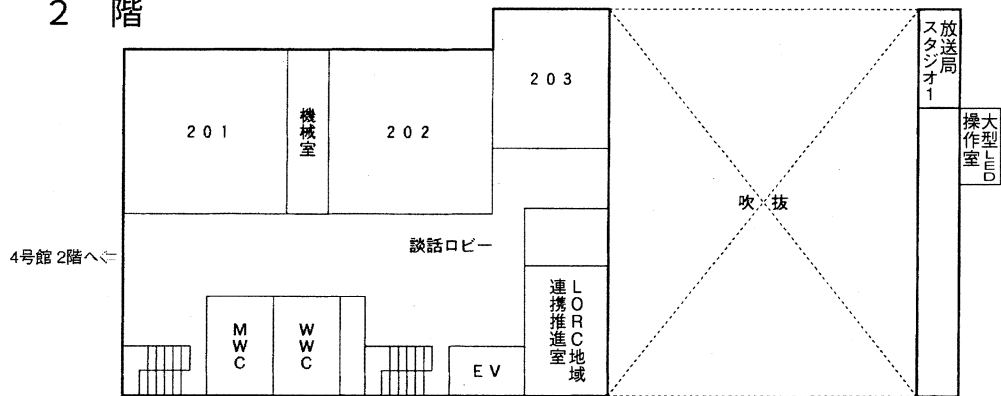
地下1階



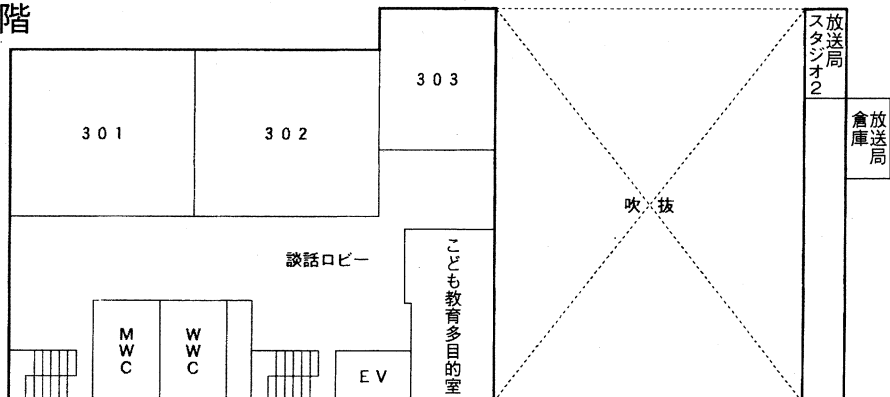
1 階

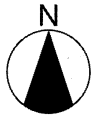


2 階

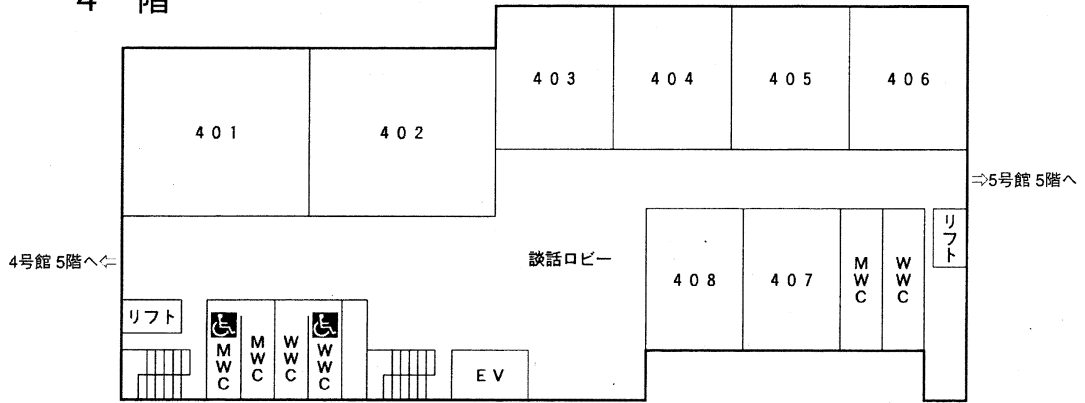


3 階

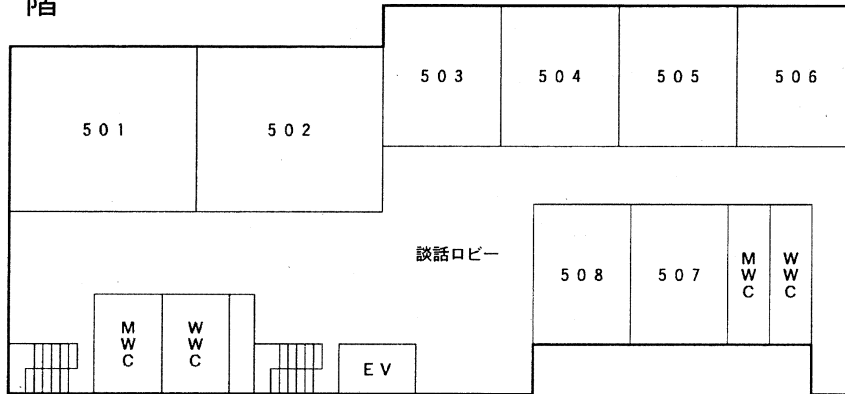




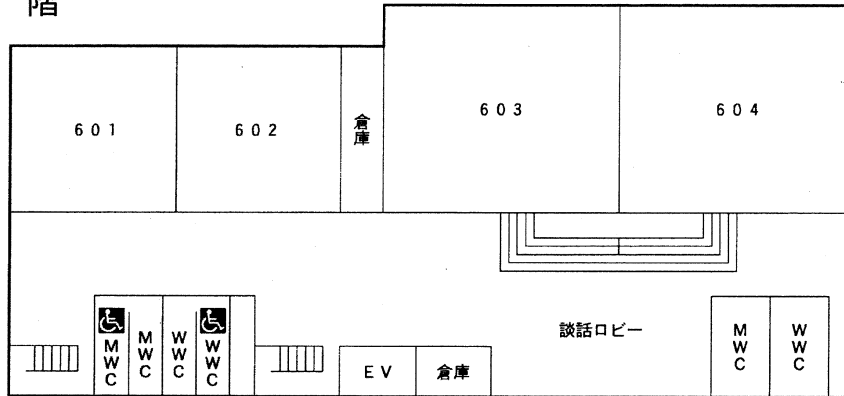
4 階



5 階



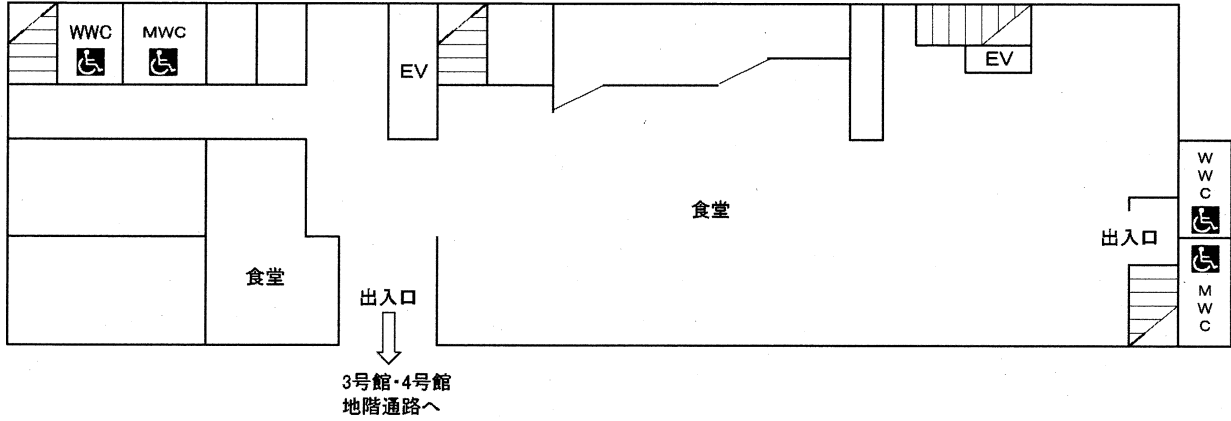
6 階



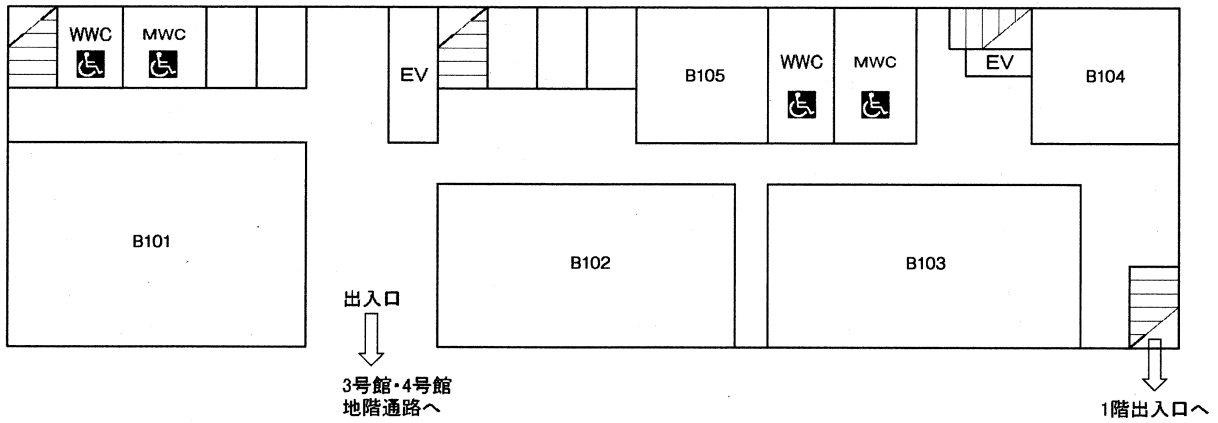


〈深草学舎〉 22 号 館

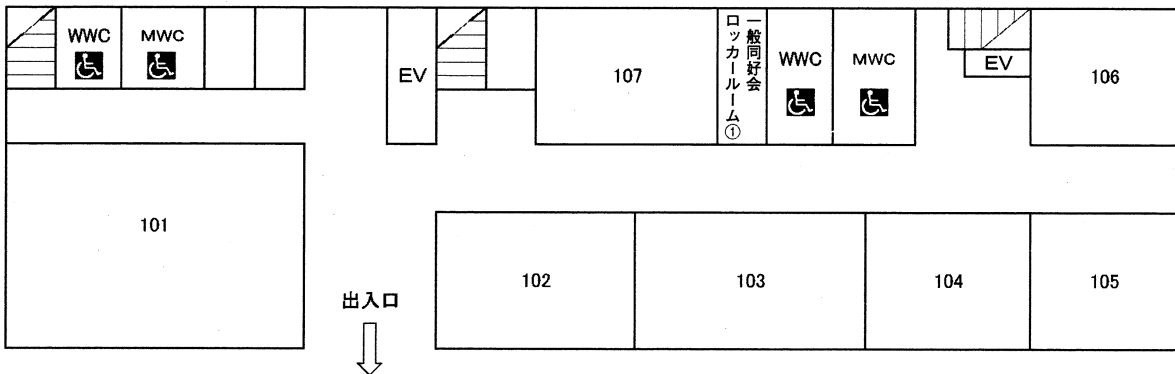
地下2階



地下1階



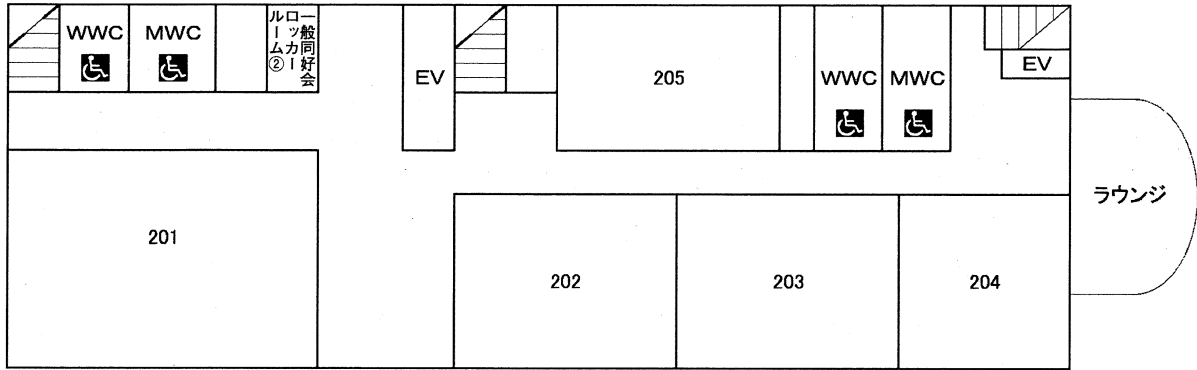
1 階



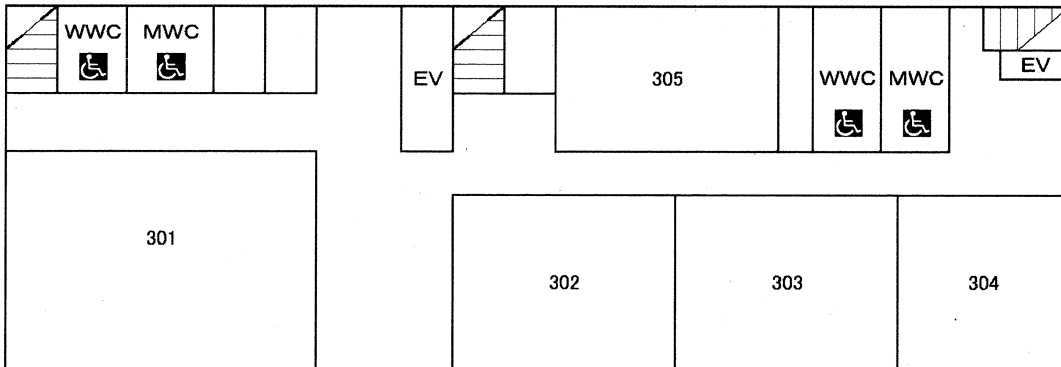
履修の心得
 教育課程
 諸課程
 学修生活の手引き
 Q & A
 教員付録



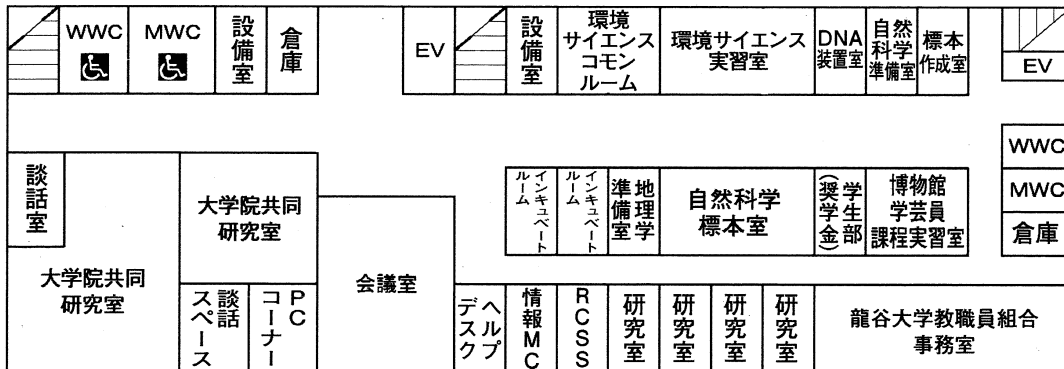
2 階



3 階



4 階



履修の心得

教育課程

諸課程

学修生活の手引き

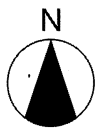
Q & A

教

員

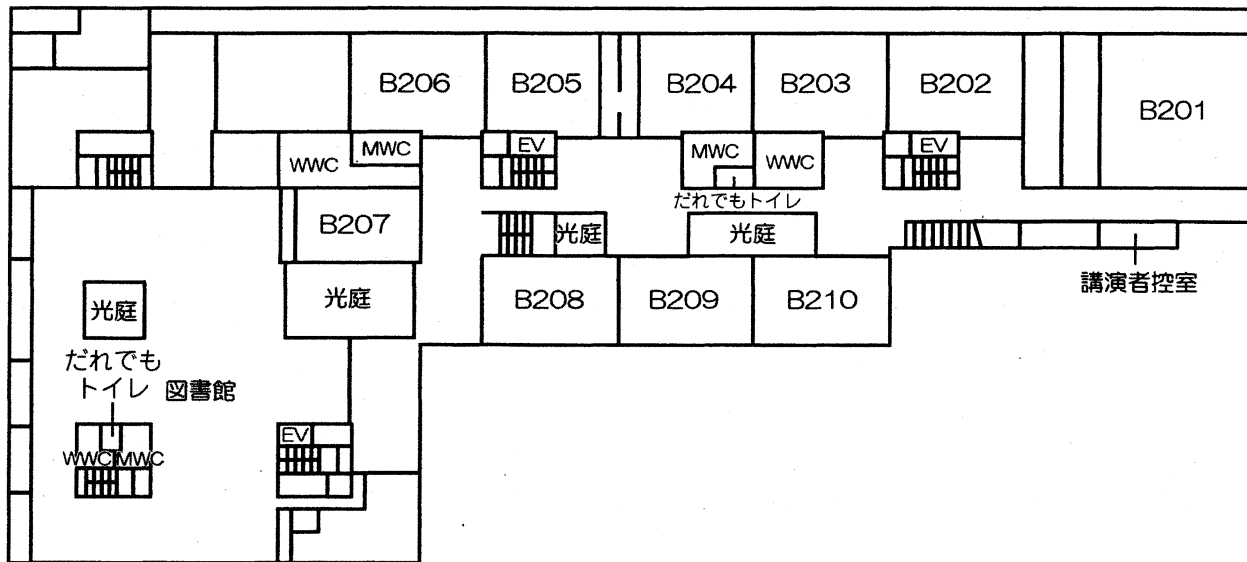
付

録

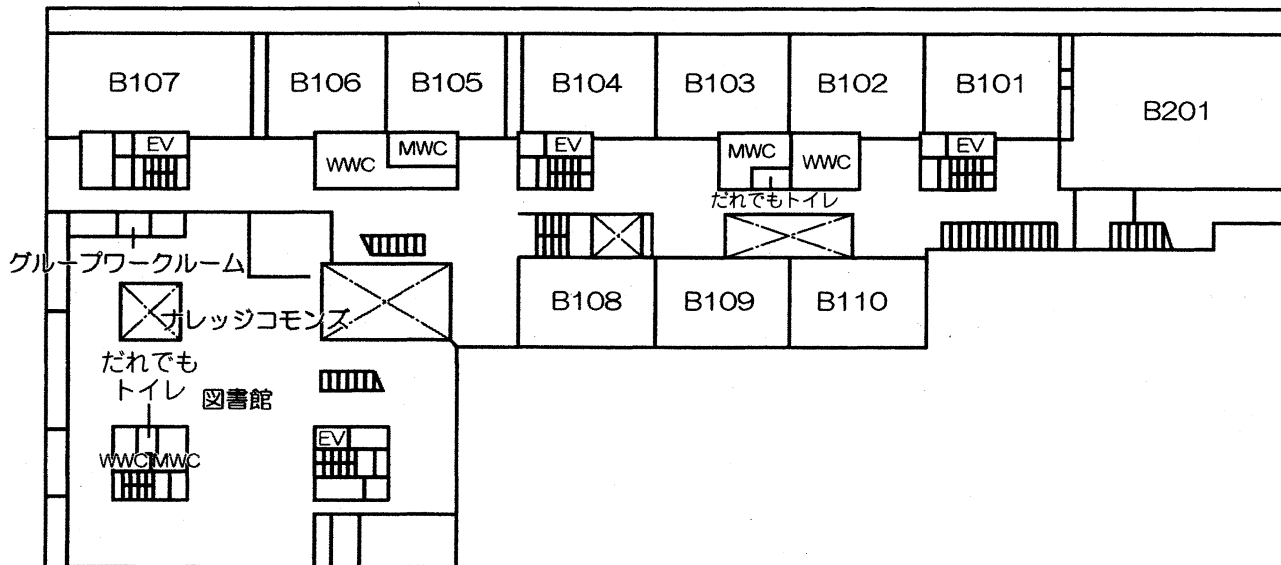


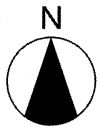
〈深草学舎〉 和 顔 館

地下2階



地下1階

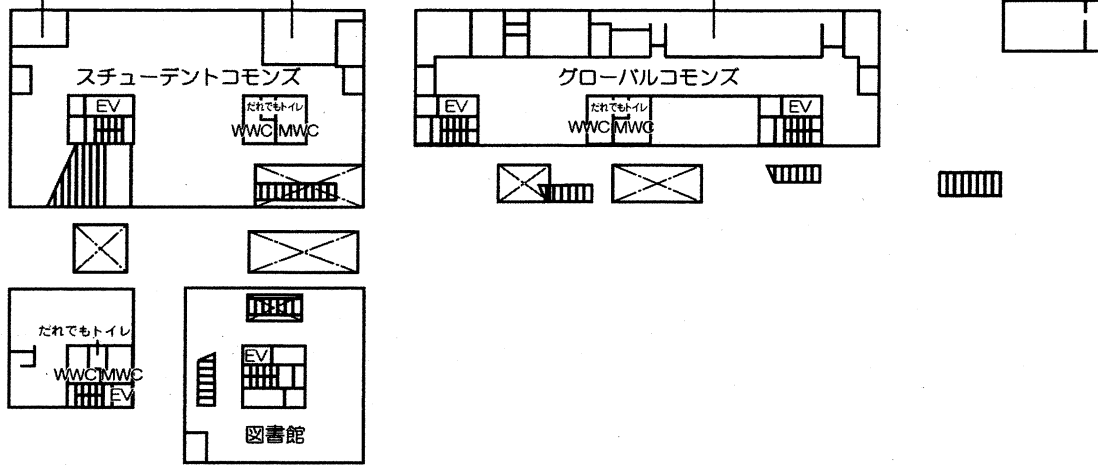




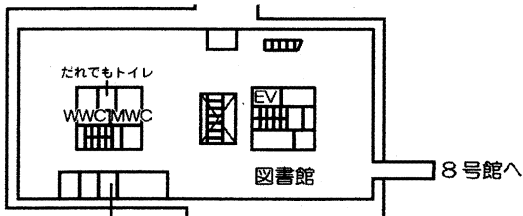
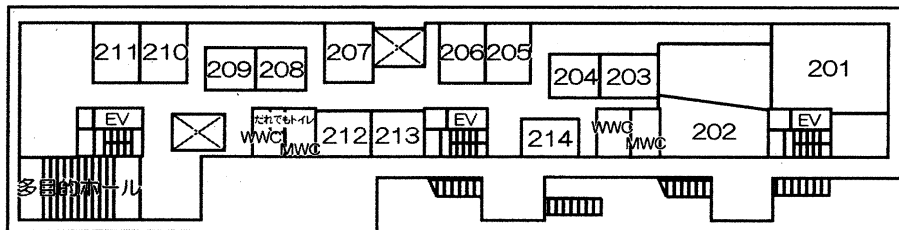
1 階

メディアスタジオ ラーニングサポートデスク

グローバル教育推進センター事務局
Center for the Promotion of Global Education Office
(R-Globe)

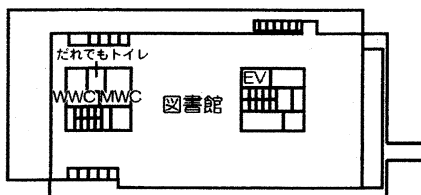
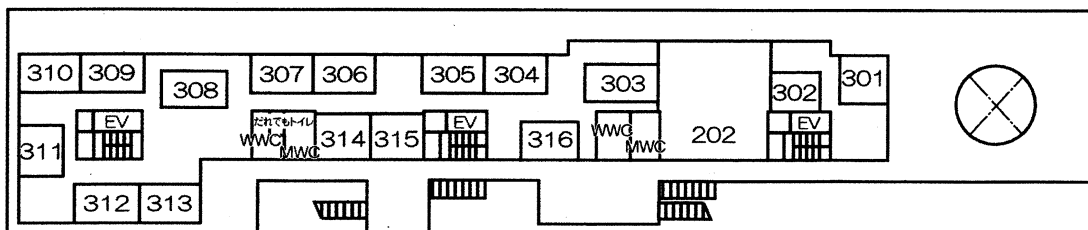


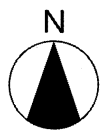
2 階



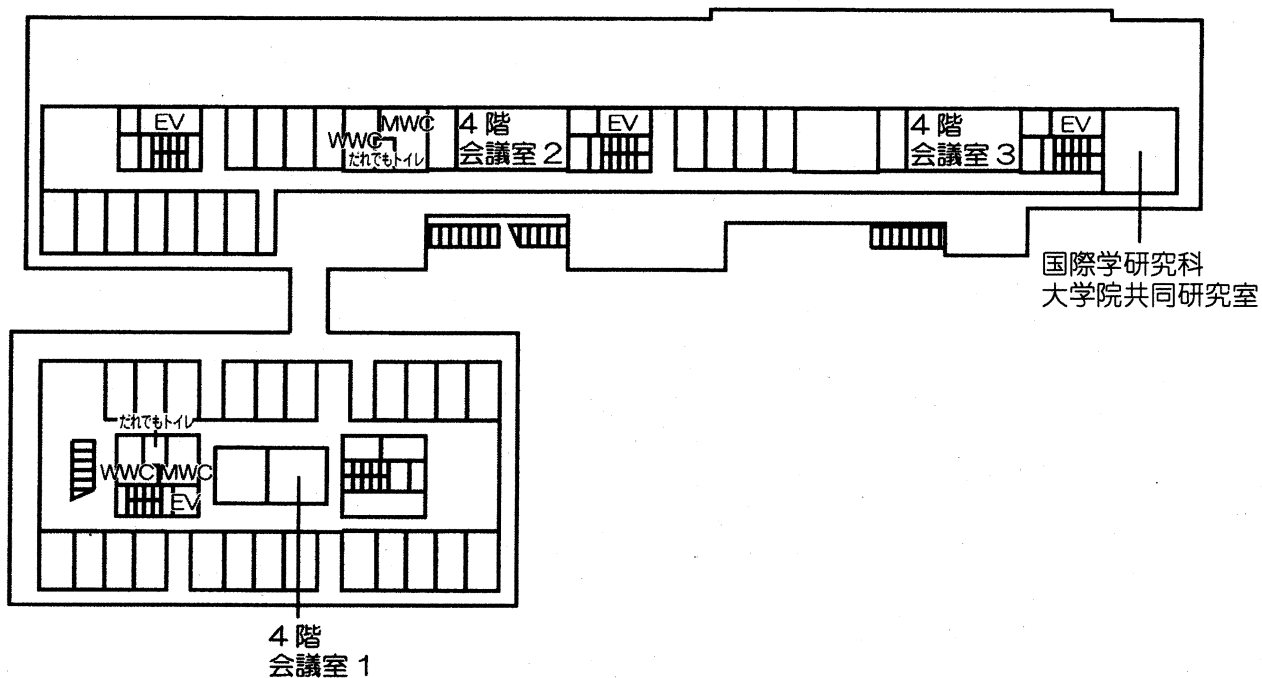
グループワークルーム(ナレッジコモンズ)

3 階

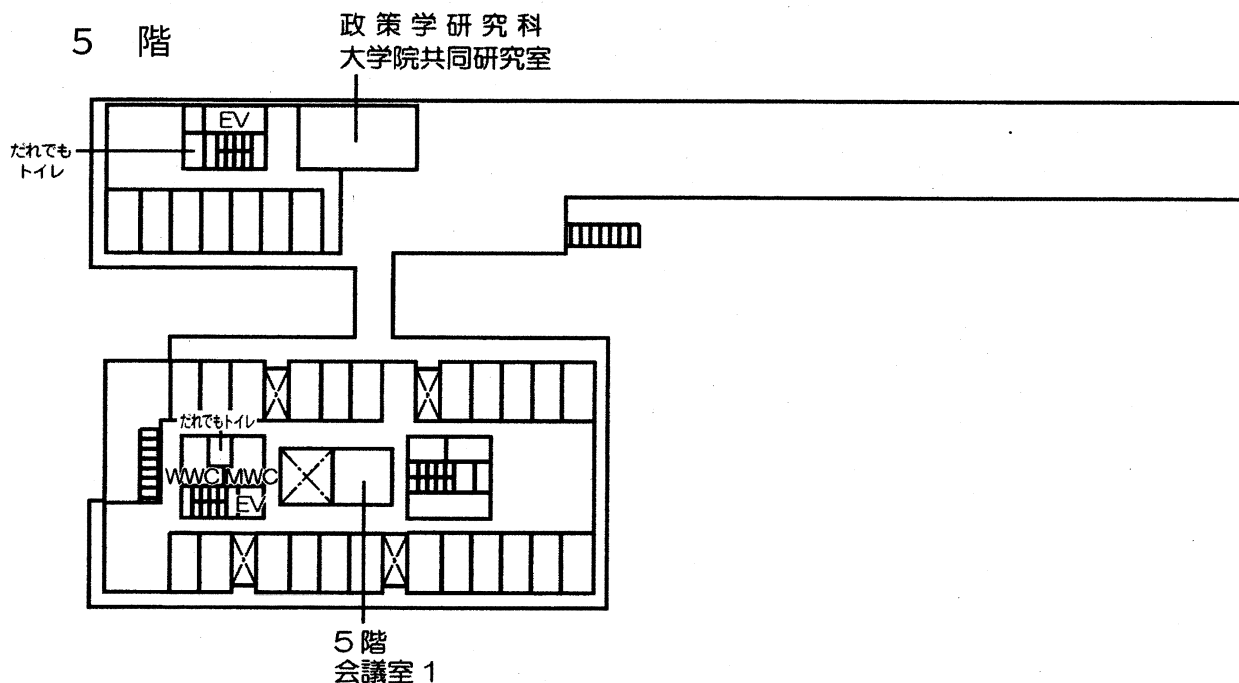




4 階



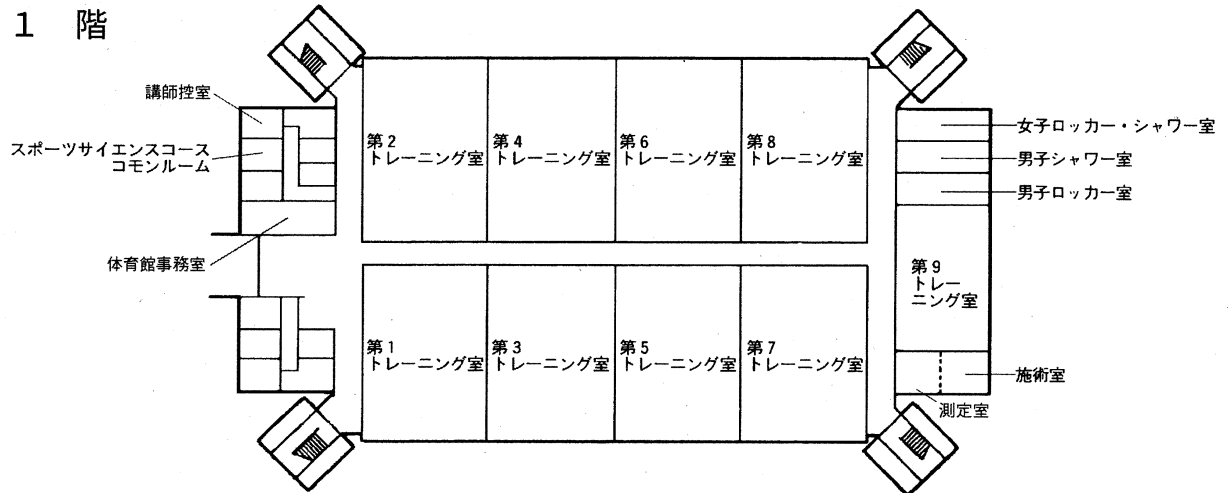
5 階



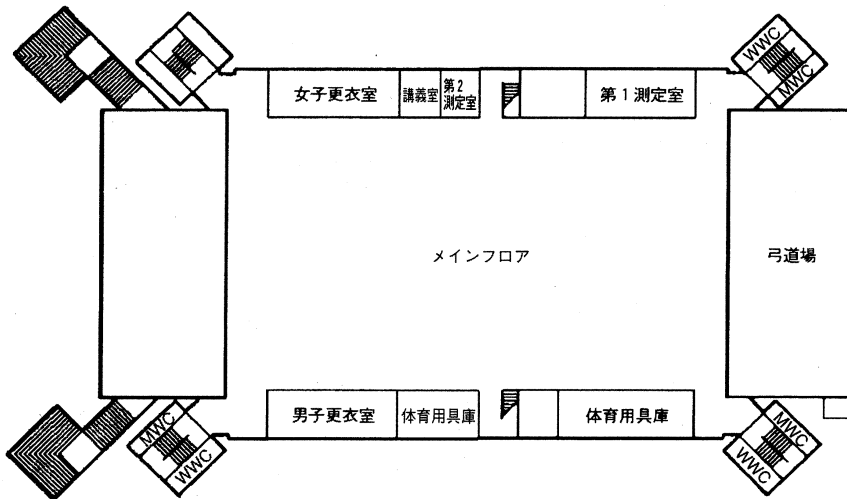


〈深草学舎〉 12号館 (体育館)

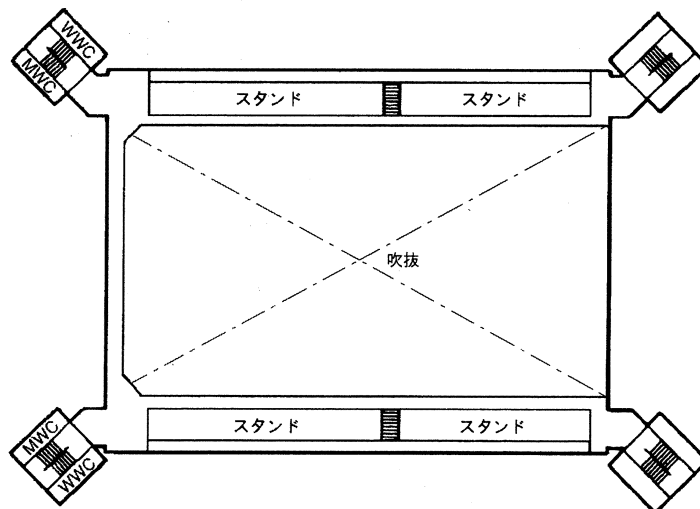
1 階



2 階



3 階



履修の心得

教育課程

諸課程

手学修
引生活
きの

Q
&
A

教

員

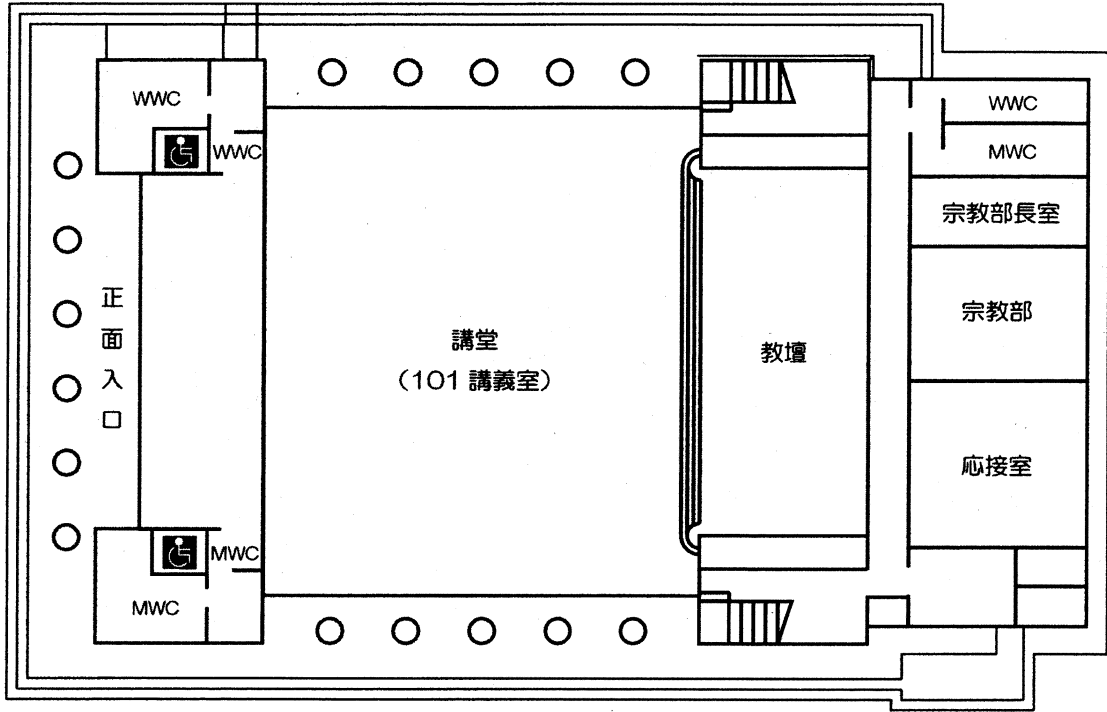
付

録

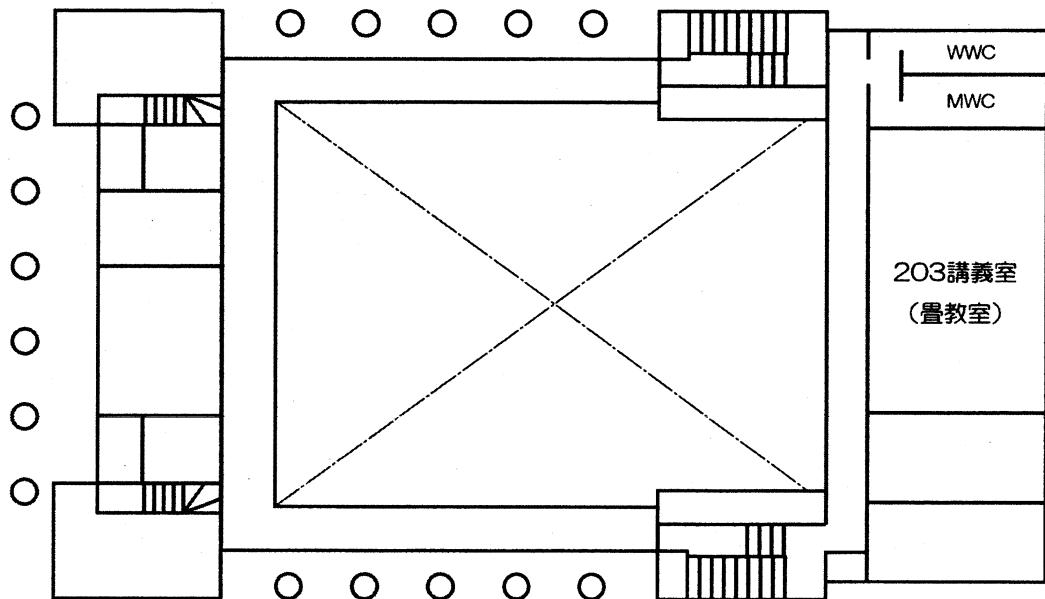


〈深草学舎〉 顕真館

1 階



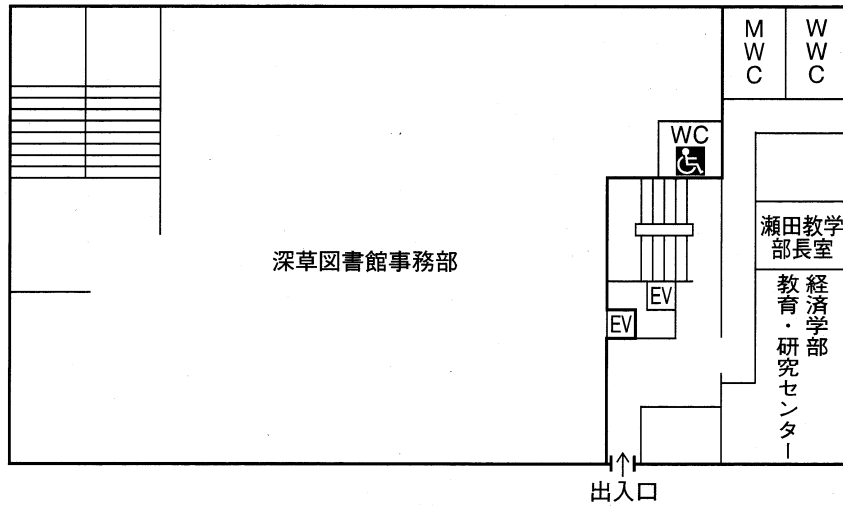
2 階



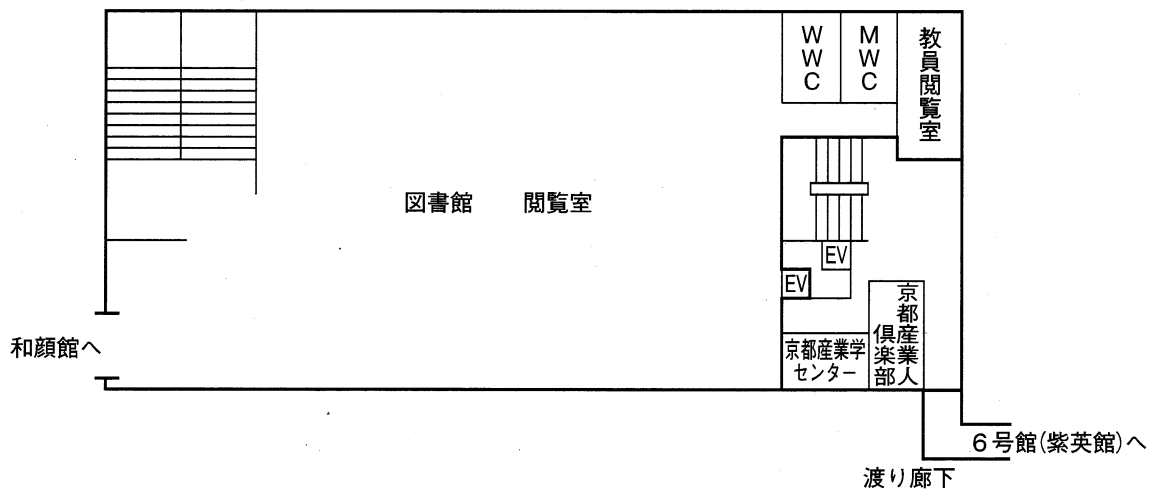


〈深草学舎〉 8 号 館

1 階



2 階



履修の心得

教育課程

諸課程

学生生活の手引き

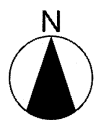
Q & A

教

員

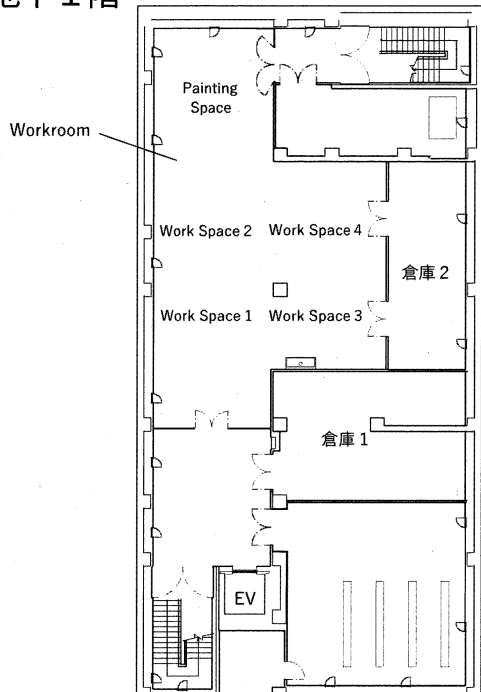
付

録

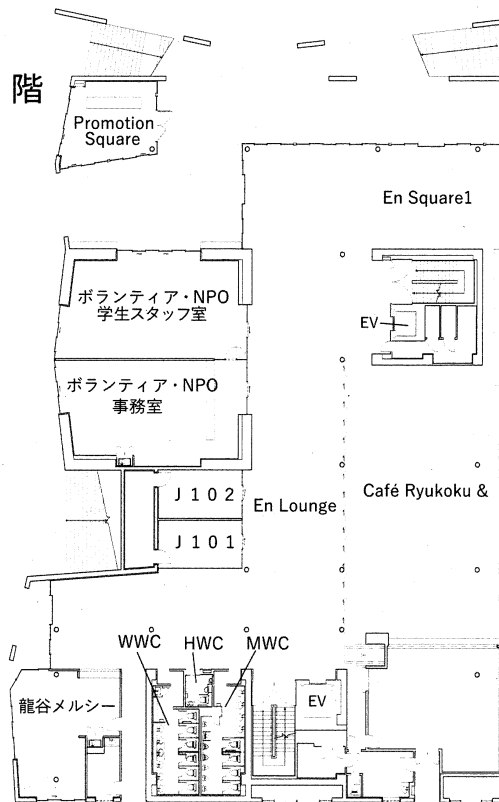


〈深草学舎〉 成就館

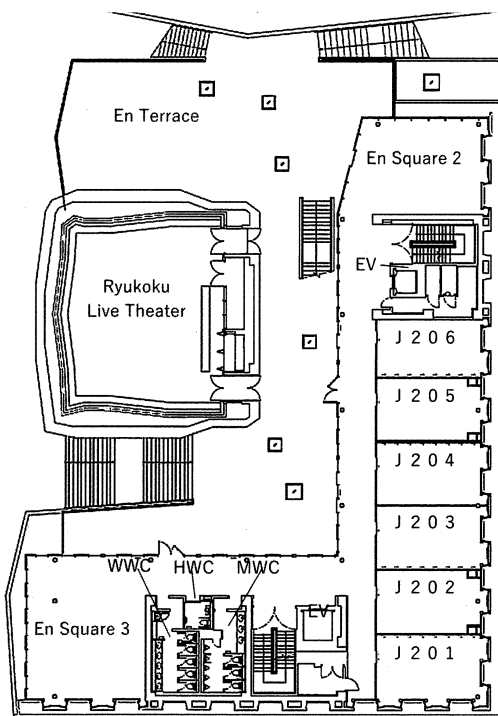
地下1階

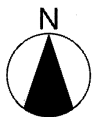


1 階

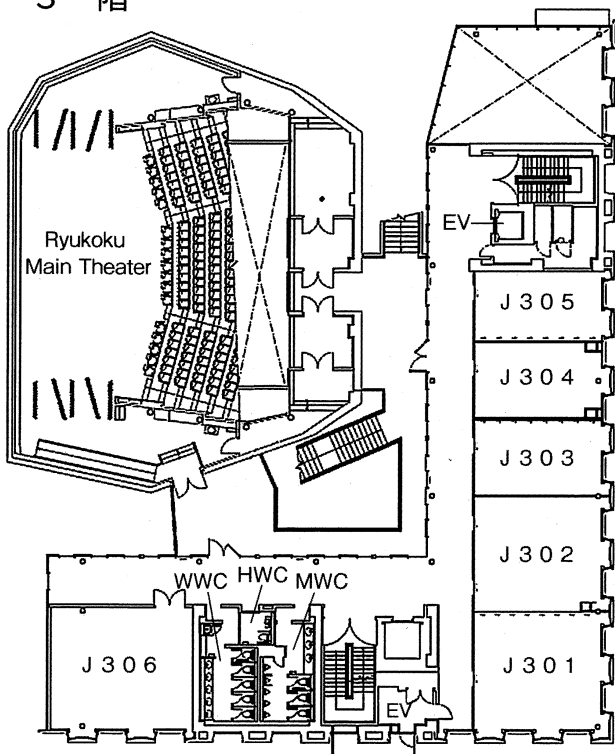


2 階

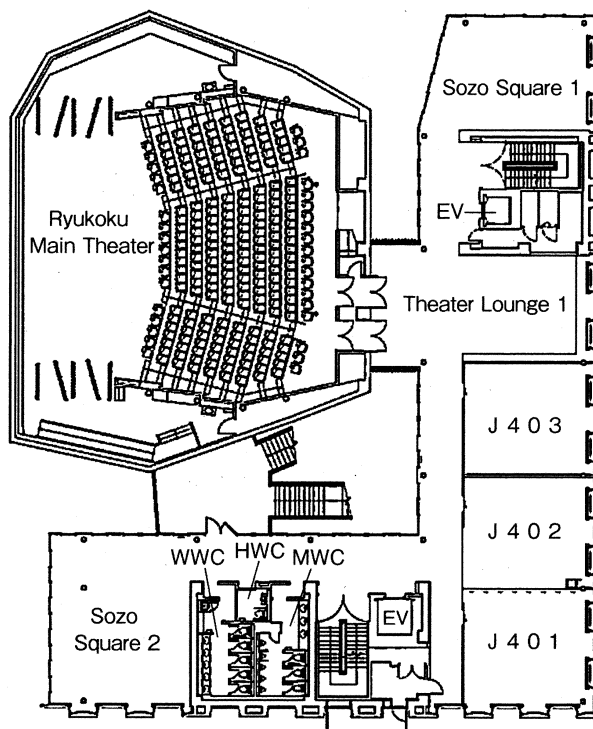




3 階

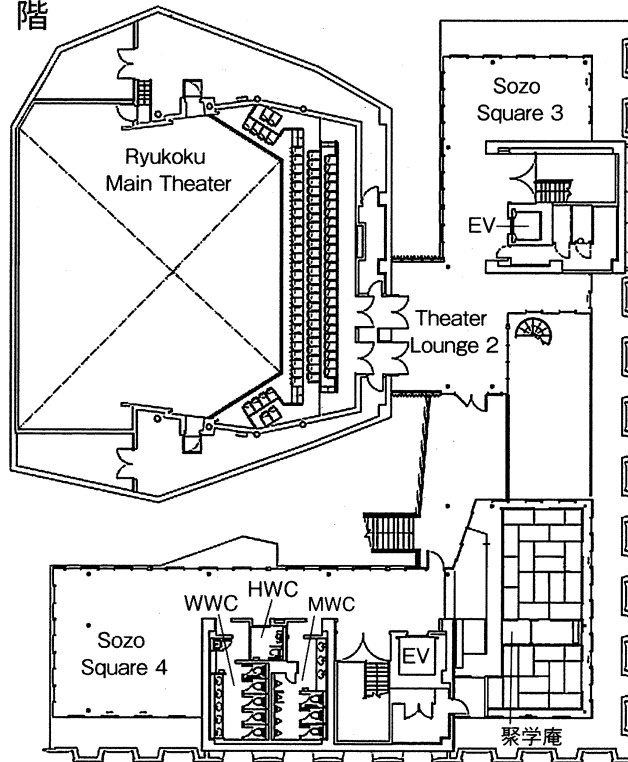


4 階



3階からRyukoku Main Theaterの客席には行けません

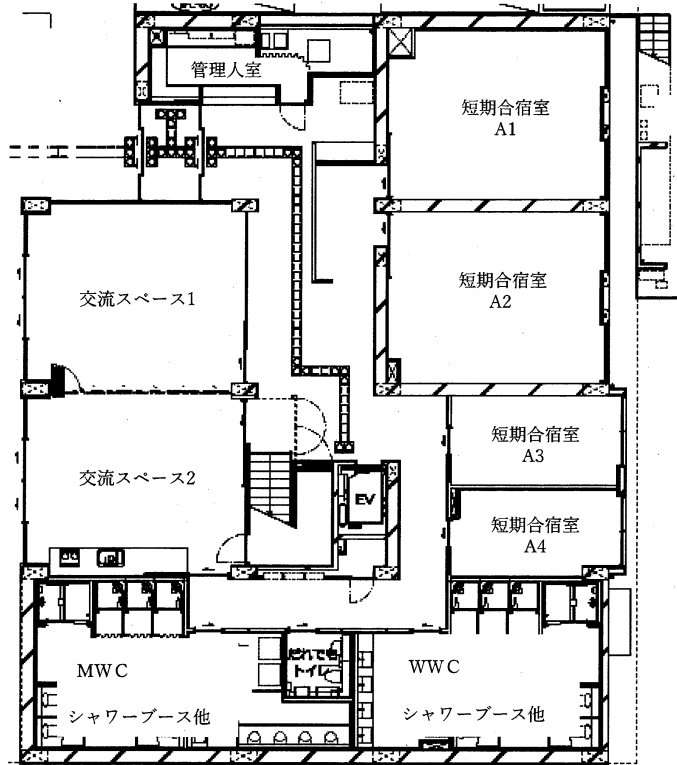
5 階



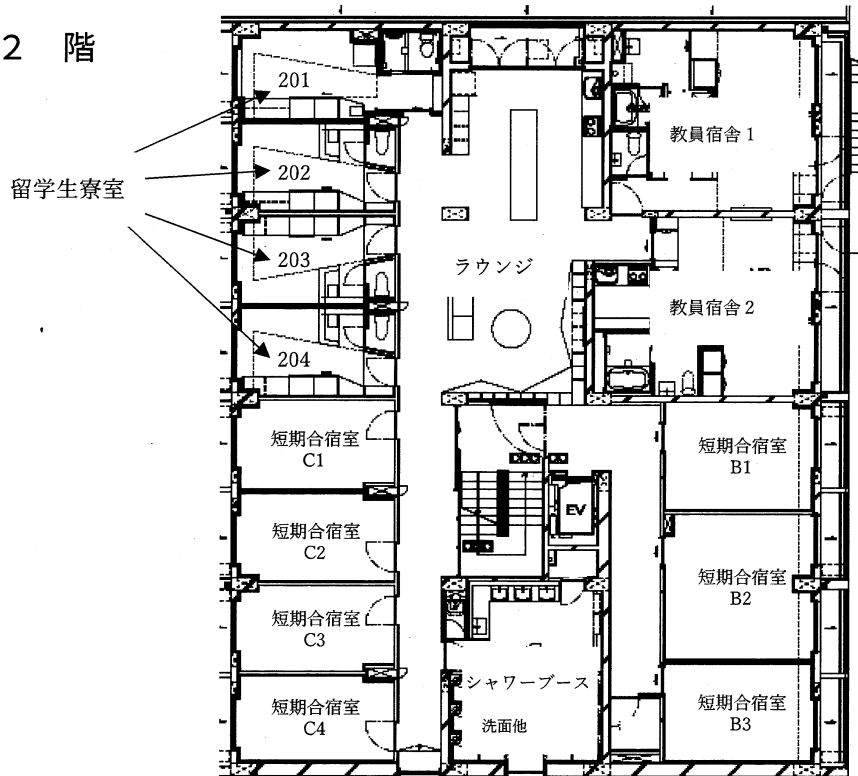


〈深草学舎〉 ミトラ館

1 階



2 階

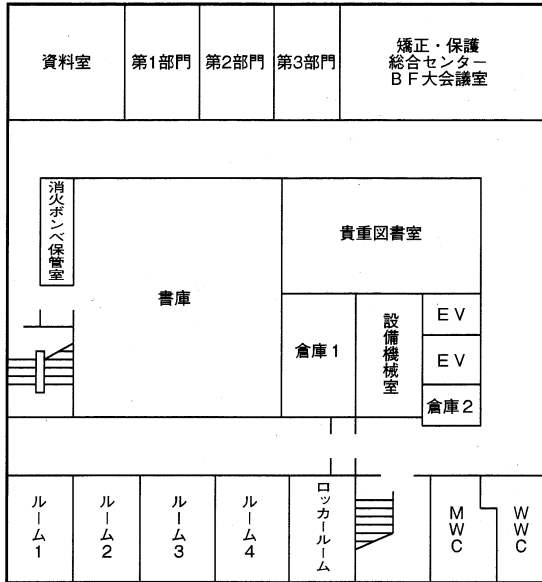


※3階から5階はすべて留学生寮室

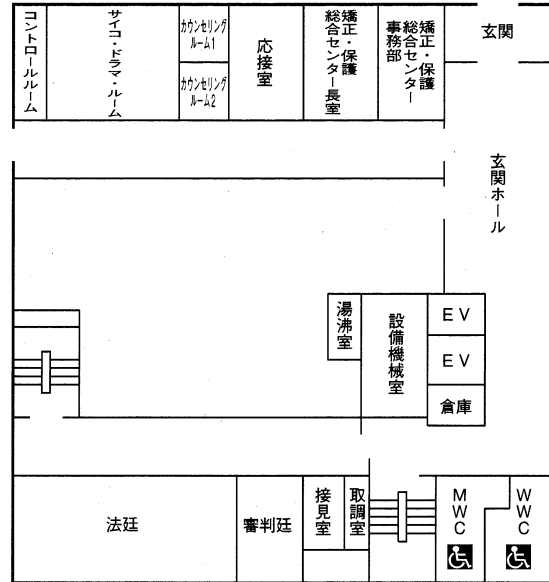


〈深草学舎〉 至心館

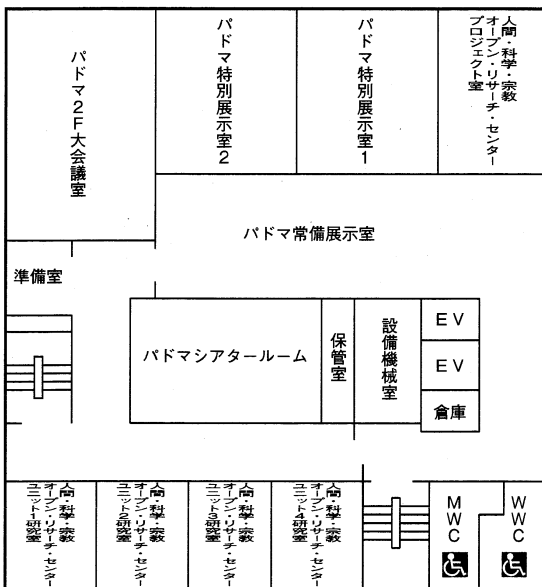
地下1階



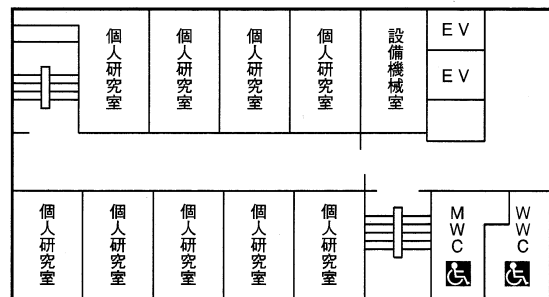
1階



2階



3階・4階・5階



履修の心得

教育課程

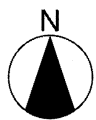
諸課程

学修生活の手引き

Q & A

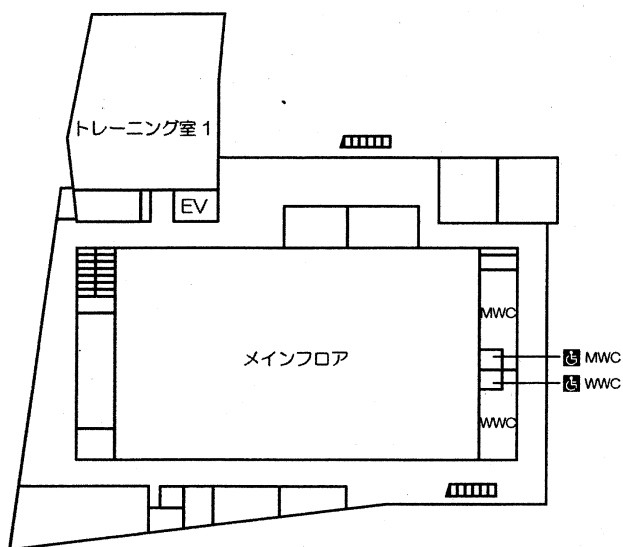
教員

付録

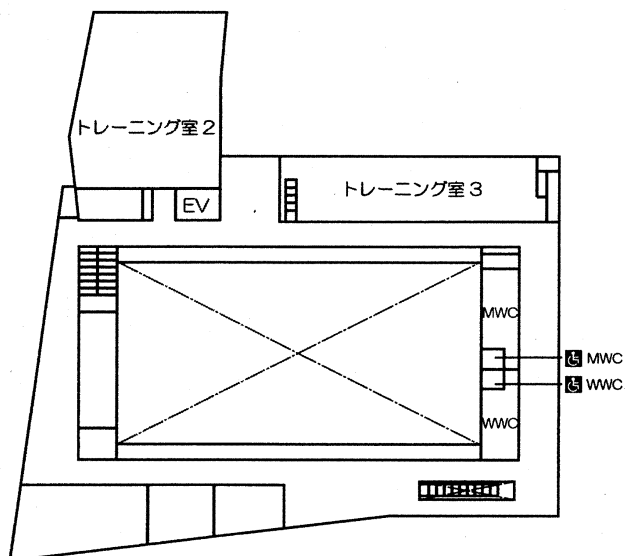


〈深草学舎〉 専 精 館

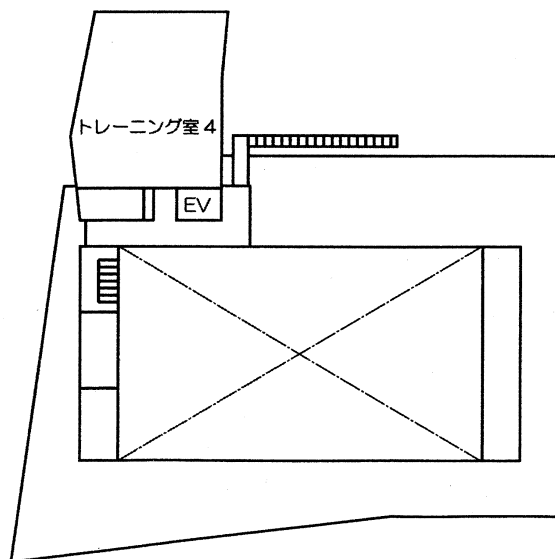
1 階

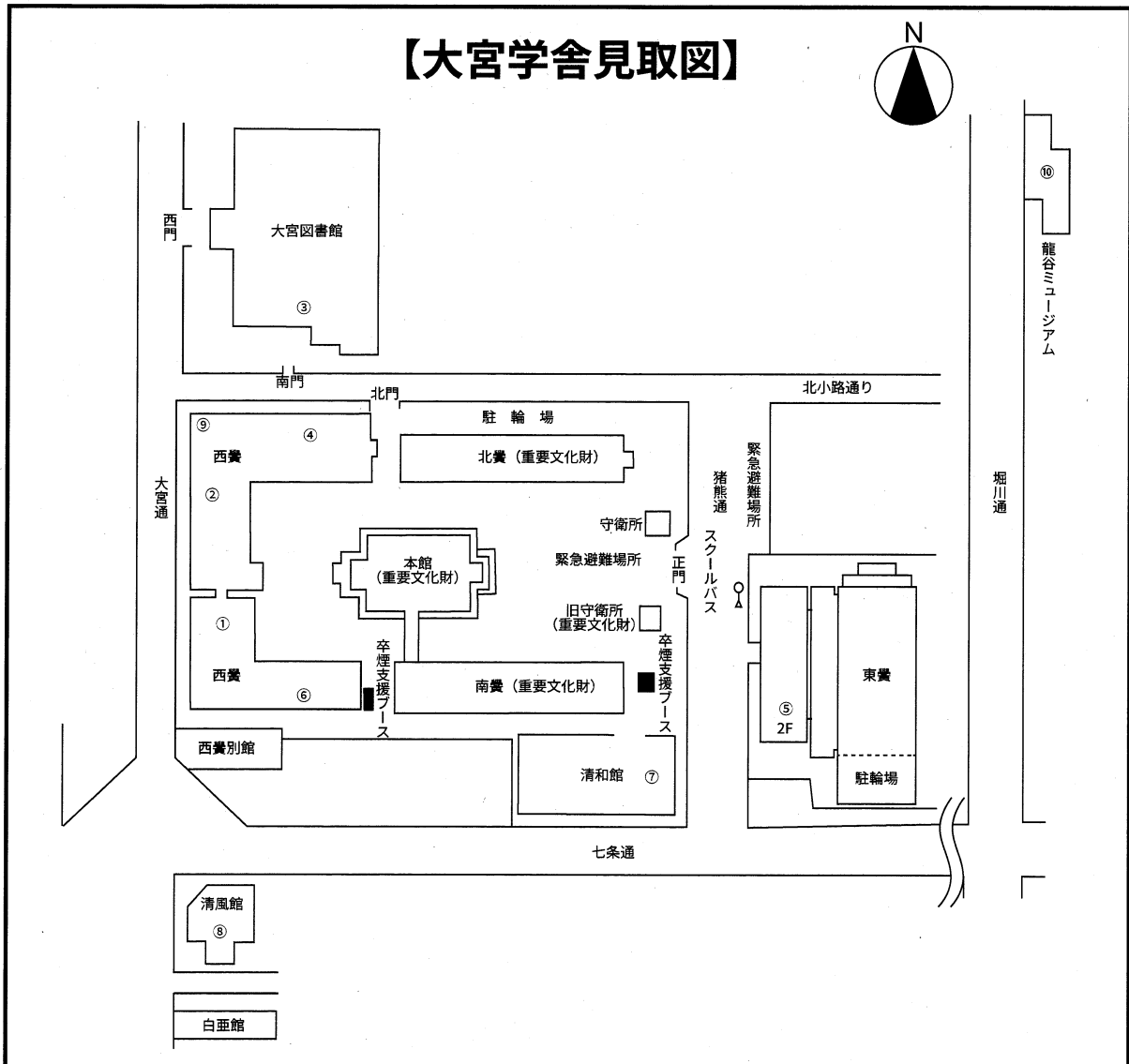


2 階



3 階





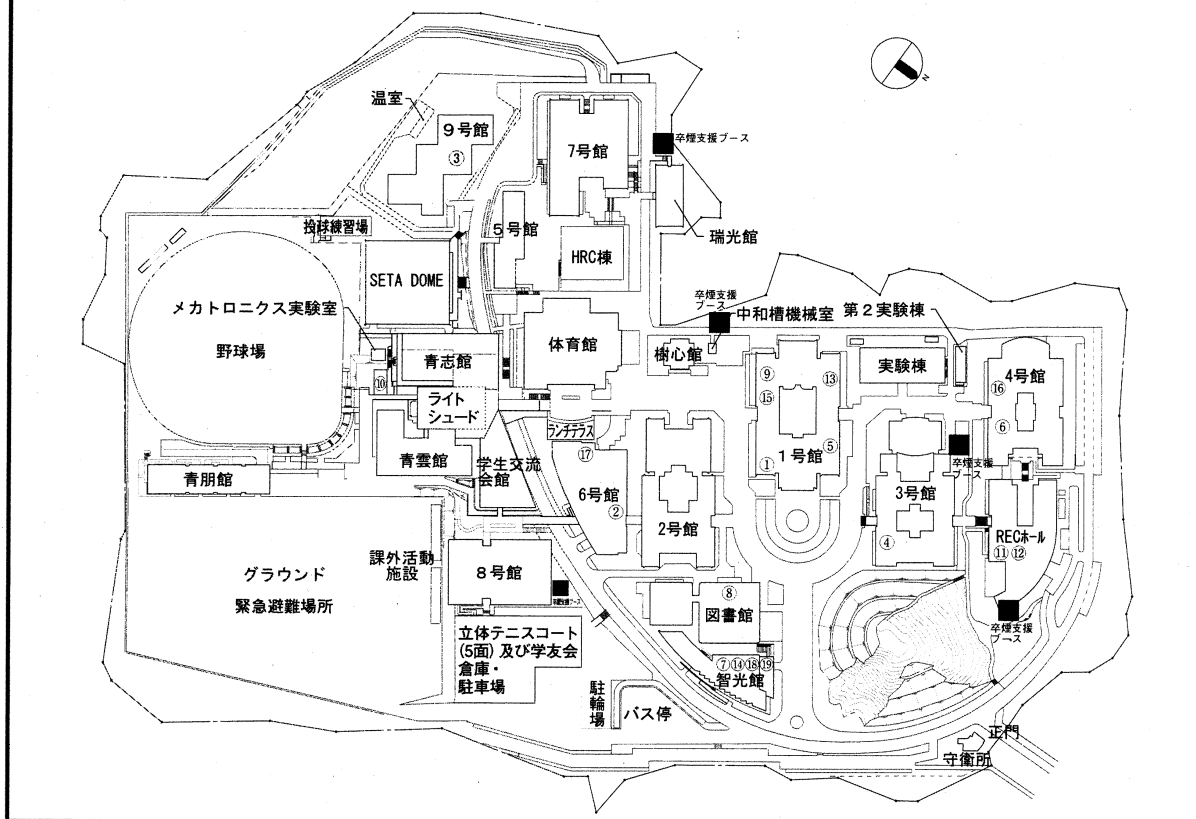
大宮学舎 〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1
 TEL 075-343-3311 (代表)

◆主な事務室連絡先

市外局番は「075」です。

部 署 名	事 例	ダイヤルイン	FAX
① 文学部教務課 心理学部教務課	文学部の科目に関すること 心理学部の科目に関すること 教材作成に関すること	343-3317	343-4302
② 講師控室	大学からの通知・連絡	343-3311 (代表)	343-3319
③ 図書館事務部 (大宮図書館)	図書館の利用に関すること	343-3462	343-3345
④ 教職センター (大宮)	教職課程に関すること	343-3302	343-4302
⑤ キャリアセンター (大宮)	学生の就職支援及びキャリア開発に関すること	343-3484	343-3485
⑥ 保健管理センター	診察、健康診断、健康相談に関すること	343-3322	343-3490
⑦ 生活協同組合	購買 (書籍、文具、チケット等)	352-3981	343-6428
⑧ 情報メディアセンター (大宮)	情報実習室、メディア機器の利用に関すること	366-0612	366-0613
⑨ 世界仏教文化 研究センター事務部		343-3458	343-4022
⑩ 龍谷ミュージアム事務部		351-2500	351-2577

【瀬田学舎見取図】



瀬田学舎 〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5
TEL 077-543-5111 (代表)

◆主な事務室連絡先

市外局番は「077」です。

部 署 名	事 例	ダイヤルイン	FAX
① 先端理工学部教務課	先端理工学部・理工学部の科目に関する事	543-7730	543-7749
② 社会学部教務課	社会学部の科目に関する事	543-7760	543-7615
③ 農学部教務課	農学部の科目に関する事	599-5601	599-5608
④ 瀬田教育学部 教養教育センター事務部 教職センター(瀬田)	瀬田学舎の教養教育科目に関する事。教職課程に関する事。教室に関する事。教材作成に関する事	543-7739	543-7674
⑤ 講師控室	大学からの通知・連絡	543-7770	—
⑥ 学生部(瀬田)	学生生活に関する事	543-7734	543-7889
⑦ 情報メディアセンター(瀬田) (メディア教材作成室)	情報処理実習室、メディア機器の利用に関する事 メディア教材作成に関する事	544-7287	544-7289
⑧ 瀬田図書館 (図書館事務部)	図書館の利用に関する事	543-7751	543-7769
⑨ 研究部(瀬田)	各種研究支援に関する事	543-7741	544-7195
⑩ ボランティア ・NPO活動センター事務部(瀬田)	教育研究活動とボランティア・NPO活動との連携に関する事	544-7252	544-7261
⑪ REC事務部(瀬田)	地域社会との交流、「産・官・学」連携による教育・研究活動の推進に関する事	543-7743	543-7771
⑫ 知的財産センター事務部	知的財産に関する事	544-7270	544-7263
⑬ キャリアセンター(瀬田)	学生の就職支援及びキャリア開発に関する事	543-7735	543-7780
⑭ グローバル教育推進センター(瀬田)	留学・国際交流に関する事	543-7672	544-7251
⑮ 瀬田事務部	瀬田学舎全般に関する事	543-7710	543-7729
⑯ 保健管理センター(瀬田)	診察、健康診断、健康相談に関する事	543-7781	543-7783
⑰ 障がい学生支援室	障がい学生支援に関する事	544-7216	543-7236
⑱ 生活協同組合	購買(文具、チケット等)	544-4111	544-4114
丸善	購買(書籍)	543-7777	543-5135

留学サポートデスクについて

グローバル教育推進センター(和顔館1F)には、国際学部留学サポートデスクがあります。留学経験のある日本人アドバイザー4名が担当しており、様々なサポートをおこなっています。

わからないこと、不安なことがあれば、何でも気軽に相談してください。



留学アドバイザーからのメッセージ

日本を離れ、新しい世界に飛び込むのはとても勇気がいりますよね。留学を実現するために必要なこと、それは情報収集です。留学準備の段階で不安を少しでも解消できるように、留学する時期、国や学校の選び方、留学願書の書き方、学生ビザ等各種情報を提供しています。また、留学前のサポートだけではなく、留学中の質問にメールで答えたり、留学後にはみなさんの自主的な語学勉強会をお手伝いしたりすることで、留学前から留学後まで一貫したサポート体制を提供しています。忘れられない留学経験を作り上げ、将来のステップになるよう、私たちが全力でサポートします！

学生支援・対応の方針(国際学部教務課)

1. 学生支援の方針

- 1) 学生が相談しやすい環境を提供します
- 2) 学生の意見を取り入れる体制を構築します
- 3) 国際交流を経験できる機会を積極的に設けます

2. 学生対応の方針

- 1) 常に丁寧かつ適切な対応を心がけます
- 2) ルールを守った学生を第一に考え、締切日等に遅れた学生への対応は、特別な理由が無い限り認めません
- 3) ルールや規則を破った学生に対しては、教育的効果が上がるよう継続した指導を行います
- 4) 教員や他部署と連携を取り、効果的な対応を行います
- 5) 留学生に関しては、分かりやすい日本語による対応を心がけます

2024年度
国際学部 国際文化学科 履修要項

2024年4月1日発行

編集発行 龍谷大学国際学部
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL 075-645-5645 (直通)
FAX 075-645-6444
e-mail world@ad.ryukoku.ac.jp

印刷 株式会社 NPCコーポレーション
